

# やまぎと

金沢大学ワンダーフォーゲル部・OB会

会報10号（'98冬号）

- ・40周年記念行事報告
- ・会計報告



41 森田	41 林	40 掛布	40 山崎	42 志賀	42 角谷	43 杉村	42 41 久保	43 加藤	42 43 藤前	42 43 伊藤	41 河村	41 竹内	17 宇野	15 高村	18 大西	15 舟田
41 谷本	43 阿納	40 上田	40 前川	40 中野	39 西田	38 三浦	41 佐藤	41 藤小	16 中野	20 久野	23 名倉	23 鳥越	34 松浦	15 奥名	13 吉田	23 名倉
		43 谷上	43 村松	38 橋本	37 柴田	13 石川	13 大島	11 上青柳	15 林尻	11 山内	15 間所	15 金井	18 樺川	13 名倉	12 大出	23 名倉
			41 得田	13 南	柴田	15 松林	15 松林	18 津島	18 津島	3 保田	3 鈴木	3 西尾	5 稻葉	13 名倉		

撮影 15期 松林 知一

## ワンゲル40周年に思う

顧問 前田 達男

日本経済がバブルに踊っていた頃は、キツイ、キタナイ、キケンな3Kで敬遠されていたワンダーフォーゲル部も、最近は2桁の新入生を迎えている。部員数も、硬式庭球部や合気道部と同じ40名代。体育会系サークルの平均よりも多い。とはいえ、80数名の部員を擁し、陸上競技部を抜いてトップの座にいたこともあるというのは伝説になってしまった。

4月新人歓迎会、5月新トレ高三郎、6月合宿トレ、7月夏合宿、8月PW&PW、9月小屋作業、10月秋休みPW、11月金大祭PW、12月冬合宿、1月新年PW・追コン、2月1・2年山行、3月春合宿、4月春休み犀奥PWと、絶え間のなかったワンゲル歳時記にも、所々空白が生じている。夏合宿から飯豊・朝日は姿を消したし、厳冬期甲斐駒・仙文の下山報告を聞かなくなって久しい。教養部の廃止で秋休みのなくなった今では、白山-ベルクハイムを計画することもままならぬであろう。かく言う私も、後立春山PWで気象係を務めるチャンスもなくなったし、PW随行という名目で剣・三の窓を再訪したり、槍穂縦走に便乗して西穂まで足を伸ばしたのも昔話になってしまった。

顧問という仕事は、団体結成届や行事計画に

判を押すこと以外は、何か困った問題が起こった時の一種の弁護役を引き受けることだと、自認している。だから、弁護士を生業としていた亡父とは異なって、困り事など生じないほうが顧問としての出番もなく、本業に励むことができるはずであるが、実はそうでもない。もちろん事故など起こって欲しくもないが、学生と若者は、元来、やんちゃなもの。仕事の邪魔をせぬようにと計画書の提出を控えたり、チャレンジ精神を引っ込める必要はない。やんちゃ心とそれをrefreshさせてくれる学生の存在は、この職業には欠かせないからである。

渡り鳥の元祖は19世紀末ドイツであるが、日本に来る渡り鳥はドイツよりもロシアであろう。40という数字は、ロシア語では20、30、50などと異なった表記であり、40(周)年祭は普通名詞化している。ワンダーフォーゲルの40周年は一つの区切りであり、また新たな出発でもある。中高年にカテゴライズされようとも、気持ちはいつまでも現役でありたいものである。

### 前田顧問の連絡先

(会報9号記載ミスにつき、ご訂正下さい)

☎920-0965 金沢市笠舞2-5-12

☎ 076-222-5587

FAX 076-222-5587

法学部 ☎ 076-264-5379

FAX 076-234-4067

maeda330@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp



左より  
前田顧問  
13期 大島OB会会長  
18期 椿川実行委員長  
15期 舟田事務局長  
23期 鳥越会計

# 金沢大学ワンダーフォーゲル部

## 創立40周年記念総会・懇親会

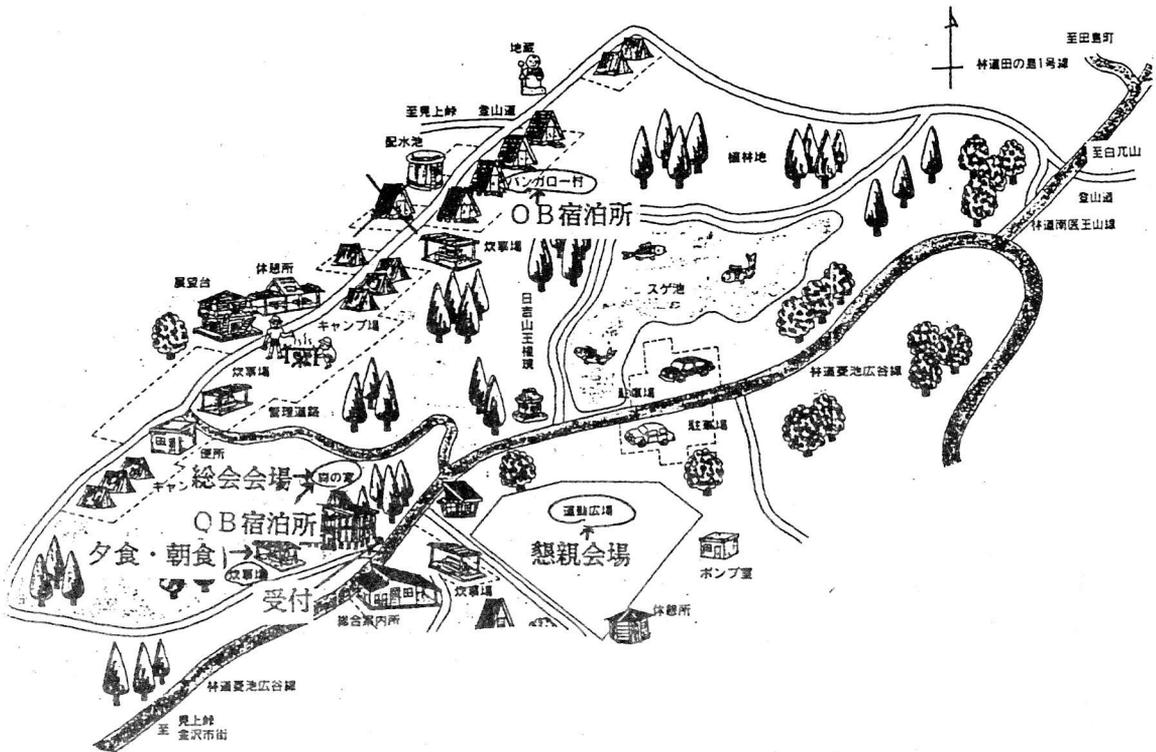
平成10年9月12日(土)・13日(日)

金沢市大菱池町 「医王の里」

日光を浴びよ 自然に親しめ  
浩然の気を養え 民謡を唄え  
山に登れ 伝説を取りもどせ  
祖国の土に芽くむ魂を思え  
そしてさらに  
身体を健全にし 厳格して自己を訓練し  
青春の精力を濫費するな

(創立モットーより)

### <会場配置図>





### 参加OB記念写真

(用事で早朝のうちに帰られた方もあります。)

撮影 41期 林 司

- |       |       |          |       |       |       |        |       |      |       |       |      |       |          |       |       |       |       |       |      |       |       |          |       |       |          |       |         |      |
|-------|-------|----------|-------|-------|-------|--------|-------|------|-------|-------|------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|----------|-------|-------|----------|-------|---------|------|
| 13 橋正 | 39 西田 | 15 松林 jr | 15 高村 | 15 奥名 | 13 大島 | 15 祖父江 | 13 南  | 6 池田 | 11 井上 | 13 柴田 | 3 田村 | 11 小山 | 3 鈴木     | 23 名倉 | 20 深田 | 18 椿川 | 11 青柳 | 18 大西 | 3 北  | 38 三浦 | 22 安井 | 8 小谷     | 16 山内 | 5 稲葉  | 23 名倉 jr | 38 西馬 |         |      |
| 15 松林 | 37 柴田 | 38 吉原    | 13 吉田 | 11 間所 | 38 橋本 | 38 宇根  | 15 坂尻 | 7 村田 | 15 金井 | 11 加藤 | 9 白井 | 9 保田  | 15 松林 jr | 17 宇野 | 11 井上 | 13 柴田 | 3 田村  | 11 森川 | 3 鈴木 | 15 佐野 | 16 小林 | 23 名倉 jr | 31 石倉 | 29 渋谷 | 34 松浦    | 15 舟田 | 3 田村 jr | 3 田村 |

## 40周年記念事業参加OB一覧

前田 達男 (顧問)	田村 昭夫 (3期)	鈴木 兵一 (3期)
西尾 皓史 (3期)	北 正昭 (3期)	稲葉 正己 (5期)
池田 進 (6期)	村田 泰恵 (7期)	小谷 太平 (8期)
保田 敦 (9期)	白井 勇 (9期)	青柳 健二 (11期)
森川 功 (11期)	小山 清 (11期)	加藤 忠好 (11期)
井上 史三 (11期)	大出 徹 (12期)	吉田 穂積 (13期)
柴田 訓子 (13期)	橋正 徹 (13期)	南 梅子 (13期)
大島 良治 (13期)	祖父江直久 (15期)	間所 新一 (15期)
松林 知一 (15期)	舟田 節子 (15期)	奥名 正啓 (15期)
佐野 哲雄 (15期)	金井 澄 (15期)	坂尻 忠秀 (15期)
中野 淳一 (16期)	山内 政司 (16期)	小林 健一 (16期)
宇野 和子 (17期)	椿川 利弘 (18期)	大西 正明 (18期)
津島 直也 (18期)	深田 進 (20期)	久富 象二 (20期)
安井 聡 (21期)	鳥越 伸博 (23期)	名倉 均 (23期)
渋谷 敏行 (29期)	松浦 真也 (34期)	石川 明弘 (36期)
柴田 祐介 (37期)	西馬 由岳 (38期)	三浦 永士 (38期)
小林 俊夫 (38期)	吉原 正敏 (38期)	橋本 征治 (38期)
宇根 悟史 (38期)	西田 秀輝 (39期)	小西 陽介 (39期)
川本 幸代 (39期)	岩倉里英子 (39期)	石倉 昭彦 (31期)
藤牧 康子 (37期)		

### ご家族の方

3期--田村 昭子・美樹 15期--松林由佳里・知恵里 高村千佳子  
 18期--津島 佳佑 祐希子 21期--安井 好子・尚美 23期--名倉 瑞紀・雅人

OB58名 ご家族11名 合計69名

9月12日 (土)

9月13日 (日)

15:00	会場設営・実行委員うちあわせ 小立野キャンパスへ配車	7:00	起床 朝食 山行参加者P分け
16:00	受付開始 (大人五千元、子供二千元) 総会資料、歌集、名札配布	8:30	散会挨拶 昼食配布
16:30	総会開会 (森の家二階)	9:00	記念山行出発
17:30	総会閉会 夕食	11:30	A隊下山 昼食 解散
18:30	跡片づけ 会場移動	14:00	B隊下山 解散
19:00	懇親会 (運動広場)		
21:00	懇親会閉会		

総会次第

(司会 椿川 利弘)

- ・開会……………椿川 利弘
- ・前期会長挨拶……………大島 良治
- ・顧問挨拶……………前田 達男
- ・前期事業報告……………舟田 節子
- ・前期会計報告……………鳥越 伸博
- ・次期会長選出……………大島 良治
- ・次期会長挨拶
- 会則改正
- 次期役員選出、役員紹介…
- ・現役主将挨拶……………佐藤豪一郎
- ・閉会
- 以後の予定について……椿川 利弘

懇親会次第

(司会 久富 象二)

- ・開会……………久富 象二
- ・ファイヤー点火……………現役
- ・開会の挨拶、乾杯……田村 昭夫
- ・各期代表挨拶
- 0-9期……………5期 稲葉 正己
- 10-19期……………15期 間所 新一
- 20-29期……………20期 深田 進
- 30-39期……………36期 石川 明弘
- ・アトラクション……………現役
- 有志OB
- ・ワングル歌……………
- ・閉会の挨拶
- 万歳三唱……………OB会長
- ・閉会……………久富 象二

\*懇親会は、雨の場合、ファイヤーを中止し、森の家二階を会場とする。

記念山行

医王山

\*13日朝食後に、希望参加コースを最終確認します。

\*しがら頸の駐車場が狭いため、医王の里-しがら頸間はピストン送迎とします。

\*雨天の場合、両コースとも、大池平散策、医王の里昼食に変更します。

< Aコース > OBチェック担当; 久富 象二 坂尻 忠秀

医王の里-しがら頸-白兀山-しがら頸-医王の里

9:00発 9:30 10:10 10:40 11:00 11:30 着 下山後昼食 解散

< Bコース > OBチェック担当 西馬 由岳 宇根 悟史

医王の里-しがら頸-大池平・三蛇ヶ滝-トンビ岩-白兀山-しがら頸-医王の里

9:00発 9:30 10:20 昼食 12:40 13:10 13:10 13:30 14:00着 解散

# 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会々則

(名称)  
第1条

本会は「金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会」と称する。  
(以下本会と称する。)

(構成)  
第2条

本会は金沢大学ワンダーフォーゲル部に所属した卒業生で構成する。

(目的)  
第3条

本会は会員相互の親睦をはかるとともに、現役部員の幅広い活動環境の維持を支援し、もって金沢大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

(行事)  
第4条

本会の目的を達成するため、次の行事をおこなう。

1. 会誌の発行
2. 会員名簿の整理
3. 記念行事
4. その他目的達成に必要な諸行事

(役員)  
第5条

本会の目的遂行および運営を円滑におこなうため、会員の互選により、次の役員を置く。

役員任期は5年とし、再任を妨げないものとする。

会長	1名
副会長	1名
事務局	局長 1名
	会計 1名
幹事	若干名

(連絡員、運営委員)  
第6条

本会の円滑な運営のため、会長の委託により各期1名の連絡員と若干名の運営委員を置く。

(顧問)  
第7条

本会の運営に必要な指導と助言を仰ぐため、顧問を置くことができる。

(機関)  
第8条

本会に次の機関を置く。

1. 総会
2. 役員会

(総会)  
第9条

総会は5年毎に開催するものとし、会長がこれを召集する。総会では以下の事項を決する。

1. 本会の会計に関する事項
2. 会則の改廃に関する事項
3. 本会の行事に関する事項
4. 役員を選出
5. その他、本会に関連する諸事項

なお役員会の決定により、会長は臨時に総会を召集することができる。

(役員会)  
第10条

役員会は第5条の役員をもって構成し、本会の運営に当たるため随時開催できる。

(役員補充)  
第11条

役員に欠員が生じた場合は役員会にて補充する。  
補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

(会費)

第12条

本会の経費は会員の納める会費と寄付金をもってこれに充てる。  
会費は年間 2000円とする。

ただし、役員会において必要と認めた場合は臨時会費を徴収することができる。  
なお現役部員の部活動にたいし、役員会の決定により、その費用の一部を本会の会費より充当することができる。

(付則)

本会則は平成5年8月21日より実施する。

本会の事務局は事務局々長宅に置く。

平成10年9月12日 第5条 改正



総会にて、

・OB会会則第5条改正を承認

・会計報告を承認

(当日は8月31日締めを集計をご承認いただきました。平成10年分までをご納入頂いておりますので、掲載は11月30日締めになっております。ご了承下さい。)

・以下の役員を承認

(今後ともご協力をお願いします。)

会長 奥名 正啓 (15期)

副会長 上馬 康生 (15期)

事務局長 舟田 節子 (15期)

会計 鳥越 伸博 (23期)

幹事 北川 隆次 (16期) 岡部 伸一 (18期) 梅 典雅 (19期)

久富 象二 (20期) 深田 進 (20期) 森恵利子 (22期)

名倉 均 (23期)

<山小屋酒場おやし 辰野 隆義 (13期) >

各期代表連絡員 (\*は新任)

1-3期 北 正昭	4期 鈴木 正国	5期 稲葉 正己
6期 合津 尚	7期 沢田 孝雄*	8期 山村 嘉一
9期 白井 勇	10期 山知 亮	11期 青柳 健二*
12期 赤地 賢一*	13期 大島 良治	14期 浅見 裕子
15期 坂尻 忠秀	16期 北川 隆次	17期 渡辺 和文
18期 椿川 利弘	19期 梅 典雅	20期 久富 象二
21期 大沢 安一*	22期 森 恵利子	23期 名倉 均
24期 麻田 正弘	25期 高橋 伸治	26期 藤田 章三*
27期 二木 博子	28期 浜本 信一	29期 高木 美保
30期 野田 和裕	31期 水腰英四郎	32期 小山 恵介
33期 奥出 俊一	34期 金田 学*	35期 吉田 稔*
36期 石川 明弘*	37期 柴田 祐介*	38期 吉原 正敏*
39期 老田 浩章*		



15奥名 18椿川 15舟田 23鳥越 20久富 20深田 23名倉  
 実行委員長と新役員（ほぼ留任）のみなさん

## 40周年記念事業収支明細

（平成10年9月12日～13日）

### 〈 収入の部 〉

会費（大人 05,000 小人 02,000）	309,000
カンパ（1期仙田さんより）	20,000
OB会より補助	333,884
計	662,884

### 〈 支出の部 〉

ワングル歌集作成費	279,000
宿泊費（医王の里）	73,310
食費（明細下記）	153,656
酒代	95,809
写真代	43,659
ガソリン代	6,000
名札	4,250
水代	7,200
計	662,884

### ○食費明細

夕食・朝食材料	49,327
オードブル・つまみ	33,879
第七ギョーザ	24,250
昼食（芝寿司）	46,200
計	153,656

# OB会会計報告

(平成6年1月1日～平成10年11月30日)

## 〈収入の部〉

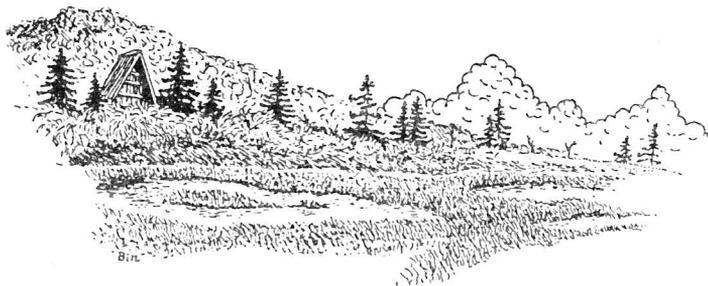
OB会費納入	3,695,000
ベルクハイムカンパ	422,000
寄付・その他	143,066
計	4,260,066

## 〈支出の部〉

OB会報(やまざと)	1,761,387 (9回)
現役小屋作業援助	250,000 (5回)
OB・現役3年懇親会	477,985 (5回)
春・秋の小屋酒場	217,797 (5回)
東海ワングル会(7年7月)	106,992
月見の宴(7年9月)	69,876
リフレッシュ会(8年5月)	224,088
ベルクハイム発刊(8年12月)	357,000
40周年記念事業(10年9月)	333,884
その他(連絡費・文具費等)	407,748
計	4,206,757

## 〈差引剰余金〉

35周年繰越金	707,169
収入の部	4,260,066
支出の部	4,206,757
剰余金合計	760,478



## OB会費納入者名簿

会報9号印刷原稿完成以降に納入いただいた方です。ご協力のほど有り難うございました。

夫婦会員は1名のみを記載

( ) 内の数値は、納入いただいた年数

( + ) は既納分があり、今回追加された年数

( & ) は規定分より多いため、右の数字を次年度の会費に充当いたします。

会計年度中に現役期間のある方の場合、以下のようにお願いしています。

36期…4年分 37期…3年分 38期…2年分 39期…1年分

桜井 登 (5)	富田 征也 (5)	高見よ志子 (5)	田丸 稔 (5)
宮本 則夫 (5)	小谷 太平 (5)	高水間淑子 (5)	高田 和守 (5)
向 幸子 (5)	赤地 賢一 (5)	河辺 憲次 (5)	菅田富士雄 (5)
田中 茂 (5)	伊藤 直和 (5)	井上 敏明 (+2.5)	山田 容子 (+2.5)
小間 八郎 (5 & 5)	松岡 創 (5)	佐倉 正樹 (+3)	館 幸士郎 (5)
横山 寿人 (+4)	滝本 民夫 (+1)	竹内 和彦 (+3)	黒岩 達夫 (5)
石本 一鶴 (+1)	細田 晴美 (5)	辻村 善徳 (+4)	難波 利行 (+3)
荻生 一美 (+3)	萩野 生男 (5)	宮崎 俊郎 (5)	新谷 孝夫 (5)
西村かおり (5)	小島 裕子 (5)	蒲原新太郎 (4 & 1)	新倉 崇之 (4 & 1)
藤牧 康子 (+2)	若山 悟 (+2)	佐川 貴久 (2)	友野 克利 (2)
西馬 由岳 (2)	橋本 征治 (2)	三浦 永士 (2)	小西 陽介 (1)
西田 秀輝 (1)	岩倉里恵子 (1)	川本 幸世 (1)	



## 40周年記念事業を 終えて一言

実行委員長 18期 椿川 利弘

一応実行委員長という肩書でしたので、総会の司会が無事できるか、キャンプファイヤーの点火がうまくいくか、記念山行の日は晴れるかなどなど、それぞれが終わるまで心配でした。そういう意味では、滞りなく終了できて、大変うれしく思っています。これもひとえに、他の実行委員や現役の皆さんの協力によるものです。

しかし、自分が参加者の立場になって考えてみると、年齢の離れたOBと現役に話し易い場はあったか、食事はおいしかったか、山行の後の懇親会の方がよかったのではないか、同伴の子供達は楽しかったかなど、反省点を数えあげたらキリがありません。

次回については、総会でも意見のあったように、場所や時期も含めて世話をするOBがやりやすいようにやるしかないようです。しかし、今後ますますOBが増えることや全国に散らばっていることを考えると、総会、記念山行、懇親会（現役との親睦を含めて）を一時にやるメリットとデメリットを考え、どこかにポイント

を絞っての開催という考え方も、また一案であるように思います。

とにかく今は終わってホッとしている反面、写真の懐かしい顔を見て、みんなともっと山の話をするばよかったと思っています。

参加された皆さんどうもありがとうございました。

（编者注；この原稿は、実行委員長の最後の仕事とばかり、きわめてスムーズに送っていただきました。その後に大出さんの事故が occurred しました。

OB  
記念山行では少数派の、同じBコースであり、ともに土木科の出身でもあり、今回の行事を通して彼が一番よく話したOBが大出さんだったそうです。まさかこんなことになるなんて…と40周年の印象が塗り変わった面持ちでした。

事故を知る前に原稿を寄せていただいた方の分を含め、ここに大出様のご冥福を祈らせていただきます。）



前列左より 6池田 5稲葉 12大出 二列目 3西尾 3北 3鈴木 3田村 あと略

## 創立40周年記念行事を終えて

主将 41期 佐藤 豪一郎

今年はワンダーフォーゲル部創立40周年ということで、記念行事も無事終わることが出来、正直ホッとしています。

最初は、仕事が少ないという安易な気持ちで引き受けた主将職でしたが、今年は節目の年に当たり、貧乏籤を引いてしまったかなと思っていました。しかし、終わってみれば達成感でいっぱい、やってよかったと思っています。

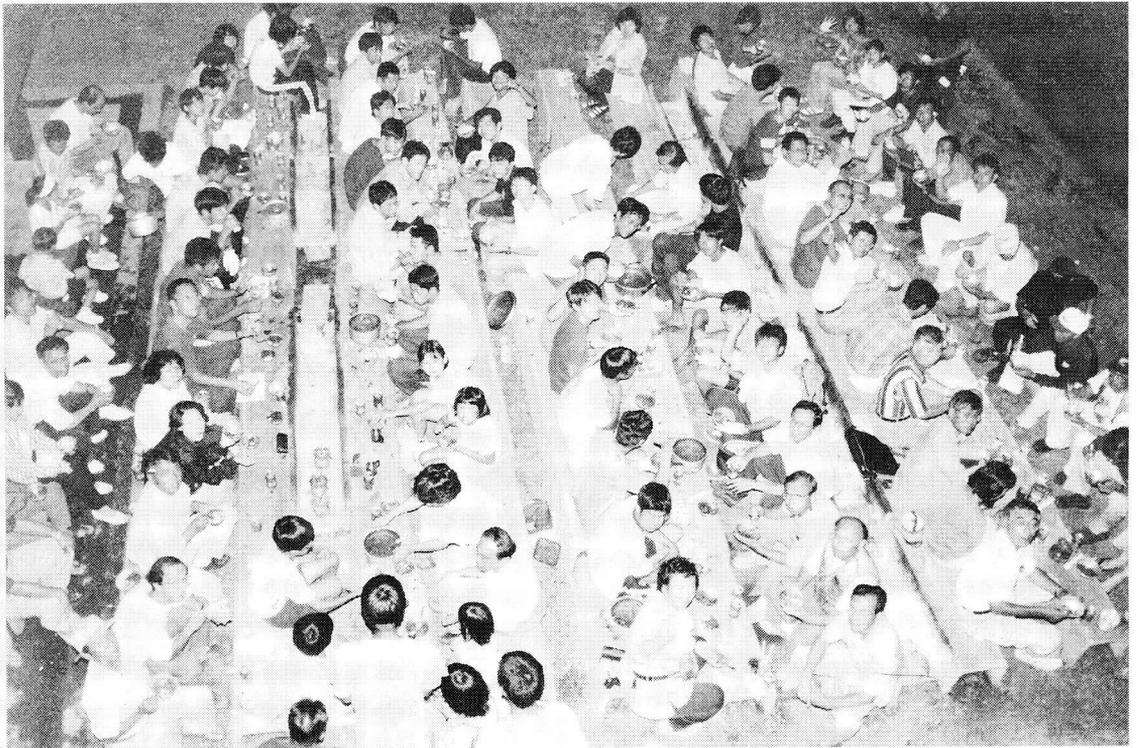
今まで、現役からすれば、OB会といえば少し煙たい存在であり、OB会からすれば、口を出したいけれど口を出し過ぎても、というような曖昧な関係であったと思います。実際私自身も、1、2年時の高三郎登山整備において、なるべくOBとは深く関わりたくないと思ってい

ました。そんな中での記念行事であったので、果たしてうまくいくのだろうかと考えたりもしました。

普段接する機会のない現役とOBで、ほとんど初対面であったわけですが、それぞれの交流という意味においては大成功であったと思います。私も現役も、数多くのOBの方達と話をすることが出来、今までのOBのイメージとは違ったOBを知ることが出来、とても有意義でした。

一部、芸において、少々危険なものがありましたこと、現役を代表してお詫び申し上げます。

次回45周年に再びお会い出来ることを楽しみにしております。



壮観の夕食風景。カレーの匂いがしてから「肉を忘れたー」と買いに走る場面も…。ワンゲルらしい!?

## OB会の新世話人として 新OB会会長 15期 奥名 正啓

クラブが発足して40年。40年前といえば私が小学校1年生の頃でしょう。当時のことなどあまり記憶にはありませんが、テレビなどの電化製品は一つもありませんでしたし、家の中を見回してもあるものは和ダンスとちゃぶ台ぐらいのものでした（我が家が貧乏という説もある）。そんな時代に我がワンゲルが産声をあげていたことを思うと気が遠くなりそうな昔のことのようにも思えます。今では家の中にはものがあふれ、ゴミの日には大きなゴミ袋をかかえて捨てに行かなくてはなりません。残しておかなくてはならないものより捨ててしまわなければならないもののほうが多いような気さえます。

40年という歳月が世の中を大きく変えましたが、ワンゲルにとってはどうだったでしょうか？ 様々な人たちがここに集まり、ともに過ごし、そして別れていった。そのともに過ごした4年間は40年前も今も変わらぬ私たちの一つの基盤になっているのではないのでしょうか。田村さんをはじめクラブ発足当時の熱い思いは今でも脈々と受け継がれているに違いありません。こればかりは世の中がどう移り変わろうとも変わることなく未来へ引き渡していきたいものです。

さて、OB会はというところはやっと5歳の誕生日を迎えたところですよ。OB会としての歴史はまだ始まったばかりと言っていいでしょう。持ち上がっては消え、また持ち上がっては消えたOB会も5年前に堂々オープンし、途中で消滅するどころか数々の行事、会報、現役への支援、山小屋の充実と多岐にわたって活動が繰り広げられてきたと思います。それまで貯めてきたエネルギーが臨界点を越えてひとつ上の励起状態に遷移したようです。これもOBの皆さん一人一人の情熱、現役諸君の行動力、OB

会長の大島さん、事務局の舟田さんをはじめとするスタッフの皆さん、前田顧問らの力によるものです。こうして一つの形ができあがったOB会もその維持運営にあたってはいくつかの課題ももちあがっています。OB会は利益追求集団でも、統一された思想集団でもありません。現役の頃を思い出して下さい。お互いを認めた中でそれぞれがそれぞれに言い合い、優しい自然に包まれるようにワンゲルという世界にいたことを・・・。

時は今を遡ること1年、私たち15期は伊吹山の中腹で年に1度の15期会を開いていました。幹事は持ち回りで、原則としては北陸地区とその他の地区とで交互に催すことにしています。そのルールに従って次回、すなわち今年は北陸地区ということになりました。

「来年は金沢でやろう」

「40周年記念の年でもあることだし」

「じゃあ、来年は奥名やれよ」

「ワンゲル40周年と兼ねてやったら！」

「うーん、やろうか」

これまで幹事役をなんとかさけてきたが、ここに来て順番に当たったことが後々OB会長を引き受けることになる道のりの出発点だった。

秋の小屋作業。いままさらトイレなんか必要なのだろうかなどと思いながら、いつまでも変わらぬ静かな倉谷の秋に時を忘れる。

年が改まって「あまつぼ」で新年会。前田顧問が大学のホームページに関する委員をしていることを耳にし、OB会のホームページを作ることを宣言。

40周年に向けて役員会にも参加。15期会を便乗して行おうというだけの魂胆だったのにいつの間にか役員のような事になってしまった。

長野冬季オリンピック終了直後の野沢温泉でのOBスキー合宿。などと言った具合にどんどんOB会にはまりこんでいった。

40周年記念行事があるていど目鼻がついた

頃、次期役員のことも話題にのぼるようになった。5年間初代の会長として重責を果たした大島さんに引き続いてお願いするのが順当なところ（そんなに年老いたわけでもないの）。ここで要らぬ事を言ってしまったために結局会長を引き受けることになってしまった。

「OB会長・役員は任期が5年もあるので順繰りに次の世代に引き継いでいった方がいいのでは・・・」

以上のようないきさつはありましたが、OB総会でもふれたとおり孤立無援でこの金沢にやってきて、暖かく時には厳しく（厳しい方が多かった）育ててくれたワンゲルにたいして、少しでも借りを返そうと思っていたことも事実です。

これから5年間のテーマは発足時と変えるつもりはありません。さらに実のあるものとし、一人でも多くの人たちが積極的に参加出来るようつとめていきます。

#### 1. 現役の活動に対する支援

特に事故などの非常時に人的にも金銭的にも支えとなれるようにする。その為にはOB会の組織や連絡網をしっかりと作り出すことが必要です。

#### 2. OB・現役相互の親睦をはかる

これまで行ってきた行事あるいは企画は継続して行う。

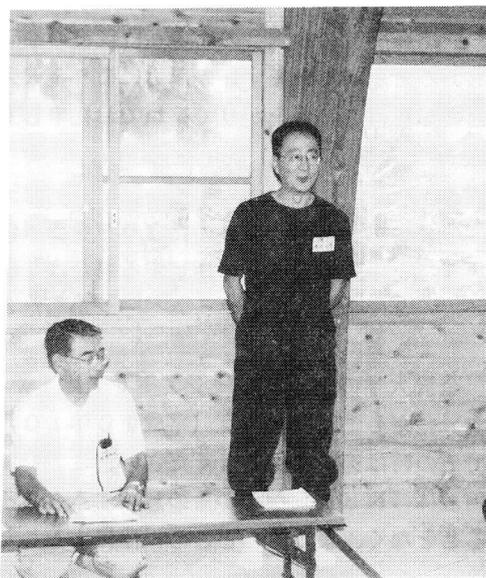
- ・会報「やまざと」の発行
- ・小屋酒場（春・秋）
- ・スキー合宿

現在では山小屋「ベルクハイム」の利用頻度が低く、私たちワンゲルのひとつのよりどころとしてもっと活用したいと思っています。いまはどうか知りませんがかつては部室にも山小屋にも「らくがき帳」がありました。pwへのお誘い、愚痴、怒り・・・思うままに書きつづったあの「らくがき帳」のOB版をホームページにしようと思っ

ています。つまり部誌「Bergheim」は「やまざと」へ、らくがき帳はホームページへ衣替えです。

できればさらにもうちょっと気軽な催し物を開けたらとも思っています。

これからも事務局・幹事・各期連絡委員のかたには何かと時間を割いていただくこともあるかとは思いますが、やればやっただけの充足感を味わえるのも事実です。5年後のOB総会・45周年には今回以上のたくさんの人たちの「ようっ」という声が聞かれるよう皆様のご協力をお願いいたします。



前会長13大島 新会長15奥名

## ホームページ開設のご案内

今年の新年会でホームページの開設を宣言し、2月頃から少しずつ体裁を整えてきました。まだまだ内容的には不十分なところが多く、構成や見栄えといった点でも今ひとつとあったところではありますが、これから徐々に育てていくことで尚一層のOB会の活発化にもつながるのではないかと考えています。

このホームページはOB間の情報の交換を最大の目的としています。かつて部室の真ん中のテーブルの上には「らくがき帳」がありました。そこには、とりとめのない話しや愚痴・嘆き・激励、事務的な連絡、パーワンへのお誘い、トレーニングのこと、授業や試験のこと、アルバイトのこと・・・様々な人生模様が繰り広げられていました。そんな「らくがき帳」のOB版を再現しようと思っています。そのために皆さんからのOB会への意見や要望、あるいは近況などのお便りを是非送ってください。さらに飲み会やPW（PWとまではいかななくてもお出かけ程度でも）の企画お誘いなどもでてこないかと期待しています。

また、インターネットの通信費の廉価性、迅速性、それに今後ますます普及してくることが予想され、連絡網としても十分利用できるものと考えています。

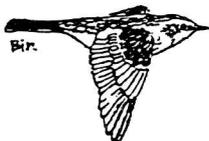
現在OB会名簿にはメールアドレスの欄を設けてあります。今後メールアドレスを取得された方は、住所変更連絡と同じように同期連絡委員を通じて事務局までお知らせください。

前田顧問（OB総会の席で私は現役の顧問という発言がありましたが、OB会の顧問でもあると思っています）の尽力により金沢大学のホームページからリンクをはることができました。この場をかりて重ねてお礼申し上げます。

OB会ホームページへのたどり方を簡単に説明します。

1. 直接アドレス指定する場合は [www.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/](http://www.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/)
2. 金沢大学のホームページからたどっていく場合は、以下の通りです

金沢大学のトップページアドレスは [www.kanazawa-u.ac.jp](http://www.kanazawa-u.ac.jp) で以下の画面が出現します。ただしこれは現時点（平成10年10月）でして、いつ変更されるか分かりませんのでその時は適当に探してください。ここで「Now」のあたりをクリックしてください。何故に「Now」なのかその意味するところはさだかではありません。ここは深く詮索することなく、また他のところに浮気することなく、無条件に「Now」へ進みます。



ツグミ

- 金沢大学総合案内
- 催し物・ニュース

[English Page](#)

- [What's New!](#)
- [入学案内](#)
- [キャンパスライフ](#)
- [卒業生のページ](#)



創立50周年

- [国際交流情報](#)
- [電子情報](#)
- [附属図書館](#)
- [学部・部局等](#)

- [地域との交流広場](#)
- [金沢大学の顔](#)

ここをクリックする

アパート検索  WWW検索



このページは金沢大学「公益ホームページ」専門委員会が作成し、管理しています。【更新日1999/5/11】  
右長押しでの操作がありましたら、E-mail: [pub@kanazawa-u.ac.jp](mailto:pub@kanazawa-u.ac.jp)、又は FAX: 076-234-4010 までご連絡ください。  
金沢大学の各種業務に関する総合・専門情報は、こちらへお願ひします。

「Now」をクリックすると以下の画面が現れます。

**KANAZAWA UNIVERSITY**  
information  
金沢大学  
大学案内 1999  
金沢大学学生部  
920-1192 金沢市角間町  
TEL. 076-264-5177~9

平成11年度  
入学者選抜に関する要項  
金沢大学学生部  
入試選入学試験係  
920-1192 金沢市角間町  
TEL. 076-264-5177

新しい「金沢大学要覧」がで  
きました。(平成10年7月発行)  
庶務部庶務課・国際交流課  
TEL. (076)264-5019  
FAX (076)234-4010  
[general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)

平成10年度  
東海北陸地区大学放送公開講座  
テレビ講座受講案内  
21世紀日本への展望  
- 社会・環境・医療 -

平成10年度  
東海北陸地区大学放送公開講座  
ラジオ講座受講案内  
21世紀に向けての法  
- 生活に役に立つ法 -

金沢大学教育開放センター

**Now!**  
総合情報処理センター  
の風景  
(画像をクリックして下  
さい。)

- 大学教育開放センター (公開講座)
- 事務局 (アカデマス ニュース)
- 文学部 (広報)
- 法学部 (おしらせ) 日本の法律
- 工学部 (おしらせ・ご案内)
- がん研究所 (What's New?)
- 附属図書館 (掲示板)
- ディソーツ総合センター (掲示板)
- 総合情報処理センター (更新情報)
- 50周年委員会 (ニュースレター)
- 附属幼稚園 (新着情報)
- 附属高等学校 (最新のニュース)

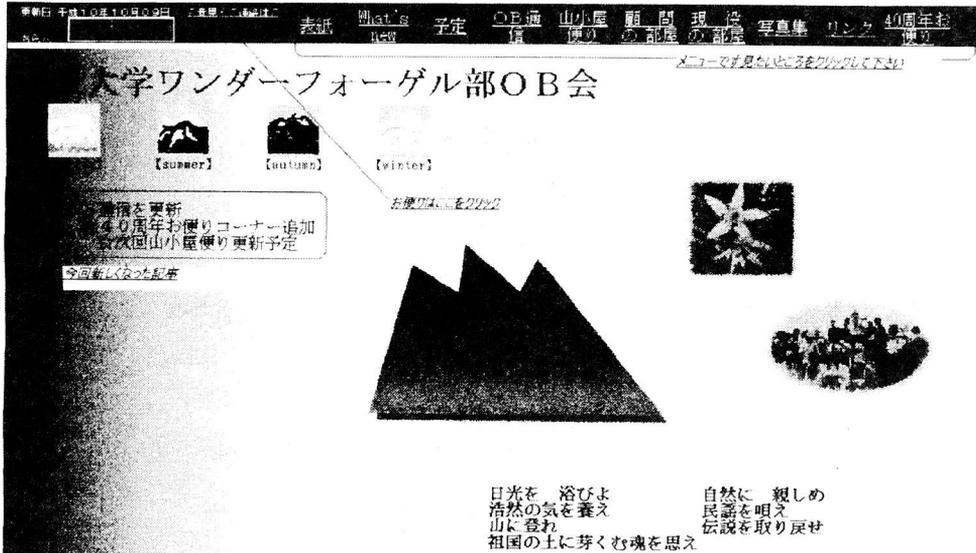
- 学生サークル紹介
- ソフトテニス部
- 水泳部
- 陸上競技部
- 演劇部 (ホート部)
- ラグビー部
- 
- サッカー部
- テニス部
- フィルハーモニー管弦楽団
- 書道部
- 鉄道愛好会
- ラジオ・オーデオクラブ

ここをクリックする

- 大学の顔
- 角間版大学案内
- 大学紹介ビデオ  
(城内版)
- 留学生のエッセイ
- 今月号 (第二回)
- 先月号 (第一回)
- 人の顔
- 新入生の顔
- 卒業生の顔
- 金沢大学中央  
バス停乗車案内

1999年 5月30日(日)  
 国際市民シンポジウム

ここで「ワンダーフォーゲル部」のあたりをクリックすると、わがOB会の表紙画面が現れます。



表紙：OB会の表紙です。新しくなった項目や更新予定

What's new：新しい出来事や話題

予定：OB会行事の予定

OB通信：OBの皆さんからのお便りや行事報告

山小屋便り：山小屋「ベルクハイム」の様子や活動状況

顧問の部屋：顧問独自の禁断の部屋です。まだ未公開

現役の部屋：現役サークル活動のページへ link（現在あまり内容がない）

写真集：山や花を中心とした Gallery。写真を送ってください（デジタルで）

リンク：他の大学のワングルホームページへ

特集：今回は40周年記念行事へのお便りを載せてあります

\*会報10号は従来のスタイルでお届けしますが、今後については未定です。年1回は死守しますけれど、年1回+@を状況に応じて...ということで。資金難というより、まず原稿の少なさ（あいつぐ督促にも関わらず一身に覚えのある方も多はず。そして各代から万遍なくの希望も願望のまま）。さらに、引き継げる程度の事務量に落としていきたい為です。

\*事務軽減で最有力がインターネット。奥名会長だからインターネットになるのか？インターネットの伏線があって奥名会長になったのか？ともあれ、彼がハイテクOB会をめざして、公私混同の奮戦をしてくれています。今後の5年、そんな試行錯誤をやっていきます。尚、最大のネックと思われた事務局長の方は、とりあえず機器は購入し、やる気満々です。（もちろんまず節税の為。小馬鹿にした野郎共に、突然mailを送り込むのが、ささやかな且つ陰險な夢！）

\*OBスキー合宿 2月27、28日 春の小屋酒場 5月第2・3土日のあたり  
既参加者には連絡葉書を出します。初参加希望の方は、事務局へお問い合わせ下さるか、ワングルホームページをご覧下さい。  
部室の戸を開けたら、PWチラシが下がっていて、机の上には落書帳があった...あのシーンを再現させていただきます。  
(事務局より)

## 共催の40周年

事務局長 15期 舟田 節子

「根回しの上手な舟田さん」と役員紹介で紹介してもらいました。まずは講辞のうちと解釈させていただきます。座右の銘とする言葉の中に（あの…学研の教室に掛けてある日めくりカレンダーが出所です…）

<仕事には、綿密な計画と段取りが必要。

不十分な計画は、人も時間も浪費する>があります。

時間…この不思議なもの。哀しみ苦しみを癒してくれもするけれど、大切にしたいものにも忘却の埃を積もらせていきます。

$0 \times 365 = 0$  しかし、 $1 \times 365 = 365$  これは「学習習慣が大事です」の営業に使う数式です。 $E = m^2$ よりはるかに生々しい数式。すなわち「やる」×「時間」＝「実績」

無いのが当たり前になっていたKUWVのOB会に根をはやす、今度こそ「忘却の時間」ではなく「実績を重ねていく時間」とする…それが事務局長の信念でした。

しかしながら多忙のOBが、どれだけの時間を割けるか？となるとこれはもう厳しい現実があるわけでして、「仕事」「家庭」「地域住民としての立場」「親戚づきあい」他もろもろのノルマ。×「時間」はあえなく粉碎され、「計画」も「段取り」も、電話一本でパーになるのが常でありました。そんな中で、役員会通信を発行し、役員会を開き、会報を発行し、いくつかの企画を実行してきました。

そして迎えた40周年。前回のように、わざわざ記念事業としての寄付金を募ることもなく年会費の中で諸経費を納めました（参加者は食費実費のみ）し、諸連絡も会報中で行いました。

かつて、記念行事にあたった現役は、OB住所の確認をし、立案し、連絡を出し、それらの費用を参加費に上乗せして参加OBからは高す

ぎると苦情を言われ…。記念行事は余りに現役にも負担多く、楽しめる交流とは言い難いものでした。なぜ記念行事をしなければならないのか？何を目的に開催するのか？「〇周年だから」「慣例だから」以外の答えがなく、せっかくの交流の機会が、貧乏籤を引いたで終わってしまいました。25周年のように、直後にOB会設立運動が提言された年もあります。が、その代が卒業してしまうと沈静してしまいました。

現役が卒業すればOBになる…これは当たり前前のことすし、仲間、先輩、後輩との付き合いをかけがえのないものと思うなら、そんなご縁をもたらしてくれたワンゲルに多少なりのサポートを行う…これも当たり前前のことと思えます。何も特異なOB会を作ろうと言っているのではない。あって当たり前前自然体のOB会なのです。もちろん世話役は自然体とは構えていられませんし、皆さんに会費という協力もお願いしなければなりません。

そんなOB達の集まりのOB会があって、現役とともにワンゲルの創部〇周年を祝おう…これが本来の記念行事と思えます。

OB会役員が連絡を行い、主な経費はOB会全体会計から出て、現地での行事運営は組織をもつ現役が行う。一緒に祝う「ワンゲルのお祭」それが〇周年記念行事。

今回、そういった意味での「共催」を初めて行えました。ファイヤーで一つの輪に肩を組み合った時、やはり感激しました。ワンゲルがあってこそ繋がった輪…。いろんなご縁が重なって、そう、何か他にあっても繋がることはなかった…くすしきご縁で今日この地で輪になれたのは、40年前ワンゲルが誕生したから。

ワンゲル創部40周年、万歳！

（尚、私、参加OBの皆さん全てのお顔とお名前を一致させる事ができました。初対面の方でも、所属期と同期他のデータで識別。若手OB

の方は、小屋作業、懇親会で見ていますし、会報や金沢市への作業報告で何度か名前を打つと、誰は何期と覚えてしまいます。

参加者が到着する度、「わぁー元気？」と、それは楽しい思いをしました。時間を山ほど使い、迷惑気な顔の現役と折衝する時には、こっちも気後れしない訳ではなく、若干慣れたかと思うと、また次に交替。砂上の楼閣のような仕事と思わずありませんでした。しかし、その分こんな時には楽しめて、こうやって次々と新

しい人達が入ってくるのが何よりのワングルの魅力とも思います。

5年前、できる限りOBを覚えようと思いました。「あんた誰？」じゃ、事務局は務まらない。将来のOBである現役も、現役で顔の見れるうちに覚えようと思いました。

40周年。全員を「識別」できて、写真配りもそれは楽でした。ニンマリ。やったぜ！

しかし…次の瞬間気付きました。これじゃあ誰も代わりはできない！次は誰に頼めばいいの？)

3田村 38小林  
コバヤンお約束の…。

「写って」いたのも、あるとかないとか…。



## ハダカおどり考

0期 田村 昭夫

口下手で無芸な私に出来る、最高の自己表現はハダカおどりです。おどりは人の心を酔わせます。そして喜怒哀楽を表現する最適手段です。特に、喜びを表すにはハダカおどりが一番です。

女おどりの場合はさておき、男おどりの時には準備体操（シゴキ）が必要です。下半身の血行を良くする為です。最近「バイアグラ」と称する薬が出来、便利になりました。

キン大ワングル四十周年記念事業の一環として、ハダカおどりの新流派を起こしてみても如何でしょうか。家元は舟田女史にお願いし、お囃子はワングル社中の皆さんで、四十五周年に学長出席のもとにお披露目するというシナリオはどうでしょう。燃えさかる焚火に、光輝くキン大ワングルの老若男女の群像乱舞を想像すると、下半身が疼きます。

そして、ハダカおどりは、全員参加が原則です。一人で踊ると、次の日の朝、自己嫌悪に落ち込むのが常です。（これは私の長年の経験から云えます。）

今回のように皿を使用するのは邪道です。ハダカおどりは丸出し、スッポンボンが正統であることをお忘れなく。皆様の益々の御研鑽を期待いたします。

評論家の故・扇谷正造は云っています。「人間は、痴気・稚気・知己を持たねばならない」と。痴気、稚気が丸出しの知己達のハダカおどりこそおかしけれ。あなかしこ、あなかしこ。

\*元祖ハダカおどり：天の岩屋前での天宇受売命（あめのうずめのみこと）のおどり。高天の原の八百万の神を喜ばせた。（古事記）

## OB代表挨拶

0-9期代表 5期 稲葉 正己

OB総会並びに、40周年行事が盛大に開催されたことを、心からお祝い申し上げます。

今春、今後のOB会の運営に関して意見を伺いたく、同期の会員と電話で話す機会を持ちました。表現こそ異なるものの、それぞれの青春の1ページにワンゲルがあり、OB会から発信される情報でそのページが現在の自分に繋がっていることを確認できることに感謝している会員がほとんどでした。

申し上げるまでもないことですが、40年の歴史の中で、5年間間断なく活動が継続したのは今回が初めてです。

その陰には、大島会長、舟田事務局長をはじめとする前役員への献身的な努力があったわけであり、ここにあらためてお礼を申し上げる次第です。と同時に我々会員はこの事を認識し、役員負担を少しでも減らすことを心がけ、次の総会と記念行事につなげなければなりません。

新役員皆さん、大変ご苦勞をおかけすることになるかと思いますが、よろしく願い致します。

本日はおめでとうございます。



5 稲葉

18 津島

津島jrs

松林jrs

10-19期代表 15期 間所 新一

(音響設備悪く、かなり聞こえにくかった挨拶とは別に)

久々に昔に返りました

## OB会40周年記念行事

「やまざと」や時折の小屋酒場の便りに刺激され、9月12日、新幹線を乗り継ぎ、懐かしい金沢の町にやってきた。

駅から武蔵ヶ辻、香林坊、かつては名鉄ビルだけがよっきり建っていたのが、今では高層ビルが珍しくなくなっている。同期の松林君が勤める北国新聞社のビルもいふう堂々とした新社屋に変身している。大和デパートの所で、よくコンパをした魚半を思い出しながら、中央公園前から錦町行きのバスに乗車。偶然にも、ご家族とともに同じOB会参加の田村大先輩にお会いする。

工学部前から、同期の坂尻君の車に乗ってもらい、一大住宅地に変貌した田上のごみ焼却場跡地を越え、医王山へ。医王の里には既に多くの現役、OBが集まっておられた。13期の大島さん、穂積さんなど、お世話になった先輩をはじめ、懐かしい同期の顔、名前を言われてもなかなか思い出せない人、初めて見る現役などなど。

17時からOB会総会。大島会長、長い間ご苦勞様でした。新入りの頃の主将で工学部の先輩。お金がない時、工学部の学食でうどんをおごってもらい、帰りのバス賃まで頂いたこと、忘れていません。次期役員は、奥名会長、上馬副会長、舟田事務局長で決まり。うん…これってみんな15期。というわけで、華の15期の思い出を少々。

華の15期は昭和45年4月入学。当時のワンゲル部室はもちろん金沢城址の中。

最初50名近くいた同期は、高三郎の新トレで、倉谷河原の石をキスリングに一生懸命詰めてくれる先輩の「優しさ」で一気に減ったものの、何とか20名が無事卒業。最近では年1回、欠か

さず家族ぐるみの同期会を実施中。

結束の方さはお墨付き(?)なので、OB会もきょうまくいくでしょう。

我々がいた昭和40年代後半のワンゲルというと、まず医王山の新歓に始まり、高三郎の新トレ、白山での合宿トレ、アルプスでの夏山合宿、秋のパーワン、加越国境での冬合宿、医王山での新二トレ、そして白山での春山合宿まで、おおよそ年間50-60日は山に入っていたように思う。当時の白山はまだ四塚辺りでもテントを張ることができ、弥陀ヶ原も棚など無く、どこでも自由に歩ける、そんな時代であった。

一年の締め括りの春山合宿は、青柳新道を使っている白山御前峰アタック。当時は春山に参加できるのは男性部員だけ、それが当たり前と考えられる時代であった。いろんな議論をした後、我々15期の時から春山に女性も参加できるようになった。15期の紅一点舟田さん(事務局長)の春山に対する熱い情熱が当時の執行部を動かした結果であった。

などと思い出しているうちに、総会も終了。いよいよお楽しみのキャンプファイヤーとなった。医王山の夜風を肌を感じながら、現役諸君の元気一杯のスタンツに圧倒され、田村大先輩の踊りに感心しつつ、久し振りに山の歌をカ一杯歌った。ファイヤーの後も、昔のワンゲルと変わらず、車座になっての夜おしの酒盛り。

あっという間に過ぎてしまったけれど、本当に楽しい二日間でした。OB会役員、現役の方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。



9月12日に医王の里で開催された40周年記念行事で、10期毎の代表の一人としてしゃべることになった。

しかし、屋外の広い輪の中で、拡声器の音も通りにくい状態。先に話された二人の先輩の状況を見るにつけ、これはまともに話をしていたのではダメだなと思い、

「みんなー。山に登っているかー」

と、精一杯の声で問いかけた。

が、反応は今ひとつ。とにかく、自分が今も山に登り続けていることと、日本百名山と言われる山々が、開発によって登ることのできない山(もちろん、車で登ることはできるが)に成り下がっていることをわめき散らして、自分の席に戻ったのだった。

山から離れてしまっている人の方が多いであろう中で、自分の話が伝わったのだろうか? いや、そんなややこしいことは考えずにおこう。今日は久し振りの顔が集まったのだ。

世代別にグループが出来ていく中で、ワンゲル2世代の加藤親子、田村さんと〇〇君(すみません、お名前を失念してしまいました)の露出狂?踊りの競演が、印象的であった。

それから、現役生の中に公認のカップルがいて、二人の態度があけっぴろげなのには圧倒されてしまった。世代のギャップと言えはそれまでだが、我々の時代は、良く言えば公私をわきまえて。要するに、裏でこそそととやっていたものだ。同期の妻を持つ僕としては、彼等の行く末の幸せを願わずにはいられない。

とにもかくにも、山を続けていようがいまいが、懐かしい顔を見て、タイムトラベルをしたような束の間の一晩だった。また5年後にお会いしましょう。

ダ スライドウシー フストゥリーチ

左15間所 右20深田

## 40周年記念行事に

### 参加して

30-39期代表 36期 石川 明弘

先日の金曜日、阪神×巨人戦を甲子園で見て参りました。

実は私、甲子園で阪神戦を見るのはかなり久しぶりで、バースがいた頃なのでかなり昔です。金沢市民球場で年に数回行われる阪神戦はかなり見っていますが、やはり球場の雰囲気は、「甲子園」独特のものがあっていいものです。

とはいっても、伝統の阪神×巨人戦のチケットが当日買えるくらいの空き様で、熱気ムンムンのライトスタンドではなかったのが残念です。「行ったからには、応援するぞっ！」と社内の同僚とメガホンを2つずつ購入し、ビールを飲んでスタンバイ完了。静かに腰を落ち着け、観戦する「おじさん社員」をよそに、かなり派手にはじけてしまいました。

ゲーム内容はかなりスリリングな展開で、シーソーゲームの末、阪神が勝つという結果で、六甲おろしの大合唱が、ゲーム終了後響き渡りました。

夕食のカレーの席で、34期の松浦先輩、

「みんなおしゃれやな。湘南のサーファーといっても通用するぞ。」

確かに現役の皆さん、おしゃれな格好で、おしゃれな髪型で、我々の現役の頃とは少々匂いが違う。

「確かに。われわれ(30期代)の通常のノリで走ったら、やばいかも。」

我々の前に座った二人の現役の人々は真っ黒で、聞けば能登半島一周サイクリングで日焼けしたそうで、かなりいい色をしていらっしやる。話は進んで、今年の夏合宿の話や、PWの話で結構盛り上がり、我々の結論としては、

「でも、やってることは一緒やんけ。」

「このあたりから、我々のペースで持っていても通用する自信が。」



36石川 34松浦

そして夕食も終わって懇親会。

「松浦さん。俺、挨拶なんですよ。手伝って下さい。」

「あ、まかせとけ。」

4人のOBの挨拶の最後が私で、前の3人の方が声が全く聞こえず、現役の反応も悪い。皆をあっといわせる「ネタ」もなく、結局は一気でお酒を飲むことに。

さて、40周年記念行事では、30-39期の代表として以下のように挨拶させていただきました。文章化すると26才の挨拶とは思えん内容ですが、

「現役のみなさん、カレーライスありがとうございます。」

5年前にも同じく挨拶をさせていただきましたが、覚えておられますか？今日は飲みましょう！勢をつけるため、私、コップ一杯のお酒を一気に空けさせていただきます。」

そもそもこのOB会が発足したのは、36期の蒲原良太郎君が、剣岳で滑落した事件(剣岳事故報告書参照)が直接の引金で、現役だけでは到底対処できない事故のバックアップが主な目的で発足しました(と、私は認識しています)。しかしながら、毎年我々33期から37期までのOBは8月末に剣岳で追悼山行に集まっているため、この40周年行事にほとんど出席しないという皮肉な結果に結びついています。

それまで5年毎の記念山行はOB会とは全く別のカテゴリで行われてきており(OB会という組織なし)、30周年記念山行までは白山で、現役によるOBご招待の記念山行が行われたようです。35周年記念行事で初めて、OB会と現役が協力した形で記念山行が計画されましたが、「悪天候のため、山行は中止」という形に終わ

っています。それから5年後の今回、見事にOBと現役がリンクした形で「40周年記念行事」が実行されたと私は認識しています。

これからOBの数は減ることなく増え続け、5年毎の記念山行を実行するのも、現役だけでは負担が大きすぎるでしょうし、あってはならないことですが、事故はいずれ今後の山行で起こってくるでしょう。

現在のこの体制ならば、学生だけでは到底対処できない事故にも対応できるでしょうし、金銭面でも充分なバックアップができるでしょう。こういったことは、社会人として2年過ぎ、振り返って改めて思うことであり、現役の頃、その有り難さを十分認識できないでいたことは言うまでもありません。

懇親会も終わって、0期田村さんを囲んでの質問大会。「しらふ」でこんな事、とても言えません…というような内容でしたが、当の本人も気にしていなかったようですし（本当はどんなのだろう?）、まあ、お祭ということで。

「5年前、福島から歩いてくるっておっしゃってましたが、どうなったんですか？」

「今年は家族も一緒だしな。」

「なんで0期なんですか？」

「ワングルが発足した頃の人々の代を遡っていくと、3期、2期、1期、0期な訳で…。」

「懇親会ではくもの>が丸見えでしたが、よろしいんですか？」

「…。」

「今年は家族の方が来られてますが、いつもの調子で突っ走って大丈夫なのですか？」

「当然。」

「やまざとで、ドイツ語は読めません。」

「ハハハ。」

みんな、この時点で結構酔ってました。ちなみに0期田村さんの別れの挨拶は

「アウフ、ウィーグセン。」

さすがは我等の田村さん。

バンガローでラストスパート。ある酒はほとんど飲んで、現役の方、OBの方、皆さんゲロゲロ吐いて終了。体に悪いのは分かっていますが、なぜか皆さん飲んでしまわれるようで。

翌日は山行に参加せず、眠たい目をこすりながら北陸自動車道を走ってました。45周年では皆さんどうなってるのでしょうか。

### 3期 鈴木 兵一

楽しい思い出ありがとうございます。写真いつ撮ったのか気付かないものが多く、驚いています。それにしても頭がうすくなったものです。でもファイヤーの時は青年に戻りました。とりとめない原稿ですが送ります。よろしくお願ひします。



3北 3鈴木 3西尾

「あんた3期じゃないの?」「0期なの」田村

この度は40周年山行に参加させていただき、ありがとうございます。思えば医王山は私にとって、懐かしい第二の故郷の山です。

この山の思い出はたくさんありますが、初めて訪ねた頃のことを思い出して書いてみます。

## 医王山と湯原さんのこと

小松空港を出て車窓に広がる景色、そぞろ歩きの街並み。そして医王山の森と林。これらがまるで昨日までずっとここにいたかのように、全く違和感のないことに驚きました。それらの空間に身を置くと安らぎを感じるのは、何故なのだろうか。

42年前の1年生の春、初めて医王山を訪れました。俵の部落でバスを下り、見上峠まで歩きました。アプローチの萌える新緑の輝きを今も覚えています。

峠の小屋には気難しそうな、すごく顔の黒い人がいました。それが湯原さんでした。

医王山の話を始めると目が輝き、次々と世界一のこの山の自慢話が飛び出しました。この山には汚れない森林がある。かけがえのない美しい四季がある。厳しく神聖な岩がある。滝が落ちる池と川がある。ここには山の魅力のエッセンスが全部詰まっている。少年のような純真さで話す湯原さんの話に、夜の更けるのを忘れしました。

以来私はこの山に魅かれ、春夏秋そして冬もここを訪れました。ある年の山日記を見ると、1年を通じて60日もやってきたことがありました。冬は小屋に泊まり、薪割り、保存食の整理、雪かたづけ等を手伝い、無料で泊めてもらい、春や秋には床下に泊めて貰ったものです。

冬、湯原さんと山頂から小屋まで直滑降で滑り下りたことがありました。湯原さんのスキーは戦争で痛めた足を調整するため特製のものです、片方が高くなっていました。これは勝てると思いき、スタートしたのですが、アツというまに姿が見えなくなったのには驚きました。

40年を経た今、記念碑の前に立つと、卒業が決まり金沢を離れる前の2月、涙ぐんだ笑顔で渡してくれた、手作りのワカンの感触が蘇ります。山の環境が変わり、訪れる人は変わっても、山の持つ独特の〈気〉は変わらない筈です。湯原さんは、変わらないこの〈気〉の中で、愛したこの山を永遠に守り続けるものと思います。

さて私の近況ですが、昨年7月、憧れのマッターホルントレッキングの夢が、40年ぶりに叶いました。ツェルマットに4日滞在し、快晴に恵まれいろいろな方向から山を見るため、2500mのお花畑を歩き回りました。

## 3期 西尾 皓史

昭和33年(1958年)の、或るうららかな春の日の午後、田村、鈴木という二人の会津若松出身の青年の呼び掛けで、教養部の尾山食堂二階に集まった。これが、金沢大学ワンダーフォーゲルクラブの誕生であった。

それから40年を経過した今、クラブ発足当時の活動の拠点であった医王山で、40周年記念事業が催され、大勢のOB、現役が一同に集い、しばし、賑やかで楽しいひとときを過ごすことが出来た。大きな感激であり、喜びであった。(大島さん、舟田さん、椿川さん、本当にありがとう。)

ワンゲルの生みの親である、田村、鈴木の両兄とも、ご老体であるにも関わらず、現役時代の情熱をそのまま持ち続けており、全く変わっていないし(進歩していない?)、これに続くOB諸氏も皆若い。3期から39期のいろいろの年代のOB諸君と話す機会があったが、年代の相違を全く感じることがなかった事が嬉しい。

13日、記念山行が終わって、食事して解散後、鈴木、北、西尾の3人は、発足当時の思い出のワンデリングコースである能登半島へと足を向けた。一緒に行く予定であった田村兄は、記念

山行のAコースをBコースに突然変更してしまったので我々と別行動になり、何処へ行きついたか分からない。(予定通りに行動しないのが田村兄)

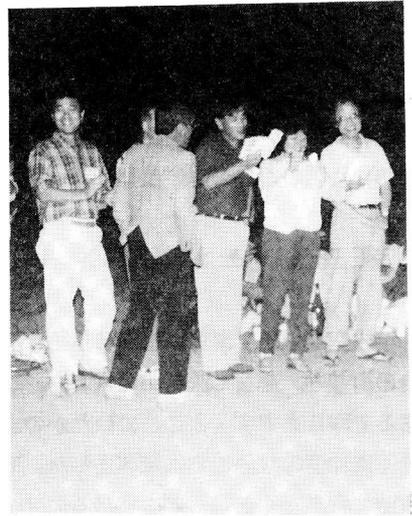
昭和33年6月(だったと思うが)、能登半島一周ワンデリングをやり、曾々木海岸、狼煙灯台、九十九湾でテントを張って、満天の星を眺めながら、歌い、そして吠えた事が、昨日の出来事のように懐かしく思い出される。40年後の今再び、能登の地に足をつけて、能登の澄んだ空気を体一杯に吸い込みたい、そして40年前の感激を今一度味わいたいと云う気持ちで能登の地を訪れたのだから、能登一周ワンデリングするには残念ながら時間がない。やむなく、北兄の高級車で、能登ドライブという事になってしまった。

夜は和倉温泉で、前日からの汗をサッパリと流し、能登の「宗玄」と美味しい海の幸に舌鼓をうち、充実感、満足感のなかで、眠りにつきました。

14日朝、能登島に渡り、水族館でクジラ、イルカの見事な芸に感動し、帰りには13期の柴田さんに紹介してもらったPetit Hotel"WIND"を訪れ、コーヒーを頂いて来ました。"WIND"は17期の小島幸子さん(旧姓 野村さん)のお姉さんが経営しているホテルですし、経営者も大変素敵で、暫し話に夢中になって時を忘れました。OBの諸君も、機会があれば、是非利用されたら如何でしょうか。(場所：能登島水族館近く、バス停「曲」すぐ前、☎0767-84-1758)

「新しく物事を作るより、出来上がった物を維持管理することの方が難しい」と言われます。

大島さんはじめ前役員の方には心から感謝するとともに、新会長の奥名さんには、今後の頑張りを期待しております。また、舟田さんには引き続きOB会事務局長として、益々辣腕を振るって、皆さんを強引に引っ張って行って頂きたいと思っております。今後ともよろしく願います。



9保田 8小谷5稲葉7村田6池田  
9白井

6期 池田 進

#### 前略

さっそくに写真を送って下さって有り難うございます。並々ならぬ事務能力を感じさせます。多分貴女に手を抜かれたのでは、たちまちOB会は崩壊するかもしれませんね。

ほんの一部が集まって、しかも現役の手を借りて、今の時代そのものです。現役時代、下級生がほんの2、3年しか違わない上級生を年寄り扱いしたことを思えば、今や本物の年寄りがぞろぞろ…何やら恐ろしいような気がします。同輩同士は会えばたちまち昔に戻れるのに、そこから時系列でぞろぞろ連なっているのでは戻ろうにも戻れず。

医王山は懐かしく、といっても白秃周辺にほんのわずかの記憶がある程度でしたが。

ともあれ、これからの5年間またお世話になるようでどうぞよろしく。「やまざと」で、貴女と田村さんの意気軒昂を読むのが一番の楽しみか。

草々

何もせずに、唯楽しませていただきました。  
お世話下さった方々にお礼申し上げます。

云十年振りに鷲岩経由で白禿にも登ることが  
できました。学生時代、真夜中に鷲岩を往復し  
たことが、まるで昨日のように思い出されまし  
た。怖がる私達を引っ張って行った先輩も、今  
は故人となり、まさに歳月は「光陰矢の如く」  
過ぎて行きます。

大きな悲しみはいつしか忘却の彼方に遠ざか  
り、小さな喜びはいつまでも心の中に暖かな灯  
を灯し続けてくれると、詩人の田村隆一が述べ  
ていました。40周年の集い、この小さな集い、  
でも楽しかった一時。きっといつまでも私達の  
心の中に小さな灯を灯し続け、短かった青春の  
一コマを忘れさせてはくれないでしょう。

この次は、山に登ることを忘れてしまった方  
々にも集えるような会であつたら良いのと思  
います。青春の一時期を共有したかつての仲間  
が一人でも多く、この会に出席されることを願  
って止みません。

拝復 もうすっかり秋ですね。

40周年記念事業ありがとうございました。準備  
をすすめていただいた事務局の皆さん、そして  
当日お世話をおかけした現役の皆さん、本当に  
ありがとうございました。

私の現役時代、ベルクハイム建設とあいま  
って活動の中心が倉谷に移ったとはいえ、やはり  
医王山はホームグラウンドですね。

往時、雲の上に鎮座しました池田先輩にも  
お会い出来、懐かしい一時を過ごさせていた  
きました。

OB会の運営大変だと思いますが、どんな形  
でもかまいません。存続さえしていただければ  
との思いを新たにしました次第です。

大出君の訃報に戸惑いを覚えています。謹ん  
でご冥福をお祈り申し上げます。



11井上12大出11小山11森川 11青柳11加藤

このうち締切までに参加申し込みのあったのは青柳さんのみです。  
(あとで喜ばせるおつもりだったんですね、森川先輩！)

## 11 + & 期同窓会

11期 森川 功

40周年記念行事のAコース医王山散策も、脱落者もなく無事終了し、続いて11期同窓会となった。

9月13日朝のミーティングで、何となく医王山と倉谷ハイキングという話になり、約30年ぶりにベルクハイムに行くことになった。今回は青柳一人の参加予定だったが、11期の偉大なる「いい加減さ」の御蔭で、小山、加藤、今村、森川が滑り込み参加。ドライブにはピッタリの人数となった。

駒帰で行動食を準備しようとしたが店がなく、あの吊橋もなく、近代的な橋から見下ろす谷の深さに驚くばかり。しかたなく行動食は井上家へのお土産になるはずの「伊勢の名物；赤福もち」とし（井上さん御免なさい。ただし、夫君了承済み）、非常用のパンを1個、記録用のカメラを持ってダムを出発した。

ダムを出てすぐ、優雅な筈の山行がブッシュ漕ぎに変わった。ふと思い出して見ると、メンバーの中に、学生時代、<ブッシュ>をこよなく愛した二人がいるではないか。いやだねえ。

「昔は、バイクで倉谷から肉の買い出しに行ったものだ」と話していると、「自転車を通っ

た」と言う人もおり、さすがOBでも最大人員を擁する11期、人種は豊富である。

半分の行程を過ぎた所から草が刈ってあったが、倉谷の部落を過ぎてもベルクハイムへの登り口は見つからず、通り過ぎてしまった。看板は草の中、登り口は草ボウボウ。

小屋の前の草を刈り、小屋内を掃いて掃路に着く。（白井さん、信じられないなら、いつでも写真を持参します。御一報下さい。）ベルクハイムでうまい酒を飲むには、道路整備、特に草刈が必要。是非OB会費で、鎌と草刈機を購入して下さい。

11 + & 期総会に備えて、まず最初に湯湧近くの露天風呂で汗と疲れをとり、ノドの準備をし、服装を整えて、井上氏邸宅へ急行。

総会（宴会と言う人もいるが）には、三重でゴルフをやってきた杉森、三重・奈良県境の大台ヶ原と大峰山帰りの向さん（御免！両山とも百名山でした）、顔の色が極端なほど対象的な大出夫婦、井上家の令嬢・聖子ちゃんの計11名が参加した。ピアノとフルートの音楽会、及び宴会が2時まで続いた。勿論3名は図々しく、シュラフではなく、布団でお休み。



11加藤 11森川 11小山 11青柳 11井上（前列）



11井上 11小山 11杉森 11森川  
11青柳

11加藤 11井上 12大出 11向 12大出

まさか…訃報に皆さんが絶句してしまいました。

11期総会もこれが5回目。(井上さん、いつもご迷惑をかけ、御馳走になっています。誰かが昼に5kg痩せ、夜に7kg太ったと嘆いていました。)次回も5年後開催予定ですので、是非参加して下さい。(井上さん、勝手言ってますみません。)

「今度は書いていただけますよね。先輩」節ちゃんの言葉にも貫祿というか、凄味が出てきたね!…スママセン!

事務局長大変と思いますが、気楽にやって下さい。新入生歓迎会時の同期ではないですか?何かあれば言って下さい。喜んで手伝わせてもらいます。

医王山での写真を同封します。適当に配ってして下さい。11期の写真も2枚入れておいたので、使えたらどうぞ。

次回、温泉でしごけるのを楽しみにしています。来年になったらトレーニングしなければ!

カップル誕生なら、ワンゲルは他の部よりも多いのではないかと思います(統計の裏付けなし)。カップルになったら女性の方が部から身を引いた(?)時代もあり、名簿で判明する以上に、ワンゲルがご縁になっての夫婦ワンゲルは誕生しています。ちなみに3期北さんの奥さんは、田村さんの妹さん。そんなご縁の場合もあります。

兄弟ワンゲルとなると、私の知る範囲では9期伊藤俊成さんと14期伊藤直和さん、16期立浪節子さん(途中退部)と20期犀川朋子さん、11期片田寛さんと15期片田さつきさん(たった3ヶ月。誘われた私の方が残りました。初めて一緒に覗いた部室で開口一番「赤地ィ!兄貴のシュラフ返せまん!」。並み居るおエラ方を卒倒させました。)がいます。

ところが、親子ワンゲルというのはこれまで登場しませんでした。まず、金大、そしてワンゲルとなると、これは親の思い入れでコントロールできることではありません。

しかししかし、とうとう登場したのです。

11期加藤忠好さんと息子43期加藤菜就君。名実ともにOBと現役の共催となった今回の40周年の、象徴ともいえるできごとでした。

菜就君にはプレッシャーがかからないようにと願っていますが、そんなことは分かっているながら入部したのだから、スゴイ！忠好先輩を越える大物になること間違いなし。

一世ワンダラーの方に原稿を迫りました。

### 11期 加藤 忠好

日暮れの早さと同時に、もう肌寒くなってきました。

先日は、貴女著の「石川県の山」をお送り頂き有り難うございます。返事を書く暇もなく読んでいます。そして、節ちゃんの行動力に感心しております。その行動力でもって、ご主人も大切にして下さい。

はたまたKUWV40周年記念山行を企画して頂き有り難うございました。懐かしい顔に出会え、非常に楽しい一時を過ごすことができました。学生時代にカモシカのようにであった私の体も、今やいつも25kgの脂肪を担ぐようでは、どうもいけません。今回参加しようと思ったのは、森川の誘いも大きな要因ですが、医王山、それも麓なら大丈夫だと思ったからです。坂道を歩いても30分だろうからと。

(丁寧な文章には慣れていないので、以下、である調にします)

しかし、参加については、個人的にもう一つひっかかる事があった。それは、「私とよく似た顔を持つ男」が同行するからだ。彼の方も自分の存在を意識、いや恐れている筈だ。何故なら私は、彼の弱点をあますことなく知っている人物だからだ。では私が優位であるかと言えば、自分の過去が暴かれるのではないかという不安があった。

別に暴かれるものがなくても、自分の青春時代に、無断で第三者が闖入する。それは財布の

中を覗かれた時の「へー、3740円しか持っていないの？」と自分の価値をその金額で判断された時のような、一種の嫌悪感がある。その心配がないように、私は主義として財布を持っていない。そんな小銭によってポケットに穴が空こうとも、男は主義に生きるのである。

(ここまで言い切ると、田村教の教祖様の顔が浮かんでくる。どうもイカン。ちなみに、田村氏も、私も、そして私とよく似た顔をもつ男も、同じ学科なのだ。)

その男の名は菜就(なづく)という。

命名は親の特権である。少子化の時代は特にそうである。彼が生まれた時、山の道標にちなんで「標(しるべ)」にしようという提案をした。しかし、父親の権威も虚しく、家族の猛反対にあった。「汁兵衛」のようで古臭いというのだ。

それでは「木偏」を「シ偏」に代えて、「漂」というのを考えた。しかも「ただよう」というのは、読み方も父親の「ただよし」と一字違いでなかなか良い。しかしこれも、どうも落ち着きがないように感ずるという理由で反対があった。特権の行使とは、実に責任を伴い、そして反対に遭うものだと痛感した。

そこで反対できないという意味で「say yes」とした。日本語に直すと「可と肯く」つまり「加藤菜就(かとうなづく)」が誕生で、一件落



二人羽織で奮闘する加藤菜就君

着となった。

親とは、これほど子供に対して愛情を注いでいるものなのである。

「白山」に登るといのは、ワンダラーの果てしない夢である。10月の初旬といのは、笹・柵の濃淡の緑、黄葉、紅葉、深くなっていく空、朝の霜、初雪などなど、色彩豊かな季節だ。冷たい空気を吸いながらあったかいお茶を飲む。おいしい。至福の時だ。

私は、彼を山へ連れて行ったことはない。しかし、山を薦めた。高校の時だ。近くの低山性の登山であるが、感激していた。そのほとんどに雨が伴っていたが、それでも喜んでた。私も嬉しかった。体力に自信のない私も、彼の言葉を通して、山行きの感動を分かちあうことができた。彼を通して、私は行ったこともない穂高に登ることさえ出来た。彼は足で、私は地図と目で登山していたのだ。今や絶版となった国土地理院発行の集成図「槍・穂」の御蔭だ。

私の高校時代は、そのほとんどが、蝶を追っただけの倉ヶ岳行きだった。昼の蝶を追い過ぎたためか、夜の蝶には未だに関心がない。そのせいか下戸でもある。倉ヶ岳へは石川総線に乗り、日御子で下車、月橋から大谷を遡行した。節ちゃんの著書では、この谷筋は通行止めと記されている。大谷は生物の教科書で有名な、プラナリアが棲息している谷だった。よく岩をひっくり返して、その虫のヒンガ目（寄り目）を見て楽しんだものだ。倉ヶ岳、獅子吼、医王山、

白山。これが私の白山へのアプローチの方法であった。さすれば医王山は、私にとって限りなく白山に近い段階の山だ。

さてその医王山へ向けてのパーティー分けが始まる。超人田村氏はさておき、9期白井さんらは何やら理由をつけて下山した。私と、かつてのパートナーであった史三氏は喜んだ。密かに下山を企んでいた11期生5名は、30年を経過した今日、先輩を超えるチャンスをつかんだのだ。すかさず山頂（頂上ではなく、山頂なのだ）を目指すことにした。前日、小山氏の車で下見をしたので、だいたい様子も分かる。青柳氏、森川氏も飛ばす方ではない。仲間も多い。何とかなるだろう。天気は上々。

そうしてわずかな汗を流すだけで、難無く山頂着。バンザイと叫びたかったが、いつも白山へ行っている後輩の手前、医王山程度でバンザイすることはプライドが許さなかった。しかし、白山へ行けるかもしれないという自信が湧いてきた。40周年記念山行の実行委員に感謝。実施を支えてくれた現役に感謝。

山頂で撮った写真には、私のすぐ近くに、例の男の顔があった。前夜の愉快的なキャンプファイヤーで、KUWV初の「涙の対面」をした男、いや、彼であった。そして今度、白山行きの際のボッカ要員として雇用してやるかと見込んでいた男である。まあ、合格させてやるか。「白山」に登るといのは、ワンダラー達の果てしない夢である。その夢に参加できる彼も幸福に相違ない。



親子対面！ 後ろ向きが43期加藤菜就君 右端11期加藤忠好さん

今、上馬氏が送ってくれた白山の写真集を懐かしく眺めている。それにしてもきれいな写真である。特に第3集がきれいだ。腕だけではない、高いカメラを使っているのかしらといろいろ想像している。さぞかし同期長岡氏が悔しがらるだろうなと思いつつ。

「白山へいこう。」ドリカムも歌っているではないか。

追。その後、11期生5名は、約25年振りにベルクハイムに行った。ダムからの車道が、ズーッと草に覆われているのには驚いた。歩くこと1時間、倉谷の村跡には家の土台だけがあった。河原も随分様子が変わり、BHへの登り口も草に隠れて見逃しそうであった。対岸の精練所跡の岩を目印に登り口を思い出し、やっとBHに辿り着いた。

中はクモの巣だらけであった。我々の現役時代には、毎週誰かが山小屋を利用して、何となく人気があったが、クモの巣が張っているというのは、どうもわびしい。現役が近々山小屋作業に入るとのことであったので、四角い小屋の中央付近を丸く掃いておいた。記念写真を撮った。BHへの登り口が分かるように丹念に踏跡をつけ、小さなケルンを積んでおいた。今度いつ来れるか分からないBHに別れを告げた。

史三氏の案内で、湯湧温泉近くにある「湯楽」で汗を流してから井上邸へ。杉森氏、向さん、それに12期の大出夫妻が集まったの談笑とご馳走せめ。月曜は井上夫妻、次女の聖子ちゃん(ステキなお嬢さんになっていてビックリ)の出勤にもめげず朝寝。居候達で戸締まりをして、井上邸を辞した。

追。突然の訃報に接し、大出 徹氏のご冥福を祈ります。井上邸で、溪流釣りや山スキー、シルクロードについて愉快に話していた彼の姿が生々しく思い出され、まだ信じられない気持ちです。

またしても編者の独言…。結局「やまざと」の編集長も留年(!)になって…今度から次期の委譲が楽になるよう、編集負担も減らそう、会費という形で皆が負担すればいいんだから…と、原稿集めまでにストップする心づもりでした。そのつもりで、プリントショップ多田のおじさん(といて、年の差いくつ?)に相談してみました。

するとやっぱり、一枚につき打ち出すだけで800円。構成あれこれとなると…とのこと。今回、せっかくの写真。写真でだけでも、懐かしい人と再会してほしい。鮮明になるよう経費をかけたいと思うと、ようするにやっぱり大名編集なんてやっておられん。

でも節子も人の子。いつもいつもマリア様ではないんです。所詮旦那は「馬鹿だ」と云い捨てる口。愚痴をこぼすどころか、ワンゲルのワの字も必要最小限に…と気をつかう。

よって、仕事はたまる、ストレスもたまる…の時に、そう、「豚もおだてりゃ木に登る」と言いますよね。橋正先輩のお手紙を読み返しては元気を出しました。

OB会の円滑な維持…会費と原稿と、そう忘れてはならない「心のこもった言葉」。

## 超人舟田展へ

13期 橋正 徹

先日はありがとうございました。貴殿をはじめ、多くの人の善意や好意に支えられ、そして甘え、幸せな時間を過ごしました。

それぞれに仕事で精一杯の中で生きているのですが、少なくとも、この5年間の舟田さんのKUWV・OB会における仕事ぶりや今回の世話ぶり。そして目にもとらぬ写真の送付。これはもうはっきり言って超人です。これでは次

に仕事をとって替わる者の出現は絶望的と言わねばならないことを申し述べておかねばなりません。

さて、指示どおり、「余韻醒めやらぬうちに」思うままに感想を綴りました。時間をかけて書いて遅くなるより云々と書いてありましたので、迅速にとのみ書きました。何とぞ添削等、温もりある手と心を加えていただいて、読める文にして下さい。

なお今後とも、健康に十分留意されつつ、他方仕事はポチポチと進められるよう御祈念申し上げます。

白兀の岩に腰掛けると、身体の中をひんやりとした初秋の白い風が吹き抜けていく。間近に見えるキゴ山、戸室山。そしてその向こうに広がる金沢の街並。ここから眺める景色との再会は何年ぶりのことであろうか。

眼下に広がる景色を眺めていると、はるか記憶の彼方に埋もれていて懐かしい出来事がフツフツと脳裏に甦ってくる。ああ、何と懐かしいことだろうか。ああ、何と懐かしい顔だろうか。隣には同期の仲間がいるじゃないか。向こうにはリーダーが立っているじゃないか。後方には新入生が笑っているじゃないか。途切れ途切れの思い出と状況が混ざりあって、夢の中の出来事のようなものである。それでいながら、確かにあの時あの時の一瞬一瞬なのだ。時間の軸が妙にねじれて、重なりあっているだけなのだ。

前山を準備運動がわりに軽く越えようと、急に白兀の山が目前に黒く立ちふさがる。グンと高度をかせぐように足を前に出す。かすかに残っている記憶にピッタリと重なってくる。狭い水路のような登山道だ。今日は肩の荷はないが、あの頃は大きなリュックを背負ったこと。つらかった一歩が甦ってくる。辛さのあまり両手を膝に置いて一呼吸すると、横に咲くシロバナホツツジが力を与えてくれる。ほら、シラヤマギク、アキノキリンソウなども励ましてくれて

いるじゃないか。

暗い林の中で萎える心を元気づけてくれる一輪の花がいい。急に目の前が開けて、眼前に広がる壮大な景色もいい。友がいる。視野いっぱいの空。両手いっぱいの緑の山並。大自然の中にドブプリ身を置いた時に得るものの大きさ、そして豊かさ。

今、中高年の登山がちょっとしたブームだと聞く。よーし自信をもって山に入ろう。(余韻醒めやらぬうちの感想)

青春の心を蘇らせていただいたOB会役員と現役諸君に両手いっぱいの感謝!

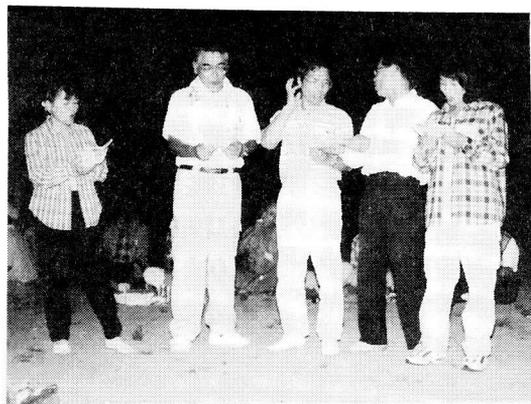
13期 南 梅子

まずはありがとうございます。つきなみな言葉しかでてきませんが、「ありがとう」の一言です。

日常生活から解放され、一瞬でも学生気分を味わえたことは、何にもまさるリフレッシュの良薬でした。十代からウン十代まで一堂に会した行事はそうざらにあるものではないでしょう。それこそ卒業以来という懐かしい顔ぶれに無事に会えるという嬉しさを実感しました。

我が子と同世代である現役世代を見て、自分の子供からは見えない現代っ子気質を垣間見たようです。

(タイムリーな写真をどうもありがとうございました。)

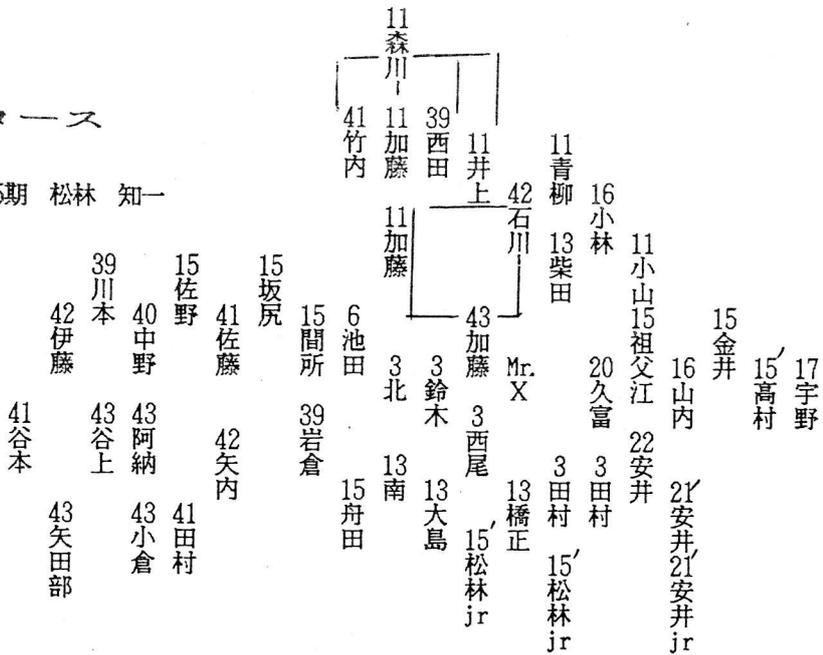


13南 13大島13吉田13橋正13柴田



Aコース

撮影 15期 松林 知一



山頂の静かなひとときを楽しんでいたX氏は、突然老いも若きも集団に囲まれた。それは先住民の排除を非礼とする、紳士淑女の集まりであった。「おじさん、一緒に撮りましょ」13期柴田さんの甘いささやきに、うろたえながらも（抜けるに抜けれず）記念撮影に収まったX氏。「ああ、かあちゃんに叱られる」とつぶやきながら山頂を後にされたのでした。（爆笑）

奥名様

15期会の報告をお送りいただき、ありがとうございました。ところで、今日(10月3日)はみなさん山小屋酒場でしょうか。せっかくのお誘いをいただきながら、今日は会社で原稿を書いています。寂しいですね。

寂しいといえば、大出さんの葬儀にも参列できず、申し訳なく思っています。40周年の総会では元気な顔を見せておられたのに、本当に何ということでしょう。ただただ、心からご冥福をお祈りするばかりです。

やまざと編集長様

総会について一言書けとのご注文。締切を守れず申し訳ありません。さっそく写真をお送りいただいたお礼もまだでした。

子供達のことを紹介します。うちの娘達は、津島さんちのお嬢さんとすっかり仲良くなってしまい、その後文通をしているようです。写真も送ってもらったようで、この場をお借りして津島さんにお礼申し上げます。

それにしても、うちの子供達はワングルの集まりに参加するのを喜びます。不思議ですね。加藤忠好さんのところのように「親子ワングル」など望むべくもありませんが、こんなことを通じて子供達が山や自然を好きになってくれたら嬉しい限りです。

大出さんのご冥福をお祈りしながら、また5年後、元気に再会したいものです。

15期 金井 澄

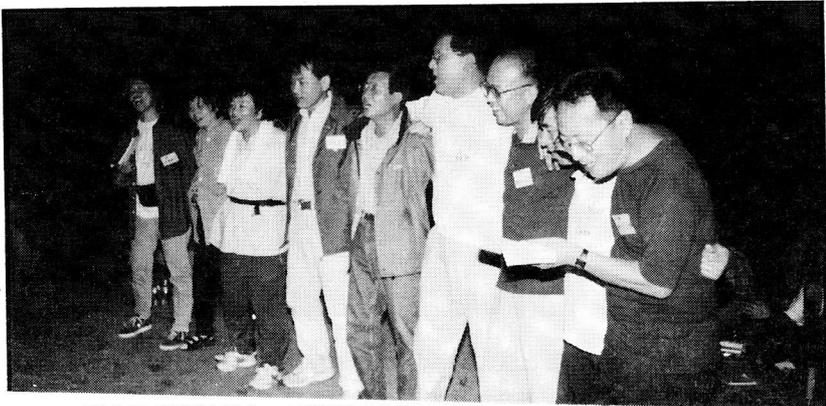
初秋の医王山での久々のキャンプファイヤー。酔いが廻ってきたのか、夢見心地で何故ここに今自分がいるのかさえ、わからなくなってきた。

伝説の長老へ拝調の栄に浴し、一世代違う若者達の熱狂的な「火縄跳び」や「はだか踊り」はたまた「人間火炎風車」なる驚異的な出し物が次々と続く。若いエネルギーの爆発にただただ啞然。

そして15期の出番となり、しみじみと「白山の尾根」を歌った時、あいつらも来ていた。

高村、石田、そして横井も我々とともに肩を組み、笑顔で参加していた。生きている、私も彼らも。何故か心地よい感動がこみあげてきて、年甲斐もなく涙があふれる夜だった。

昔日、石川門で出会った少年・少女が今や50歳の手前になろうとしていた。私自身にとっても、家庭、仕事、震災と、目まぐるしかった幾年月。時代に流されていく自分の人生、変わっていく自分自身を素直に見つめ直したい。そんな時にクラブの40周年の案内。仕事の段取りはつかか？おそらく徹夜をして0泊2日になるかな？たるんだ体で山登れるか？往復800キロの長い道程大丈夫か？それでもかまへん、参加しようと私を動かす何かがあった。(ほんとは、参加しないと節ちゃんが怖いからと配偶者は言うが…)



17宇野15高村15舟田15間所15坂尻15金井15祖父江15佐野15奥名

おりしも9月12日は、小生の47回目の誕生日でした。山の仲間みんなで祝ってもらった忘れ難い9月12日でした。生きることへのささやかな勇気を与えてくれた9月12日でした。とても語り尽くせない至福の9月12日でした。ありがとうございました。

#### 15期 祖父江 直久

いつものことながら、何らかの圧力がないとペンを執らない自分がイヤになってしまいます。遅れて申し訳ありませんでした。

9月12、13日は久しぶりの金沢、懐かしの医王山を満喫させていただきました。

特に医王山の山歩きは、現役の頃何気なく歩いていたと思う山の道とか、何でも無い植物とか景色が、昔とは違って妙に新鮮で清々しく、とても貴重なものに感じられました。山にも又行ってみようかなと思います。

さて来年は15期会の幹事をやることになり、いささか緊張しております。プランはいろいろあるのですが、実現可能かどうかはまだ検討しておりません。佐野君にアドバイスをもらったりして、決めていこうと思います。そんな緊張感と、他方ではもてなす側の少しウキウキするような感覚もあり、しばらくはこのことで、余り変化のない生活が楽しくなりそうです。

しかし、実行前に腰くだけになってしまうことがよくあるので、みなさんの応援・協力をお願いします。それでは来年は弥富町で会いましょう。

#### 17期 宇野 和子

今年は台風は来ないのかなと思っておりましたが、やっと来始めました。そちらは被害ありませんでしたか？

先日はお忙しい中、準備に走り回っていただき、どうもありがとうございました。

私にとってのワンゲルは、同期の友人との交



昔と変わらぬ風が心地良い。

青春を過ごした金沢を見下ろして。

流、先輩や夫との出会い等を抜きにして語ることはできないのですが、今回は残念ながら夫は仕事のため同行できず、同期生達も不参加ということで、少し寂しい思いをしました。とは言え、5年ぶりに、前回よりちょっと老けた諸先輩方にお会いし、私から見れば学生と同じに見える後輩OBとの触れ合いの機会が得られたのは幸いでした。

現役は、もう我々の子供達の世代で、ワンゲルと出会った頃の自分達を見るようで、感無量でした。

我が家の長女は、小学校2年生までを金沢で過ごしたので、あわよくば金沢大学へ進む道を選んでくれるかと思ったのですが、実力伴わず、又、親がおもうほどには金沢の街への執着もなかったようで、遠く東の地へと今春旅立ちました。そこで出会ったものはワンゲルならぬフリスビー。さて、どんな4年間を過ごすことやら。

私はといえば、今でも山行現役の諸氏には頭が下がるくらい、グウタラ生活を送っております。ほとんど平地しか歩かない生活のため、久しぶりの医王山はものすごくしんどかったです。水太りの身体からは汗が吹き出し、足は次第に重くなって、最後はあえぎあえぎ…でした。荷物がかついで登っていたのが信じられません。でも、登り終えた時の心地良さは、あの頃を思

い出させてくれました。

それにしても、医王山って、あんなに生い茂った山でしたっけ。あの山は我が家のアウトドアライフ始まりの地で、長女が2才8ヶ月、長男が1才2ヶ月の時に訪れましたが、もっとひらけていたような気がしていました。私がリュックを背負い、夫が背負子に長男を入れ、途中で歩かなくなった長女を抱っこして山道をたどった当時は懐かしく思い起こした1日でした。

5年後にも、又元気で皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

18期 津島 直也

先日はOB会御苦勞様でした。また、写真を送っていただき有り難うございます。

あの後白山へ行ってきましたが、二日も晴天に恵まれ、久しぶりに山を楽しめました。

登りの延命水で下の子が腹痛で調子が悪くなり、翌日も朝まで吐いていたので、上の子一人で頂上まで行かせました。背負って下りかと覚悟していたのに、室堂から100m行かぬうちにすっかり元気になり、無事下山できました。高山病かと思っています。

OB会またよろしく願います。



16小林 16山内 16中野18椿川18津島18大西

## 医王山を登って

23期 名倉 均  
瑞紀  
雅人

わが家の息子2人(12才と10才)を引き連れ、Bコースに臨みました。

出発までは、「コースの短いAコースにしよう」とぐずぐず言っていた息子2人でしたが、普段勉強もせずに遊び回っている強み(?)か、息を切らせることもなく、トンビ岩を登り切っていました。

結局帰り道では、「まあまあ、良かった(面白かった)」と、それなりに満足していた様子でした。以下、息子に書かせたBコースの感想です。

<兄>

医王山を登って良かったことは、いろいろな人と話げできたことです。

最初の方は、おばさん(舟田さんの事)と話げできたし、大学生のお兄さん(後輩達の事)とも、少し話す事ができ、知っている人が増えました。

それに、頂上に着いた時、よく晴れていたから、お弁当もおいしかったです。

危ないこともありました。トンビ岩を登っている途中で木の枝を拾って、それを持ちながら登っていましたが、邪魔になったので上の方に投げ捨てました。そしたら上で1回転し転がり落ちて、下の方に落ちそうになったけど、弟がその棒をキャッチしてくれたので、助かりました。

(息子達は先頭で登っていました。危うく落石ならぬ落棒をおこす所でした。)

<弟>

もらったお弁当は、リュックの中に入れて登りました。途中の休みでぼくがアリを見ていたら、兄がリュックを棒で叩いてきました。リュックの中にはお父さんの知り合いの人(3期:田村さんの事)のお弁当も一緒に入っていたの

で、つぶれなかったか心配でした。

お昼ご飯前にリュックの中を見てみると、一つは大丈夫で、もう一つは箱が壊れて、中身がリュックの中に散乱していました。

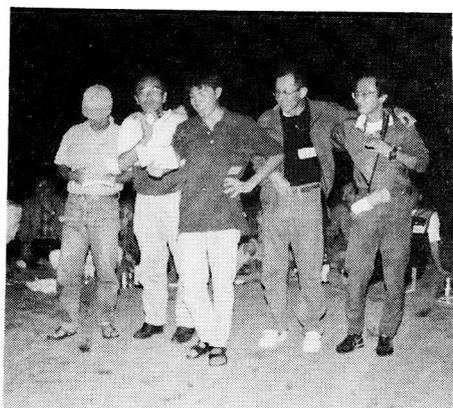
兄に文句を言うと、「はぁー、何のこと?」ととぼけられ、結局ぼくはグチャグチャの弁当を食べる事になりました。

(田村さんには、大丈夫な方の弁当を渡したようです。)

学校の遠足の時よりもずっと距離が長くて、ずっと険しかったけど、何度も休憩したので、それほど疲れませんでした。(30分に1回程度の休憩だったので、それほど何度も休憩したのではないけれど、子供からするとOBに合わせた休み回数は多く感じたようで…)

仕事にかまけて、普段は子供のお相手は嫁さんに任せっぱなしですが、こんな機会に息子達と同じ時間を過ごしつつ、やや親父らしいことができたかと思っています。他に娘1人(2才)がいますが、息子達と同様、医王山でお茶を濁すことはできそうにないので、また新たな機会があれば…と期しています。

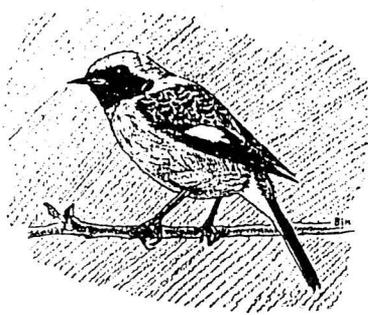
<編者注;「嫁さん」とは、同期23期の雅子さんのことです。>



20深田22安井41竹内23鳥越20久富  
「寮歌なら歌えます」現役も飛入り



3 田村  
 18 椿川  
 顧前田 43 村松  
 42 笹田  
 41 河村  
 41 森田  
 42 角谷  
 18 大西 12 大出  
 38 吉原  
 41 林  
 7 村田  
 43 奥野  
 42 坂本  
 38 三浦  
 38 宇根  
 43 清水  
 43 西脇  
 23 名倉  
 43 田中  
 43 杉村  
 29 渋谷  
 23 名倉 jr  
 38 小林  
 42 志賀



B 7 - 8



38宇根38吉原38橋本38西馬37藤牧34松浦36石川29渋谷37柴田

38三浦

## KUWV 40周年

38期 西馬 由岳

カレーはうまかった。作ってくれた人、有り難う。懇親会では、1回生の芸に満足した。ファイヤー点火や、石川さんの挨拶も面白かったし、こぼやん(小林)のお約束も、田村さんの飛入りも面白かった。その後の飲み会で、田村さんが何故〇期なのかもお聞きできたし、松浦さんの逸話の数々も、直接本人から聞けて面白かった。山行は疲れた。風邪ひいてたし。

時期的に学会と重なっててちょっと辛かったけど、楽しめました。とにかく働いてくれた現役の方々、有り難う。それと実行委員の方々、ご苦労様でした。

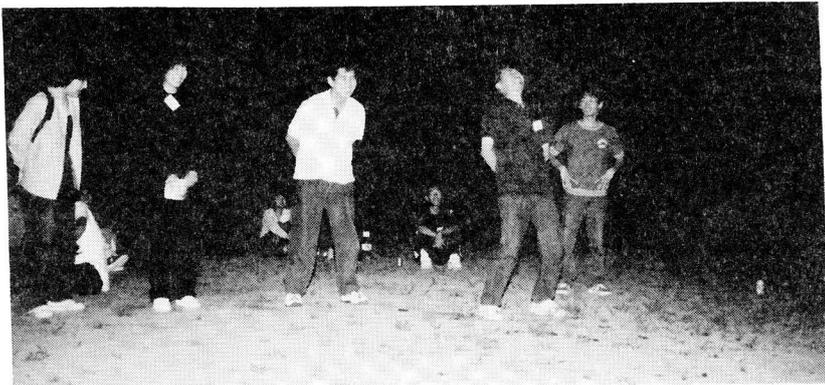
話は変わって、5年前、35周年の時は、私は1年生でした。OBの世話をするため白山に登ることも、楽しみにしていました。荷物が多いため、部室に眠っていたキスリングを引っ張り

出してきて、喜んだりしてました。記念山行は中止になったけれど、厚生年金会館や、城内体育館でのこと、当時初めてお会いして、その後は全く会っていないOB(奥先輩とか飯村さんとか)のこと、我ながらよく覚えているような気がします。

今回、私は若手OBでした。院に残ってて、6回生にあたります。今の3回生とは予定以上に付き合いがあって、3回生以上に対しては、OBというより先輩です。気持ちはほとんど4回生の時のまま、変わっていません。

でも、それも今年まで。院を出て就職して、金沢を離れると、すっかりOBとなってしまうのでしょうか。

5年前は、5年後のことを考えていました。今も、5年後のことを考えてます。同期の連中、身近な先輩後輩、いっぱい集まってくれることを願ってます。私もどうなるかわかりませんけど。



39川本 39岩倉 39西田 39小西 39老田

# 医王の里、寂しい秋、

## 林道など十数カ所崩落

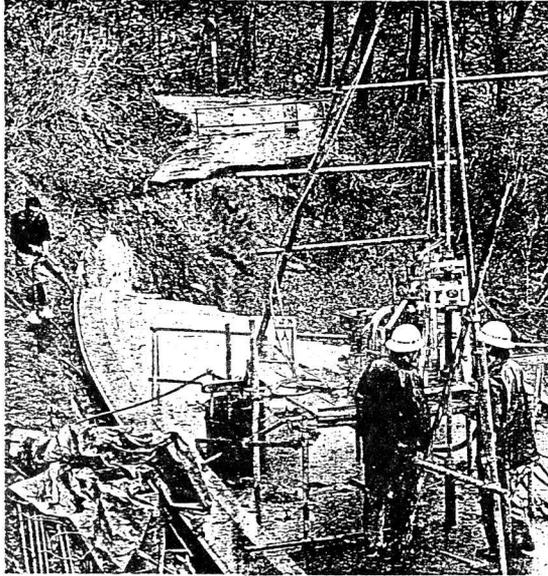
### 登山行事 相次ぎ中止

先月の台風7号で、金沢市の医王山系の林道や登山道の十数カ所が崩落、登山に危険が生じていることが二十七日までの同市林業整備課などの調べで分かった。市街地から近い医王山は手軽な登山コースとして人気を集めるが、「銀河の里キゴ山」が来月三日に予定していた「親子登山」の中止を打ち出し、各団体も行事の計画変更を余儀なくされている。復旧予定は早くも来年秋の見込みで、二十三日開館の市キゴ山天体観望センターと合わせた「医王の里」へのにぎわいを期待していた関係者は、台風のツメ跡に眉を落としていた。

### 台風のツメ跡深く

市林業整備課によりますと、医王山一帯の林道の崩落は、国の補助が重要な役割を果たしているが、大規模なものだけでも七カ所以上に上る。金沢市小の道路が路面と約百メートルにまで崩落、道がぶつり

### 復旧は早くも来年秋



台風7号の影響で陥没した林道  
—金沢市小菱池町

と切断されたような状態になっているのが見つかった。このほか「銀河の里キゴ山」の職員によつて大池平や三蛇ヶ滝、自売山につながる登山路でも崩落やがけ崩れの恐れがあることが確認された。

市は医王の里キャンプ場付近から富山方面につながる林道を全面通行止めとする措置を取ったが、登山道で事故があった場合に緊急車両も通行できなくなり、医王山スポーツセンターや公民館などの各施設は予定していた登山を相次いで中止した。

医王山周辺では、市営スキー場のダイナミックコースが台風7号の豪雨でぐらわれ、今季の開演が立ちたばかり。二十三日にキゴ山少年自然の家とキゴ山天体観望センターを併設して開館した「銀河の里キゴ山」も登山イベントが第一回主催事業だっただけに、職員のショックは大きい。谷内守館長は「登山の参加希望者はとても多かっただけに中止は断腸の思いだ」と話している。

9月23日未明通過した台風7号により、あの医王山にも被害が出ました。写真の崩壊地はしがら頭より上ですが、途中にも小崩壊がいくつかある為、医王の里にて通行止めになっています。

# OB役員会の活動経過 とOB関連情報



(#は日時の確定しないもの)

7月1日 印刷依頼

14日 会報9号製本完成

15日 会報9号発送 (舟田)

8月21-23日 第6回蒲原良太郎追悼山行

(蒲原新太郎・道子 前田顧問)

33奥出 34奥 34片岡 34松浦 35吉田

36石川 36金井 36新倉 36朝日 36田中

36沢田 36檉村 36清水 36新道 37柴田

37新堀 37福田 37藤牧 37山本 37井上)

8月25日 40周年うちあわせ 元町ココス

(18椿川 15奥名 15舟田 23名倉 23鳥越

38宇根 38小林 38西馬 38吉原)

8月31日 実行委員通信・兼役員会通信NO.9発送

9月#総会配布物作成 (舟田・鳥越)

配布物印刷 (22山崎)

12-13日 ワンゲル創設40周年 医王の里

13日 記念山行 医王山

16-18日 現役小屋作業

16日 記念行事写真配布・原稿依頼 (舟田)

24日 スポーツ振興課へ作業報告 (舟田)

27日 12期大出徹氏滑落死亡

30日 大出氏葬儀

10月3-4日 山小屋酒場

(13辰野 3田村 13大島 13吉田 15奥名

15佐野 15舟田)

13日 役員会通信NO.10 発送 (舟田)

17日 スポーツ振興課より入金

21日 現役3回生とOB役員懇親会兼

40周年うちあげ 兼役員会

柿木島あまつば

(15奥名 15上馬 15舟田 18椿川 19楯

23鳥越 38宇根 38小林 38吉原

現役41期・市山 佐藤 竹内 田村 林

長谷川 森田 谷本 河村)

# 40周年会計報告・OB会会計報告作成

振込票記入 (鳥越)

# 宛名ラベル作成 (名倉)

# 印刷・製本 (プリントショップ多田)

1期 仙田 厚太郎

何時もOB会のお世話をいただき本当に有り難うございます。

この度も40周年記念行事の大変なお世話をしただき、本当に有り難うございます。心から感謝申し上げます。

この度の件、小生発信したものだと思込み、今日まで返信が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。止むない所用のため、欠席せざるをえません。参加各位へ何卒よろしくお伝え頂きますようお願いするとともに、会の盛会を心から祈念申し上げます。

ここに心ばかりですが、酒肴代として送らせて頂きました。ご笑納下さい。間もなく(?)毎日が日曜日という日が来るようになれば、喜んで何にでも参加したいと思っています。今暫くのお許しを得ておきたいと思っています。

(OB各位、現役の皆さんにお伝えいただければ幸いです。)

今、40年と聞くと、時間の長さに驚きと戸惑いを感じています。

40年前、田村氏と鈴木氏の会津コンビが書いた1枚の貼紙(趣意書)、これが今日まで至るとは、夢のような心境です。

名簿を見ながら、こんなに多くの人々が、この会の歴史を作り、支えてきたのかと思う時、感慨胸に迫ると同時に、各位に心からの感謝の気持ちを捧げたいと思います。

歴史は勝手に出来るものではなく、間違いなく皆で作るもの。是非これからも、若い人々によって、この金大ワンゲルの永遠の歴史を作り続けていって頂きますよう、心から願います。

あの一枚 魅きつしもの 今もなお  
色鮮やかに 集いし人の 心つなく

(事務局より… 多額のご芳志を有り難うござ  
いました。メッセージは総会にて披露させて  
頂きました。)

#### 4期 森島 稔

9月に入って、朝夕は大分涼しくなりました。  
今回の40周年は天候もよく、盛大だったことと  
思います。10月3、4日の秋の山小屋酒場のご  
案内を頂きましたが、今回も断念せざるを得ま  
せん。何かと行事の多い月ですので。

舟田さんの細かい配慮と日々の負担の大きさを  
思うと、受け身の私の方は、恥じ入り、申し  
訳ない気持ちです。お許し下さい。今後ともよ  
ろしく。

#### 7期 高見 よ志子

会員名簿は毎年送っていただかなくても結構  
です。隔年でよろしいかと思えます(私は)。  
いつのまにか5年も滞納(実はOB会なるもの  
の発足をあまり知らなかった)して申し訳あ  
りません。

#### 8期 小谷 太平

勤務先が変わりました。



#### 9期 平村 耕作

9月に入り少し朝夕が涼しくなった今日この  
頃です。いつもOB会のことではお世話をし  
て戴いておりありがとうございます。

さて今回の40周年記念行事(昨年からは楽し  
みにしていましたが…)、今また連絡を戴いた秋  
の山小屋酒場に欠席で、残念と同時に申し訳な  
くも思います。

今年3月にケガをして2ヶ月半入院し、ほぼ

今は元に戻りましたが、今はまだ自重していま  
す。次回には、是非と思っており、今後ともよ  
ろしく願います。皆様によろしく。

<事務局より>お便りを戴けるのは何より嬉し  
いのですが…。

40周年はさておき、その他の行事につきまし  
ては、お知らせしなければ行事があることをお  
伝えできない。ではあるけれど、かえって心あ  
る方に、心苦しい思いもさせてしまうのではな  
いか?と事務局なりのジレンマに陥っています。  
もちろん、郵送費、手間のこともありますし、  
絞るとすれば誰にまで知らせるか?にも悩んで  
しまいます。

昔、部室に行ったら、PW募集のチラシが下  
がっていて、見るのも気楽なら、乗るのも気楽  
でした。そんなタッチでやれないものだろうか  
?

その可能性を秘めているのがインターネット  
です。何を隠そう(?)、新OB会長はコンピ  
ューターを生業としているのです。これからの  
5年で、インターネットに連絡網をシフトさせ  
ていこう…と固い決意をしている割には事務局  
長の方は、こんなワープロ打ちに追われるばかり  
で、決意が空回りしております。

そんなオバサンの為にも、すべてをインター  
ネット化にはいきなり出来ないのですけれど、  
希望はそういうことなのです。

#### 11期 森川 功

##### T0 奥名

倉谷の月はどうだった? さぞかし酒がうまか  
っただろう! 今日「切手とおまけ」確かに受領  
した。依頼したより多く、ありがとう。

来年の15期会、桑名とのこと。桑名にいたら  
是非参加させてもらおうかな。

考えてみれば、ワンゲルの新歓は西村節チャ  
ンと一緒にだった。「何年生?」と質問され、「  
一年生」と答えたら、「なーんだ同期じゃない  
か」と言われ肩を殴られたのを覚えている。

(15期は恐い！)

それに大先輩の9期の白井さんも私と同じ小学校の学区にいる。白井さんの実家は確か、祖父江君の実家と10軒ぐらいいか離れていない。

(昔の話) 倉谷の月はまた、HPでゆっくり見せてもらう。

(編者特権…肩を「なでた」だけです。だいたい、「大学院」を省略して「僕、一年生」ってニコニコしてたのは森川先輩じゃないですか！何か老けてるし(わっ、スキーやばい)、かわいそうに何年浪人したんだろうと、アタシ同情して、思い切り明るく「同期じゃないの」って励ましたんですヨ。そう、これが30年後に明らかにされた真実です。何かまだ尾ヒレがつきそう…)

11期 向 幸子

遅くなりすみません。9月12日の医王山行き、参加したい気持ちでいっぱいなのですが、残念ながら他の予定があり、参加できません。次の機会を待ちます。



12期 河辺 憲次

OB会報「やまざと」98夏号お送りいただき有り難うございました。OB会費については、大出松世様より6月に連絡をいただき、すぐに送金させていただきました。ご確認をお願いします。

OB会の取りまとめ等、いろいろご苦労されていることと思います。私の方はなかなかOB会に参加できず、皆様とはご無沙汰しております。今後ともよろしく願いいたします。

頑張ってください。

14期 伊藤 直和

勤務先が2度(名簿記載時から)変わりました。現在、那覇港湾 港工事事務所に勤務しています。

15期 高村 千佳子

金沢の方は梅雨明けを特別にしないそうですが、こちらは毎日暑いです。お葉書ありがとうございました。

8月8日から16日迄会社が夏休みでした。明石大橋を、私の運転で渡ってきました。まあ一ぼくらいなら渡るのもいいものです。もっと安かったらもっと行ってもいいけどね。あとは父のお墓参り、友達が遊びに来て、お昼を一緒に作って食べたり飲んだりと楽しかったです。

さおりの方はこの夏が山ということで夏期講習と、ない日は図書館通いです。

9月に皆さんに会える日を楽しみにしています。少しは歩いていないとバテるでしょうね。まだまだ残暑厳しいけど夏バテしないように！

16期 清水 重仁

山小屋酒場の案内ありがとうございます。残念ながら、法事や社内旅行のため、40周年、山小屋酒場共々今回は参加できません。来年は是非「便所」を使わせていただきます。皆様によりしくお伝え下さい。8月4日に御岳山へ登りました。

16期 山田 容子

日々、時間に追われる生活で「心のゆとり」が欲しいです。会報「やまざと」の発行、いつもご苦労様です。通勤のコースから毎朝白山を望んでいます。四季折々の姿を見ることが出来、ほっと心安らげる時です。

17期 小間 八郎

会報9号にて、会費未納を知り、振込依頼人(妻)に確認したところ、バッグの底から昨年振込用紙が出て来ました。他人(?)を当てにしたのが間違いでした。平成15年までの全納が可能ですか。可能なら会費に。不可なら、カンパ金として取り扱ってください。お手数かけます。

現在、高岡高校山岳部の顧問をしています。この8月に四国高知で行われるインターハイに出場します。四国の山々は初めてですが、暑そうで心配です。

歌集受け取りました。どうも有り難うございました。

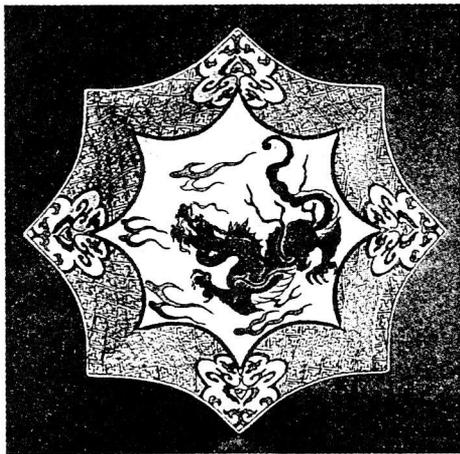
先日は突然伺いまして失礼しました。イラストを送ろうと思っていたら丁度出張になりましたので、それなら送るより持っていこうということにしました。

あの時雨がけっこう降っていましたが、白山はどうでしたか。今度は山へ行くために金沢へ行きたいと思います。

OB会のお世話ありがとうございます。先日、甥っ子の村上友洋が、舟田さんに勉強を習っていることがわかりました。よろしくお願ひします。

(编者注；冷汗たらー。そういえば私は元風さんを写真でしかおみかけしていないけれど、お母さんと、トモ君たしかに、目元が元風さんにそっくり。やっぱり金沢は狭い！悪いことできない！)

40周年総会の時には、大聖寺・実性院にて、今九谷色絵磁器展を開催しておいでました。)



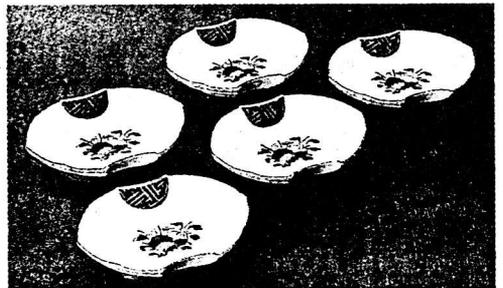
八角赤絵風雲龍図鉢

仕事を「今九谷」と名付けた中村さんは「古九谷を単純に写し取るのではなく、こうした陶工たちの心を解し、現代も見据えた仕事をしていきたい」と話している。  
古九谷の創始者で、初代大聖寺藩主前田利治の菩提寺でもある会場には、鮮やかな色絵でトラや獣など躍動的な動物を描いた花器や鉢などが並び、江戸前期に作られた古九谷の名品も展示される。

加賀市在住の陶芸家中村元風さんの今九谷色絵磁器展(北國新聞社など後援)は十二日から十五日まで、加賀市の実性院で開かれ、古九谷の気風を現代の感性でよみがえらせた力作約八十点が展示される。  
中村さんは、金天大学院で生物学を学んだ異色の陶芸家で、祖父で日展委員だった中村翠恒氏から陶技全般を修得、彩釉磁器人間国宝の徳田八十吉氏に師事して修業を積んだ。  
中村さんは、古九谷を研究するにつれて、抜けるような白磁をめざしながら技術的な限界でかわなかつた古九谷の陶工の無念さが覚えてきたという。自らの

力作約80点を公開

# 古九谷の気風 現代に



傲古九谷菱形柘榴文端皿

中村元風さん  
12日から加賀  
で色絵磁器展

23期 窪川 淳一

残念ですが参加できません。再度5年間の予定で米国駐在となりました。国内連絡先を変更願います。

25期 細田 晴美

事務局の皆様、大変ご苦労様です。いつも有難うございます。かけ足で過ぎてしまった40年近く。それなりにいろんな事がありました。またこれから…と、挑戦していきたいと思っております。機会がありましたら、またお会いしたいです。



29期 深井 嘉浩

残暑お見舞い申し上げます。

今年の夏はいかにお過ごしでしょうか？東京へ来てこの5ヶ月、いろんな国々を巡り、いろんな出来事に遭遇しました。今回アフリカで何度も耳にしたフレーズ”This is Life!”を胸にまた経験を積んでいきたいと思えます。

では皆様もお元気で！

ps 私の勤務しておりますアルパインツアー「総合カタログ」最新版(夏・冬年2会発行約100ページ)同封させていただきます。私、本人も「金沢大学WV出身」としてツアーリーダーに紹介に登場しておりますので、是非ご覧下さい。

また、ネパール、ニュージーランド他、世界各地のトレッキングにご興味のある方へ、無料でご送付させていただきますので、アルパインツアー深井までお問い合わせ下さい。



深井 嘉浩  
(ふかいよしひろ)

7年に渡る旅行業界経験の後、パキスタン、ネパールを中心に長い海外放浪生活へ。今年4月より思いも新たに業界復帰。持ち前のガッツでT/L業務も好評。金沢大WV出身。(東京)

30期 野田 和裕

ワンゲルOB会のこと、本当にお疲れ様です。金沢から遠方に居ますと、なかなか実感が理解できないので、つい適当なことを述べてしまっていますが、お許し下さい。さて、同期の住所の件ですが、中村の他に転居した者がいますので、同時にお知らせいたします。

(別便) お世話になっております。住所変更のお知らせがあります。北陸は天気が悪そうですね。山に行きたいのですが、仕事・家庭とも忙しすぎて、とても無理です。

(別便) また1名住所変更がありましたので、お知らせします。同期の一人から、会費を銀行振込でも可能にして欲しいとの意見がありました。一応お伝えしておきます。よろしく願います。

36期 蒲原 新太郎

36期蒲原良太郎の父です。会費送ります。よろしく願います。

36期 新倉 崇之

東京勤務のため、OB会の行事に参加できないながらも、遠き金沢・学生時代に思いをはせ、会報を読ませていただいております。今夏も8月21日-23日に剣岳に行つてまいります。

39期 友野 京子

「やまざと夏号」ありがとうございました。楽しく読ませていただきました。

ご報告が遅れましたが、私は昨年6月に38期の友野克利と結婚いたしました。今後は夫婦で「やまざと」を拝読させていただきたいと存じます。昨年秋には長女あやねが誕生し、現在9ヶ月になります。

幼い娘がいるため、40周年の行事に参加できず残念ですが、またの機会を楽しみにしております。

## 東京地区有志による懇親会模様

- 実施した日:平成10年9月22日(火)18時より3時間
- 声を掛けたメンバ:9期生を中心に東京近郊在住の20名程度
- 集まったメンバ:9期 鍋島 武、清水 一、伊藤 博道、伊藤 俊成  
11期 青柳 健二、北川 邦夫、上村 人史、山口 裕 以上8名
- 飲んだ酒量:みんな寄る年波(全員50才以上)に勝てないのか以外に少量?
- 話した中身:特筆することなし
  - ・金沢でのOB総会模様(たった一人の参加者青柳君からの話)
  - ・経済情勢(要するにどこの会社が不景気かの話)
  - ・今後の人生設計(濡れ落ち葉にならないための涙ぐましい努力)
  - ・健康の維持(医者が出たので本当に適切なアドバイス)
  - ・昔の話(古き良き時代の思い出話、仲間の行動の暴露)
  - ・仲間の消息(いずれも断片的で、今までの忙しさを物語る)
  - ・その他(他愛がないが、とにかく尽きることのない話)
- 確認したこと:これもいいかげんだが…
  - ・OB会への絶大なサポート(とりあえずできることは会費の納入、行事への参加)
  - ・気張らないで長続きできる本会の継続(これでも結構飽きもせず続いている。今回は山口が初参加)
  - ・鍋島が以外に気配りがきく男であること
  - ・中京/関西方面の仲間との会合(掛け声ばかりで何時になることやら)
  - ・プライベートなゴルフの実施
- 記念写真:見たくもないかもしれないがザウルスで撮影、出来が良くないのは被写体の所為



上村 青柳 清水 北川  
山口 鍋島 伊藤(博) 伊藤(俊)

・みんな色が黒いのは露出不足、今度はもう少しマシに撮ります

# 15期会金沢大会（兼KU WV創部40周年記念）報告

15期同期会幹事 奥名 正啓

今回はほとんどOB総会と40周年記念行事で終始しました。15期会としては物足りなく思われた方もあったかとは思いますが、普段、あるいは卒業以来会っていない人達との再度の出会い。名前だけは聞いたことがあるが、会ったことのない人との出会い。この時期の医王山はもしかすると初めてだったり、大勢でのキャンプファイヤー…どれも大きな思い出の一つとして残ることでしょう。（それにしても、5年に1回では、あと何回参加できるだろう）

詳しい行事報告は、会報を見て下さい。尚、次回は祖父江君が幹事を引き受けてくれました。よろしく！！

やっぱり参加人数が多い方が断然楽しい。

上馬…不参加 参加の予定でしたが、体調が悪く不参加となりました。OB会では副会長を頼みました。今はとにかく、本来の体調に戻すこと。

宇野…参加 本人は不参加。新聞休刊日は何故か仕事となる（仕事の性格上、仕方がないとあきらめる）。奥さんの和子さんが参加。17期ではたった一人という寂しさを15期会がカバーしました。

奥名…参加 15期会とOB会をまとめてまとめて誤魔化そうという魂胆。予定どおり、これといって15期会のことは何もしませんでした。唯一、次の幹事へのバトンタッチをただだけ（これが重要）。

金井…参加 今回は行き帰りとも、輸送係。ありがとございました。奥さんは大変元気そうでした。庭いじりも面白そうですか、人いじりはもっと面白いですよ。来年は是非参加を！

坂尻…参加 15期の代表連絡員としては今まで通りです。記念山行ではAコースのチーフを

頼んでありましたが、ぐちゃぐちゃになってごめん。

鈴木…不参加 インターネットを始めたが、期待したほどでもなくお休み中とか。KUWV OB会のHPを見て下さい。感想や近況をお知らせ下さい。

祖父江…参加 土曜日は昼まで診察をして、それからいざ金沢へ愛車をとばす。医王山までの地図をFAXした御蔭で、迷わず来られたが、「森の家」が判らず、総会終了時入場。

佐野…参加 無理矢理でっあげた出張で、前日から金沢入り。私と同一行動（寝た布団は違う）のため、雑用をいろいろとお願いしました。

高村…参加 金井タクシーで、墓参りをしてから参加。今回は同期会対策が何もなくごめんなさい。午前中に哲ちゃん（佐野）と卯辰山に墓参りに行きましたが、どこだったか忘れて見つかりませんでした。

南保…不参加 何回か電話したが本人不在。ただし奥さんは在宅。気の毒がられてかえって恐縮。

比田井…不参加 上の子は海外（ボストン）。下の子を同伴で参加予定だったが、直前、子供に用事が入った。来年はおいでね！

舟田…参加 相変わらず動きが素早く、すべきことはすぐやる。私はというと、ぎりぎりまでやらない。個人的な山の便りを下さい。HPの一部に載せます。

増田…不参加 優良金融機関なので、地元住民のつきあいが重要。土日の方が用事が多い。役者はあなたがピカーです。都合つけて来なさい！

松下…不参加 多忙のため。永平寺からの帰り道、山越えて山中温泉へ。病院の場所を初めて知りました。

松縄…不参加 さくら銀行を救える人材は松縄  
を置いて他にいないということで、特別欠席。  
山小屋はいつでも君を待っています。(都合  
つけて付き合います。)

松林…参加 上馬の不参加で急遽カメラマンを  
頼みました。日頃からカメラは使い慣れているので安心でした。今回唯一のお子様連れで  
同期会色を維持してくれました。

間所…参加 町田から公共輸送機関を乗り継ぎ  
来沢。工学部正門前から迎えの車で医王山へ。  
10-19期を代表して一言の重責を果たしましたが、私は酔っ払っていて内容の覚えはありません。

三宅…不参加 平日は本業に、休日は接待業に  
ひたむき。給料は業績とともに下向き。

渡辺…不参加 上の子は海外留学、次の子は社  
会人、下の子は体調不良。奥さんは???

横井…不参加 子供は中学生。人の子はとびと  
びに大きくなってしまふ。次回はお近く。お  
気軽にどうぞ!



〔クマタカ〕イラスト：竹中 敬

自然人No.45 より

## 第6回蒲原良太郎追悼山行に思う

'98. 8.21、22、23

父 蒲原 新太郎

ヨイショヨイショ、ハアハア、もう駄目だ、  
こんな辛い事もう二度としないぞ。

そう思いながら、今年で6回目を数える剣へ  
の道。剣沢の、テン場へ向かう道中での事。15  
キロのリュックが、肩に食い込み、頭痛がする。  
歯を食いしばりながら剣御前小屋までたどり着  
いた。ハッと息を飲む。剣だ!剣だ!日常の生  
活から離れ、心に染み込み、言葉で言い表せない  
風景である。心の中で思わずつぶやく。

(良太郎、又来たよ。)と。

暫し休息の後出発だ。今度は下り。膝が笑い  
出した。周りを見渡したら、妻道子がへばって  
いるぐらいで、他の人達はマイペースで歩を運

んでいる。33期-37期迄の人達で、全員社会人  
だが元気だ。悔しいけれど、やはり年の差だと  
思う。

やっとの思いで、テン場に着いた。リュック  
を下ろし、すぐテント設営をする。うまく出来  
たと自画自賛。思い起こせば山の道具も、1回  
目、2回目と殆ど何も持って来ず、皆に迷惑を  
かけていた。初めは招待客のつもりでいたが、  
今は違う。皆と仲間だと思っている。

その日の夕方、1回目の追悼式を、剣沢管理  
事務所裏の小高い丘にて行った。(1日目の参  
加者は、前田先生はじめ20名。)遺影の隣に花  
を供え、そして線香に火を灯し、今回のリーダ



36清水 37柴田37福田37藤牧 36朝日36新道37新堀33奥出  
 36沢田 36金井 36田中 36新倉 前田顧問  
 37山本 34片岡 34松浦 35吉田  
 36櫻村 36石川 蒲原母 蒲原父 37井上  
 第6回追悼山行 剣沢管理事務所裏にて  
 撮影 34期 奥 民昭

一石川明弘君の進行で、私から順に御参りをした。晴れ渡った景色の中で、際立ち威光を放つ剣を目の前にし、つい目頭が熱くなる。妻も同じだ。冗談を言い合っていた仲間も、言葉なくなり、神妙な顔になってしまう。私とは違った意味で良太郎の事を思い出し、懐かしんでくれていると思う。

ここで皆にお礼を言いたい。毎年私ども夫婦を剣に連れて来てくれてありがとう。いつまで続けられるか分からないけれど、ずーっと続けていきたい。転勤したり、結婚したり、又、良太郎に対する思いが年々薄らいで行くだろうけれど、絶えず皆と連絡をとりあっていきたい。そして皆の成長を見続けていきたい。

その日の夕食後も、例のシャカシャカが始まった。ワングルの伝統だそうだ。1回目の時、体調が悪く隣のテントで寝ていたら、突然シャカシャカと金属のこすれ合う音が聞こえてきた。リズムをとるでもなく、ひょっとして宗教めい

たことをしているのかと思い、後で戻ってきた妻に聞いてびっくり。食後のお茶と武器で食器を洗っているのだと。そんな笑い話も昔のこと。今では、自然に、普通にやっている自分がおかしい。

次の朝5時に、本峰を目指していざ出発。途中、剣山荘、一服剣、前剣を経て、カニのヨコバイ下の遭難現場に到着。2回目の追悼を行う。現場を見たのは今回で2回目だが、周りの岩だらけのガレ場、鎖場のカニのタテバイ、そして左上のカニのヨコバイ。雨が降った後などは、何時落石があっても不思議ではないなと思いつつ、良太郎は運がなかったと、ただただ思う次第である。

そして又、ここでも皆にお礼を言いたい。毎年追悼用の生花を用意して、こんな所迄運んでくれて有り難う。私は遭難現場に居合わせていないので、想像だけだが、実際居合わせたパー

ティーの人達は、どんな思いで見つめているの  
だろう。

その件については、一度も口を開いたことは  
ない。遭難救助隊の方の手記を読んだ事がある  
が、とても生々しく、父親としては、とても読  
んでおられずいたたまれない気持ちになった思  
いがある。しかし母親は違う。全てを知りたい  
様だった。その事については今後も話し合う事  
はないだろう。

さて体力も限界に近づいた頃、ついにピーク  
到着。10時40分。やったあー。天気も最高。遠  
く槍ヶ岳、白山も見える。360度パノラマ状態  
だ。本当に来て良かった。皆と握手しながら感  
激。満足感で一杯になる。そして休憩後、下山  
に向かう。気を緩めず緊張しながら、やっとの  
思いで剣沢のテン場へ到達。15時。実に10時間  
掛かってしまった。大変なスローペースで、同  
時パーティーの人達に迷惑を掛けてすまないと  
思う。テン場に着くと、2日目からの参加者3  
名を加えて22名で、最後の追悼式を行った。

これを実際計画・実行するのは、大変な事だと  
思います。人数も多いし、住所もバラバラ。金  
大卒業後何年も経っているので、部室も後輩も  
使えず、苦勞しているみたいです。聞く所によ  
ると、36期生が中心になっていて、会計は36期  
樫村さん、用具保管は34期奥村さんが受け持っ  
ていてくれています。そして何より心強いのは、  
電子メールの連絡網があり、毎日のように連絡  
しあっています。だからこそ、追悼山行が毎年  
廃れることなく続いていると思います。

最後に、私達夫婦は子供を失いましたが、そ  
の代わり、皆さんと知り合う事ができました。  
素晴らしい事だと思います。その御蔭で人生観  
も変わりました。私達が一番好きな所は金沢で  
す。そして剣岳です。追悼山行以外にも、皆さ  
んと山行に行ったり、行動を共にしてもらって  
います。心から感謝しています。今後とも宜し  
くお願いします。そして、金大ワンダーフォー  
ゲル部OB会が発展することを願います。

以上が毎年追悼山行で行っている内容ですが



蒲原新太郎さん 36田中  
36新倉 34松浦 蒲原道子さん 36石川

## 小屋作業を終えて

小屋作業CL 41期 河村 浩之

9月16、17、18日の3日間、今年も小屋作業が行われた。

参加者は、1年14人、2年9人、3年7名の計29名である。今回の小屋作業は、自分にとって初めてのCLという立場の行事であり、いろんな面で勉強になった山行であった。

15日のパッキングの時から台風5号の影響で16日の天気がよくないことは明らかだった。現役の部員（特に3回生）はCLの責任とばかりに、自分の方を睨んでいた。

16日は紆余曲折を経た結果、出発時刻を多少遅らせることになり（この際、出発判断の遅れで部員みんなに多くの迷惑をかけたことを、この場を借りてお詫びいたします。）、この日の高三郎登頂を諦める。

ダムからBHまでの道程は、自分としてはそれほど危険な道とも思われない。しかし去年1年生が2人滑落したということと、雨で滑り易くなっていることから、多少の不安があった。無事にたどり着くことができ、先ずは一安心した。

小屋に着いたくらいから再び僕をあざ笑うかのように雨が降り始める。結局この日は、夜になっても止まなかった。

17日の朝は、自分の予想からは大きくずれて大雨であった。昨夜の天気図を見てみると、何故か自分の予定には入っていなかった低気圧が発生している。今日は一日中大雨であり、渡渉ぬかるんだ道にかなり苦勞することが予想できたが、自分を励まし出発する。

出発して30分たらずで、問題の渡渉地点へ到着する。先頭を歩いていた矢内は、沢の鉄砲水の様子を見てさすがに驚いていた。僕もこの鉄砲水を見ながら、この後の行動についてかなり悩んだ。このような時、他の3回生や、4回生

の方々がリーダーだったら、どういう決断を下すのだろうなどと考えていたら、無性に疲れてきた。1、2回生の一部の帰ったような顔は、うざったかった。

結局、自分の独断で、野郎だけで前進することにする。経験、体力を考えて、1年生の女子に渡渉させるのが恐かったからである。細引を張って沢を渡らせる。浅い所を選んだにも関わらず、水は腿を越えて足の付け根のあたりまできていた。僕はなるべく明るく事を運びたかったので、流れの中でこけそうになっている奴を笑いながらからかったりしていた。そしたら、長谷川に「笑い事じゃない」と怒られた。そのとおりだと思った。

この日の作業は、小屋の回りの作業をやる者と、高三郎の山頂の作業をやる者とに分かれて行うことになっていたのも、引き返した人達には小屋の作業を手伝ってもらおうこととした。

高三郎の登りは相変わらずきつい。雨のせいもあって予想より時間がかかり、自分としてはかなり焦っていた。1回生にとっては初めての高三郎である。いきなり大雨の中を登らされたこともあいまって、現役部員の高三郎嫌いはまたかなり進むことだろう。

結局頂上に着いたのは11時近かった。判っていたことだが、藪に囲まれた半径1mも空間がないようなピークにはうんざりした。その一方、ピークを見た時の1回生の茫然とした顔は面白かった。

昼食をとった後作業にとりかかる。北アルプスと白山方面の展望の確保を目指し、皆黙々と作業をする。

僕自身は、入山前にあらかじめ石川に作らせ高三郎頂上の看板を、古い看板と付け替える作業に取り掛かった。付け替えた看板は非常に上手く出来ていて、何か看板だけが周囲から浮いている感じであった。作業は皆狂ったように行い、約4時間、1回の休憩もとらず行った。

4時間後にはそれなりに満足のいく空間が開



42	42	41	41	43	41	43
伊	志	田	矢	加	竹	清
藤	賀	村	内	藤	内	水
	43					
	矢					
	田					
	部			43		
				杉		
43				村	41	
小					長	
倉					谷	
					川	

撮影：41期 河村

4時間の奮闘後、真新しい看板（標識）の前で

けたが、ガスと雨のため、他の山は何も見えなかった。

3時に作業を打ち切り下山する。下山も雨のために思ったより時間がかかり、小屋に着いた時にはもう6時近くになっており、暗くなり始めていた。今さらながら、夏の終わりを実感した。小屋の周りもきれいに整備されており、こちらの作業も滞りなく行われていたことが判り安心した。小屋に着いたあたりからあんなに激しく降っていた雨が上がったが、そんなことはもうどうでもいい気がした。

その日の夕食は小屋に残っている人達に作ってもらっていたのだが、過去のワンゲルの食事の中で一番おいしかった。有り難うございました。

今回は小屋作業という行事の特性上、一部の部員には多少の無理をさせることとなりました。しかし自分の経験上、辛かったことや苦しかったことの大半は、後々の良い思い出となります。今回のことも、後から思い出せば、ワースト山行として良い思い出となることでしょう。まあ、これは作業が無事に終わった今だから言えることです。

最後に、今回の小屋作業の中で、僕の考え、決定を支持してくれた他の3回生には大変感謝しています。自分が今回CLをやってみて、今までの新トレのCL、夏合宿でLをやった人達の苦勞が初めて判った気がします。





石川県消防防災ヘリから病院に搬送される大出さん  
 =27日午後3時28分、鶴来町の手取川河原

# キノコ採りの男性 転落死

## 吉野谷 沢に降りる途中、滑る

二十七日午前十一時半ごろ、水畠谷付近で、松任市千代ろ、石川県吉野谷村中宮の野西(よし)丁目一〇ノ一〇、会

社員大出(おおい)さん(五〇)が林道から転落した。一緒にいた仲間が約七き離れた同村中宮スキー場に救助を求め、

県消防防災ヘリが出動、大出さんは午後三時二十分ごろ、ヘリに救出され、鶴来町古町の公立鶴来病院に収容されたが、頭部打撲などで間もなく死亡した。

鶴来署の調べでは、大出さんは溪流釣り仲間三人とともに、山遊びを兼ねてキノコ採りに来ていた。大出さんは林道からロープを使って約三千以下の沢に降りる途中、二十ば降りた地点で足を滑らせて転落したらしい。



11井上 12 大出 13 南 13 橋正 13吉田 15奥名 13柴田 13大島  
 大出様の2週間前の笑顔です

平成10年9月27日、吉野谷村の山中において  
不慮の滑落で亡くなった 故 大出 徹君に  
12期の同期として心より哀悼の意を表します。

### 弔辞

(30日の葬儀において捧げたものです。)

12期 赤地 賢一



大出君とはワングルの同期でした。  
卒業後一度逢ったきりでした。  
20数年振りに逢った彼は この遺影でした。  
好い顔になって写っているおっちゃんの大出でした。

大学一年の夏合宿に 彼と同じパーティーでした。  
南アルプスを歩き続けました。  
重い荷物にも 冷たい水での食器洗いにも  
不平不満を 一言も言いませんでした。  
暮れゆく富士を眺めながら 時にニコニコと笑い  
朴訥に話してくれました。  
白山の春山の吹雪を 共にくぐり抜けました。  
ニッコウキスゲのお花畑で 昼寝も楽しみました。

爾来、大出は 一歩一歩踏みしめて  
誠実に 優しく 生きてきたと思います。

私達の同期は図らずも 大出君だけが金沢に残り  
他は各地に散っています。  
一堂に会することもありませんでした。  
ワングルの集いが有る時、  
いつも彼一人が同期の代表で 出席してくれました。

つい先だったの医王山の集いで 彼が言ったそうです。

俺達の同期も一度集まるように

俺が声をかけないといけないのかなぁーと。

それが こんな形で集まるようになるとは…

昨晚 河辺が言いました。

大出は体を張って俺達を集めてくれたんじゃないか。

これからは 集い逢って、大出を語ろうと。

大出は 山が好きだったと思います。

素直に 自然体で溶けこんでいたと思います。

また この地も好きだった。白山と医王山の在る金沢が。

それ以上に 惚れ込んでいた松世さんと 二人の息子がいる  
この地を 愛していた。

将土君と 泰土君、名の通り二人は大地に根を張り

素晴らしい若人になりました。

実に気丈に しっかりと 昨日、謝辞を述べました。

胸うたれました。

大出。 松世さんと、将土君、泰土君を、

おまえを思う多くの人を 残して逝くのは、

悔しいだろう。 無念だろう。

仕事も まだまだやりたかっただろう。

そして、おまえがいなくなって

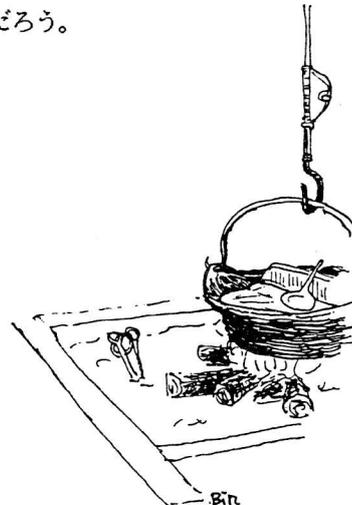
俺達も 心から悔しさが残りました。

もっと 語りあっておけばよかった。

もっと 山も一緒に歩きたかった。

日本酒も 呑みたかった。

にこにこ 朴訥に話す おまえと…。



## 大出君の思い出

12期 津田 伸生

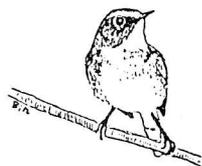
大出君。君の訃報を聞いて、一番先に頭に浮かんだのは、

あの少しはにかみながら 白い歯を出して  
にこやかに人と話していたあの顔を、  
もう見る事ができず、又、  
ゆったりとした 少々越後訛のあるあの声を、  
もう聞くこともできないのか  
ということだった。

2年の春合宿の際、白山の大汝に登り、  
寒くて長い道程を 一緒に帰って来た時、  
みんな疲れて 黙々と歩いていたが  
そして特に君は 片方のワカンを無くし、  
尚いっそう苦勞し 遅れ気味になっていたが、  
それでも休憩時に あのにこやかな顔を話し、  
パーティーを和ませていたことを  
思い出す。

新潟県の高田から 金沢へ来て  
それ以来 金沢に根をおろし、  
金沢生まれの同期より長い期間  
白山をはじめ 石川の山々を愛し、登っていた。  
流れ旅人みたいな私からみると  
羨ましい限りだったが…。  
やはり、友がいなくなるのは  
本当に寂しい。

ワングル歌集にも載っているように  
何時かケルンを積み  
白山の溪谷に 行きます。



大出君とは、昭和43年の2年性の時の夏合宿で同じパーティーでした。リーダーは睦山さんで、たしか後に彼の奥様になられた松世さんも一緒だったように思います。

ルートは、折立から薬師岳を登って薬師沢に下り、そのまま黒部源流を詰めて三又蓮華岳へ至り、槍見温泉へ下るものでした。

ですが、彼の印象は夏合宿本番よりも、それに先立つトレーニングの際、倉谷ベルクハイムから二又川へ行った時の方が、はっきり思い出されます。

その時は雨のため犀滝へは行けず、昼食時に濡れた衣服を乾かすため、途中の河原で盛大な焚火をしました。彼は「俺は土木工学科だから、ここで石を焼いて風呂を沸かせてみせる」と言いだし、せっせと火に石をくべだしました。結果は時間切れで、一畳ぐらいのプールが生温かくなっただけでしたが、皆で足を入れて彼の努力を讃えました。

その他、上越市出身の彼はスキーが得意で、クラブの時代には、赤倉、池の平へ誘ってもらい、パラレルターンを教えてもらいました。

また、卒業後も東京で何度か会い、彼が働いていた東京の地下鉄千代田線、福井の真名川ダム、カリマンタンなどの工事現場の話をお聞かせしてもらったこともあります。

彼との記憶は、山そのものより、何気ない山の生活や町での記憶の方が鮮明で、それぞれで知った彼の人となり、その後の私の人生にもいい形で反映されているように思います。

私は、今年の9月26日に、24年余を過ごした東京から金沢へ戻ってきました。クラブの同期で金沢在住は彼と奥様のみなので、転居の翌日連絡をとろうと思った矢先に、彼の訃報をテレビで知り、まったくの運命の悪戯に、完全に言葉を失ってしまいました。

少し日がたつた先日、子供達を連れて四半世紀ぶりに医王山に登りました。秋晴れに映える紅葉の白登山頂から、高三郎や大笠などの犀奥から白山へ続く稜線が見渡せました。

上で書いたことは、この時浮かび上がった記憶の一端です。まだ、彼とは山や町で出会えるような気がしてなりません。

心からご冥福をお祈りいたします。

12期 田中 茂

齢50の大台に入り、  
今までの人生を振り返る時期に、  
大出(あえて同期のよしみで、呼び捨てを許して下さい。)の訃報を聞いた時、  
不慮の事故とはいえ、  
我々の仲間の悲しい別れが  
現実に起きているのだと  
夢から醒めたような気持ちです。

精神的に余裕のない社会生活に追われ、  
便りのないのが元氣な証拠と、  
なまくらを起こしていたのが悔やまれます。

振り返れば、30年前の友人との思い出は  
人生の中でも、最も充実していた時期でした。

これからは、同期の仲間と、  
墓前で大出を交えて昔話をしたり、  
酒を酌み交わしたりし、  
親交を深めていきたいと思ひます。

## 亡き大出君

12期 宮島 孝司

大出君、山中にて亡くなられるとは、さぞや無念であったろう。若い子息を残して。

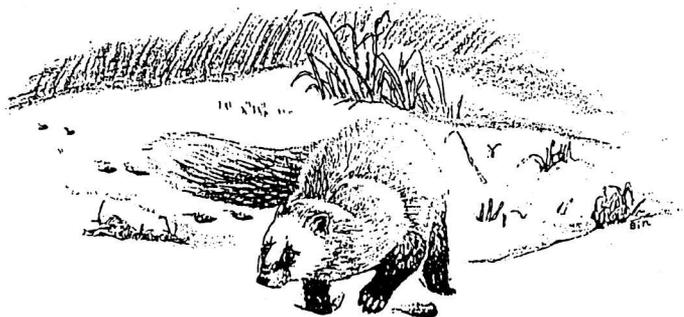
小西君、河辺君より、夜中にこの悲しい知らせを受けた時、驚き、一瞬信ずることができなかった。その直後、30年前のことが脳裏に、昨日のこのように鮮やかに浮かび上がってきました。

当時、彼の下宿にて、しばしば夜中何人かの部員と共に談話をしたり、飲みに行きました。それがどんなにあの頃の私の心を和ませたか。思うに、彼は人を、友人を集める何らかの資質を持っていたのではないか。それは彼の人徳だったのではないのでしょうか。彼と共に居る時、又、さらに何人かの部員と共にある時、当時の私の不安・孤独はどんなに癒されたことか、今も決してそのことを忘れることはありません。

今となつては、彼と共に杯を重ねることもできなくなった。あまりにも悲しい!無念!

けれども、キスリングを背負って歩く彼の姿は私の脳裏に焼き付いている。私の心の中では永遠に生きている。

最後に、奥様である松世様、及び子息の皆様には、慎んでお悔やみ申し上げます。一日も早くこの悲しみを乗り越えられ、強くたくましく生きて下さるようお願い申し上げます。



## 故 大出 徹 氏を偲ぶ

11期 長岡 正利

10月末の穏やかに晴れた日曜日の朝、大出様(奥様)から、「主人の遺品を整理していたところ…」との電話を戴きました。最初は何が何のことかと判らず、委細をお聴きするのも悪いようで、戸惑いつつの要領を得ない受け答えとなったものの、それが小生が初めて聞いた訃報でした。後日、別に伺ったところによれば、その1ヶ月前に、雄谷川水晶谷での墜落との由で、享年50歳。

考えてみれば、氏とは卒業以来一度もお会いしてはいない。その後に歩まれた人生とその業績について、あるいは事故の新聞記事にあった氏の溪流釣りのことなどについても、小生は何をも語ることはできません。

事故のことを知った半月ほどの後、11月なかばに白山麓に向かった折、遭難の地である雄谷川の奥を望む地まで行って来ました。

晴れるでもなく降るでもなく、時に柔らかな陽の差す晩秋の日。やがて初雪を迎えるであろう山々はあくまでも静かで、暫し佇んでいるうち、目前の、大笠山から西に続く尾根を残雪期に氏とともに辿った日々が次第に鮮かに浮かんで来ました。

今はもう30年ほど前のこと。その年は雪が多く、蛇谷沿いでは至る所に残っている巨大な底雪崩の堆雪を乗り越えて、今では辿る人とてもないだろうが、尻高谷取水口からの岩尾根を苦勞して直登。その翌日は笈ヶ岳を越えて、無雪期の笹原からは想像できないような、大笠山千丈平の波打つ大雪原。天気はさほど良くはなかったものの、ちょうど正面遙かに時折見え隠れしていた白山。

この山歩きの最後は、目前の、今回の遭難地の北側に連なる尾根を辿って、左に見えている中宮の聚落によくの思いでたどり着いたこ

と。その辺りでは、出作りの畑の跡に、見事に一面にカタクリの花が咲いていたこと。それが夕方近くなって、ようやくに霽れ始めた空から差し始めた陽光の中でえもいわれぬ色に見えたこと。つい数時間前までの薄墨色の残雪と寒々としたブナの幹、ヤッケから出た髪に次々と水滴が結ばれていた冷たい濃霧の世界に較べて、何と暖かく感じられたことか。

30年近くの間、まったく思い起こすこともなかった風景の記憶。30年前の雪の大笠山の上に広がり始めた空の碧さのことなど。書き始めれば徐々に記憶は甦り来たり、今も更に、つい数日前のことの如くに思われます。

あれから、日とともに氏の面影は忘れがたく、というよりは却って、かつての氏の笑顔と声の記憶ともに、30年ほど前の白山麓での日々が次々と想い浮かんでくるが故に、敢えて拙文を寄稿させていただきました。



## 大出君・熊・岩魚

0期 田村 昭夫

大出君の訃報を村田泰恵さんから受けた。信じられなかった。

死は突然訪れる。私は今年の盆に会津の山道で子連れ熊に襲われた。峠で鉢合わせとなり、突進してきた母熊に、咄嗟にマウンテンバイクを楯にぶち当てた。彼女は谷に転げ落ち、私は後も見ず逃げ帰ってきた。もしあの時、息子のマウンテンバイクを引っ張っていなければ、応

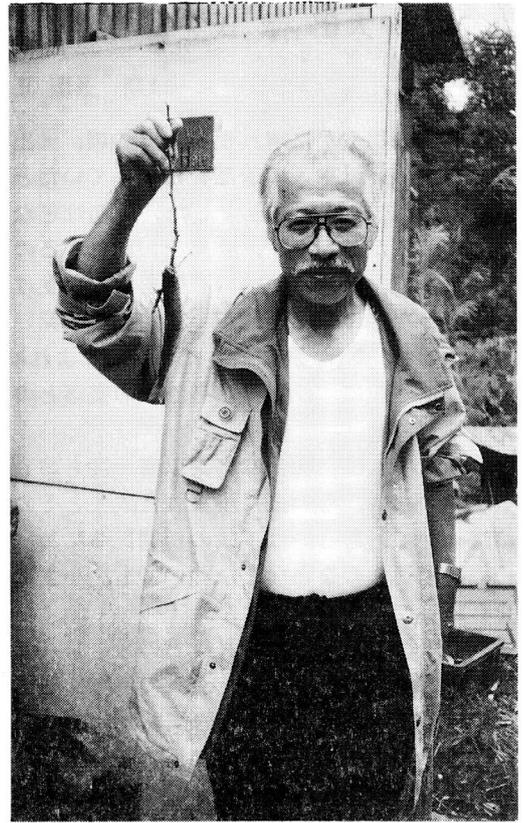
戦する術もなく、私の命は終わっていたかもしれない。

生死は紙一重である。大出君の死もそのようなアクシデントだったと思いたい。

大出君の葬儀に出てから三日後、倉谷の山小屋酒場に出掛けた。皆が便所建設や道整備をやっているのに、何もしないのは気がひけるので、大出君が残っていた釣り道具で、岩魚釣りにでかけることにした。釣れる当てもなかったのに、30分もしない間に手応えがあり、15cm程の岩魚が釣れてしまった。岩魚にとっては、まさにアクシデントだった。

鰓から小枝を差し込んで吊るした所、岩魚は頭から血を流して苦しんでいる。私は思わず、「大出！」と叫んでしまった。そして三日前に見た納棺前の大出君の顔を思い出して泣いた。大出君は崖から落ちて、四時間意識があったという。頭から血を流しながら、薄れゆく意識の中で、君は何を思っていたか。

君はいい奴だった。いい奴程、神仏に好かれて早く逝くのだ。もうすぐ俺も行くから待っていてくれ。



「いつも同じ服では…」とおめしかえて撮影に臨まれた教祖様。戦果は骨酒に。

## 1998 秋

13期 辰野 隆義

台風7号の爪跡はすさまじい。

その1) 駒帰から車で数分の箇所の道路が大きくえぐり取られ、通行止めとなっている。土砂は除かれ、下部にコンクリート基礎が打っているので、それ以前からのものかもしれない。

その御蔭で車をここで乗り捨て、30年振りにダム手前の道を歩くことになる。舗装はしてあるので昔よりは歩き易いが、手にビニルパイプ

と罐ビールの袋を下げ、軽いとはいえ背中にそれなりの荷を背負ってのいつもより2時間長い歩行は、睡眠不足の体に応えた。

さすがに舟田さんは日頃の鍛練の賜物で、全員の食糧の入った重いザックを背負い、ペースを崩すことなく歩いている。田村大先輩は少し遅れ気味ながら、これまたいつものペースで悠々と歩いておられる。私と大島君はというと、この4人の中では、外観上はともかく、かなりきつそう。

その2) 今日の天候は素晴らしい。久々の晴天、秋晴れである。この天候に「騙された」のが大島君である。

せっかく持参した長靴をそのまま車内に残し、スニーカーで軽快に出発となった。初めのうちはそれでよかった。快調である。ところが、しばらく行くうちに、状況は一変した。

山から本流へ流れ込む小さい沢という沢が、土石流で埋まり、行き場を失った水は道路上を走り、水浸しなのである。御蔭でダムに着く頃には、彼のスニーカーの中はぐっしょりと濡れてしまった。

その後ダムを過ぎても状況は同じで、ガレ場の切れ込みはさらに浸食をきわめていた。

その3) ようやく吊り橋を渡り、ほっと一安心。長かった歩きももう一息。旧倉谷部落に差しかかり、途中アケビ、クリも大量に収穫し、気持ちも軽く前進する。

ところが、河原にさしかかった時、皆啞然とした。毎年、秋の山小屋酒場は、ススキや背丈の伸びた雑草の中を、ベルクハイムに向け最後の行進と相場が決まっていたものである。それがしかし、1本の草もないのである。わずかに残る茎は横倒しになって河原の砂に埋まり、まるで賽の河原の如く、砂と石だけのだだっ広い空間に変貌していたのである。本流はいつもの場所に川床高く流れている。そしてもう1本、山際に沿ってあった水溜まりが、立派に小川となって砂丘を横切っていた。あまりの変わり様にキョロキョロと見廻しながら歩いていると、ベルクハイムの登り口を通過しそうになった。

その4) ベルクハイムに到着。いつものことながら、登りの階段を息を切らせながら足を運び思うのは、水が出ているだろうか、ということである。今回は、…予想通り、水は出ていなかった。

荷物を下ろしてすぐ、私と大島君は工具を持って水場の沢へ。そして、ここでも今日何度目かの啞然。

取水用のポリパイプは大きく下流へ流され、折れ曲がっている。岩も流されて、沢のよどみが増えている。取水工事の時、あれ程苦勞してよどみ場を探し、ツルハシやスコップでよどみ場を作ったのに、今ではどこでも取水できそうだ。二人で以前取り付けしたステンレスの取水カゴを探したが、跡形もなくなっている。しっかりと据え付け、上に石も乗せておいたのに。春に調整して一夏を越した今の時期なら、再び半分以上砂に埋もれているはずのあたりである。それが跡形もなく、パイプからひきちぎられて流されてしまっているのだった。

とりあえず応急処置をし、水が出るようにした。来春はもう一度、水場の整理をしなければならぬ。

その5) それでもしっかり便所の骨組は残っていた。

これからは便所の話です。



一穴式水洗トイレ KUWVバージョン

今回の準備段階で最も困ったのは、便器の調達でした。大島君から、いろいろ探したが希望の便器がないとの連絡を受けたのは、数日前のこと。陶器製ならいくらでもあるが、なにしろ運搬が難しいのと、冬凍ったり、何かの拍子に割れた場合に取り替えできないということで、樹脂製のものという大前提があったのです。

ところが、窮すれば通ず。彼が探してきた代替品は、プラスチック製のプランターであった。なるほど、形はよく似ているし、運搬にも支障なかった。

その底に丸い穴を開け、配管の上に乗せて固定する。春の酒場の時に運び上げておいた石や砂が、本当に有り難かった。これがなければ二人ではギブアップだったろう。

その時、河原の方から異様な叫び声が聞こえた。川へ岩魚釣りに出掛けた田村さんであった。ひょっとしたらと思い、大声で呼んでみたが反応なし。ま、いいか。あの人のことだから、万が一ダムまで流されても自力で帰ってくるだろうと作業を続ける。しばらくすると、にこにこしながら田村さんが手に岩魚を一匹ぶら下げて帰ってきた。疑似針で岩魚を釣った嬉しさの余り発した雄叫びだったらしい。心配して損した思い。

作業は順調に進み、便器の固定も終わり、水洗用の給水配管にとりかかった頃、13期吉田君と15期佐野君が到着した。吉田君へはダムから道路状況を電話してあったため、覚悟済みで入山してきたからか、私のように疲れきった様子はみえないようだ。それをいいことに、即作業に加わってもらい、便所の仕上げ作業に入る。配管を接続し、バルブ、カランを取り付け、モルタルで表面をなで付ける。

しばらくすると薄暗くなってきたので、今日の作業を打ち切った。明朝私と大島君は用事で早立ちするため、明日の作業を二人に伝達し、終了とした。

その6) 我々が作業をしている間、小屋の中で、掃除、片付けをしていた舟田さんの独壇場である夕食。今回は松茸バージョンとかで、昼がまず松茸炊込みご飯。夕食はそれが栗御飯に変わり、松茸は土瓶蒸し風汁物で登場。丁度秋祭なのだそうで、饅巻、べろべろと祭料理も並ぶ。それに、名古屋から参加の佐野君が近江町で仕入れてきてくれた秋刀魚が香ばしく焼きあがり、ハマチは刺身となって盛りつけられて、実に秋満喫の献立でありました。街でもこんな豪華版にはなかなかお目にかかれない。いつも



3 田村 13 吉田 15 佐野 13 辰野 13 大島

いろいろ気配りしてくれる舟田さんありがとう。おっと、忘れていけないのが、雄叫びの岩魚。倉谷産岩魚の骨酒をまわし飲みなんて、これぞ究極の秋の山小屋酒場。田村先輩ありがとう。話は当然、一週間前に亡くなられた大出先輩の思い出に終始したのです。おりしも十四夜の名月が牙え渡り、絶え間ない瀬音と、虫の音の合奏。しみじみと語るにふさわしい秋の夜でありました。十分堪能しつつも睡眠不足続きの体は、いつのまにか眠りの幕をおろしていたのでありました。

その7) 翌朝、体は眠っていたいと訴えているが、叱咤激励起き上がり、さっそく便所の様子を見に行く。まだコクリートは乾いていないがそっと水を流してみる。うん、上々だ。これで安心して後を任せ下山できる。

朝食(松茸入りおじや)の後、残りの作業を頼み、便所完成の姿を確認せずに下山。6時30分小屋発。

30分ほど歩いた時、人の気配が。15期の奥名君と出会う。昨日入る予定が、奥さんの親戚の葬儀が入ってダメになり、それでも今朝、日帰りだけでもと出てきたらしい。5時には通行止

めの場所に着き、意を決して歩いてきたという。よくもまあ一人で暗い中をと思う。

その8) 今回の小屋酒場は台風のお土産のハブニングもあったが、いつもながら楽しい、心身共にリフレッシュできたものでした。無理して空けた土曜一日(何しろ、二週間前の総会の時も前日キャンセルせざるをえなかったくらいの状態)。あとで仕事に支障がでなければと思いつつも、やっぱり秋満喫のかけがえのない一日だったと思えるのでありました。残念ながら、光輝く便所の雄姿を見ることはできなかったがそれは春の楽しみにとっておこう。

皆様も、いつでも我バルクハイムへお越し下さい。水回りも整い、自然いっぱいのリフレッシュゾーンです。

もちろん山小屋酒場にもご参加下さい。酒がうまくなる程度の作業をやってもやらなくても可。遅刻も早立ちも可。フリーで、楽しく、ちょっと山グルメのワンゲル酒場です。

その9) 最後に先日山で急逝された12期大出さんに心から御冥福をお祈り申し上げます。

1997. 6. 5

北 陸 中 日 乗 舟

# 水中酵素利用の移動トイレ

『プラザはつめい』開発 10月めどに商品化を目指す

浄化槽や下水処理設備を必要としないのが特徴で、便器下に設けたタンクの水の中に、高温好気菌のバクテリアと水中酵素を混ぜてやることで、汚水や汚物を水と二酸化炭素に分解する仕組みとなっている。タンク内には、ヒーターも設け、常に水温を三五度前後に保てるようにしてあるほか、エアノズルから酸素を送り込んでおり、酵素の作用を活発にしてある。トイレ

石川県内の中小企業十五社でつくる異業種交流グループ「協同組合プラザはつめい」(代表・森岡吉男日拓産業社長)はこのほど、バクテリアの働きを活性化させる水中酵素を使い、汚水や汚物を分解、処理する移動式のトイレ「スイトピア」を開発した。トラックの荷台での輸送ができるため、建築工事現場やキャンプ場などへ売り込む予定で、十月をめぐりに二百万円前後の価格での商品化を目指すとしている。

レ一つ当たりで、一日当たり十人分に対応できる。スイトピアは、軽量鉄骨ラーメン構造で、重さ約五百kg。横三・四尺、奥行一・七七尺、高さ二・五七尺の大きさで、男性用と女性用の大小便器一個と男性用小便器一個、手洗い器一セットで構成。

今後は、臭気ファンや室内灯への電力を提供するために、太陽電池を活用した省エネタイプや便器が一つだけついた個室タイプの商品開発も検討している。

(田村教祖様提供)

北アなどでは既に使用されているようです。トイレの次は、水力発電にチャレンジという噂もあります。

## 9 8 秋期山小屋酒場だより

遅くなり申し訳ありません。原稿やっと出来ました。

11月8日に50kmハイクなる行事に参加してまいりました。昨年に続き2度目。奥三河地方の鳳来町から蒲郡市役所まで実質45kmをただただ歩くだけの一日ではありませんが、秋晴れの豊川沿いの道は結構見るべき所も多かったので、満足しております。朝9時から17時まで、ほぼ休みなしの8時間でした。

平成10年10月4日(土)  
~5日(日)

参加者	田村昭夫(0期)	辰野隆義(13期)
	大島良治(13期)	吉田穂積(13期)
	舟田節子(15期)	奥名正啓(15期)
	佐野哲雄(15期)	

報告者 佐野 哲雄

### ・BHの「さんま」

味覚音痴なのか、ただ単に忘れてしまったのか、何事も悪い思い出は思い出さないように馴らしてしまったのかワングルでの食事でも食べられないというような思い出は浮かんでこない。反対に美味しかった食物で真っ先に思い出すのはBHでの「さんま」である。先代のBHの最後の小屋じまいの時だから25年も前のことになる。その場にいたメンバー全員が感激した様子は当時のベルクハイムに置いてあったノートに図解入りで舟田さんが書かれていたように思います。その感激を差し入れてくれたのは、奥名君。今回は日曜日の日帰りでの参加でした。それ以来、あの感激をもう一度と機会をうかがっていたのですが、やっと、条件がそろったのでお返しを実行にうつしたのですが、如何がだったでしょうか？

勿論、割烹「舟田」の献立は今回も素晴らしく松茸丸ごと入りのお吸物、栗ご飯、等々・・・さらに、田村教祖が倉谷川で釣りあげた、いわなの骨酒も加わり、ぜいたくなほどのご馳走でした。こんなご馳走を、僅かな労働奉仕でいただけるのですから(こんなことを書くと事務局長は困惑されるのではとは思いつつも)、まだの人は是非一度、またの人はもう一度、小屋酒場にご参加ください。



### ・駒帰から300メートル？

土曜日の後発隊は、7期の村田さん、13期吉田さんと、私の3人の予定でした。先発隊から吉田さんに入った連絡はショックなものでした。駒帰から300メートル程先の地点で工事中で車は通れないとのこと。ほとんど駒帰から歩かねばいけないなんて！これを聞いて腰を痛めていた村田さんは残念ながら参加を断念された。村田さんから調理パンを差し入れてもらった2人は、不安を抱きつつも、とにかくBHへむかったのです。駒帰から300メートルの地点を通過しても工事中の看板は見えず、「もう工事は終わった」だの、「工事中でも何とか通してくれるのでは」とか、都合の良いことばかりを話していたら、発電所の少し上流付近で通行止めになっており、先発の辰野さんの車も駐車しており、そこからBHまで歩かねばなりません。工事現場の道路は山側に70~80cm残して4m×8m位の大きさにえぐりとられており、自転車がやっと通れるぐらいでした。たぶん今夏の豪雨が原因なのでしょう。そのような状態を見て先発の大島さんは中止を本気で考えられた様です。大島さんがおっしゃることは、本気なのか、冗談なのかわからないことがよくあるのですが、私が遠くから参加するので仕方なしに強行した、という内容の話を3回もしてくれたのでしたから。1時間半の歩行の予定が突然倍以上になるのですから無理からぬこと、ましてや資材の歩荷も加われば。それでも予定通り実行されたのは、BHの魅力か、優しさからか？

工期は平成10年11月末までの工事なので、来年春の小屋酒場はダムから歩くだけで済みそうです。

### ・熟達者向け

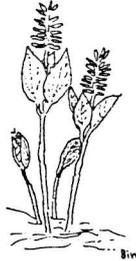
高三郎の登山道整備も問題を含みつつも進んでいるようですが、思わぬ所で整備が必要な所ができていました。この夏の豪雨と、台風が原因とおもわれる自然のいたずらがいろいろなとこに残されていました。先のダムまでの工事箇所もそのひとつですが、ダムから倉谷B・Hの間でも整備が必要と思われる箇所が数箇所出来ており、このままでは、田村教祖曰く「熟達者向け」のルートになりつつあります。特に、ルートがまるで雪渓のスノーブリッジ状になっているところが2カ所あり、夜間通過は避けたほうが無難です。その他、小さな沢の付近での崩壊部分の整備、下草の刈り込み等は来春の小屋酒場の作業テーマにしたい位です。倉谷や高三郎を利用するワングル以外の人に、先を越される前に、整備しようではありませんか。その時は数多くのOBの参加をお願いします。

・山小屋のトイレ

今回のメイン作業はトイレの築造で、前回までに資材の調達、荷揚げもほぼ終了しており、便器本体の取付、給排水の配管の仕上げ、囲いの建屋の築造を施工する予定でした。

便器本体は大島さんのアイデアで樹脂製のあるものを代用することになりました。まさにヒット作です。便器の取付は予想以上に体力が必要でした。便器を囲む部分の玉石積み、セメント用の砂、骨材運び、セメント練り、きつい作業が続いたが夕方には給排水のテストまで出来た。柱にクレオソートを塗ったところで今回の作業は終了。来春いよいよ堂々完成、乞うご期待！

さて、ここでクイズです。便器の代わりに樹脂製のあるものとは、何でしょうか。正解者には、B Hへ1泊2日の旅ご招待と、この便所の最初の使用権をさしあげます。答をOB一言通信に書いて応募下さい。当選者は来春の山小屋酒場の際の案内にて発表いたします。(辰野 山小屋オヤジ殿、かつてに決めました事後承認願います。)



倉谷そして---

15期 舟田 節子

40周年の陰に隠れて、今回はにぎにぎしくとはいかないな…の予想でした。恒例化している方ならともかく、「山小屋酒場もありますよ」とお誘いを重ねてもね…。

ただ、現役の皆さんの方は「部をあげてなら、40周年、小屋作業と一気にやった方が人は集め易い」と40周年の3日後には倉谷入りをしていました。台風5号と遭遇しどえらい目にあったようですが、予定どおり頂上の伐開を終了したとの報告をうけました。

人夫の集まる見込みなし、かつ登山道修復は一応の完遂をみたという訳で、秋の山小屋酒場は小屋作業オンリー。記念行事の思い出を肴に飲むか…辰野さんへ詰めの連絡をと思っていた矢先、大出さんの事故がおこりました。

山小屋酒場の中止は考えませんでした。中止してもそれはお悔やみになる訳ではないし、明日があるといえないのは、誰も同じことだったからです…誰も「どうする?」とは言いませんでした。みんなそれなりに悟っていたのだと思います。

8年前、比田井(石田)さんが亡くなった年。同期会を今年は中止しようかと迷いましたが、だからこそやろうと、増田さんが幹事で静岡で開催されました。比田井さんは突然の死亡ではなく、何度か入院を繰り返し、末期はまさに命を刻む闘病生活となりました。その為、何度も見舞いに出向いた人、足を向けなかった人と同期の対応にも乱れが出てしまいました。私も手紙ですませた一人です。健康な私が、どんな顔をして、どんな言葉を用意して、死出間近の仲間に面会すればよいのか?怯んでしまい、多忙を優先してしまいました。

そんなもやもやを残したままで会した同期会、酔いか廻ってきた頃に爆発したのでした。おそらく、社会人になってからあんなとっ組み合いをしたのは初めてではなかったでしょうか?もつれあっている者も涙、止めにかかる者も涙で、しまいには皆で泣いてしまいました。

何で死ぬんや!の怒り、哀しみ…が、だからこそ、生きている時間を大切にしなければ、かけがえのない時間を生きなければ…に変わっていきました。

あの時、子守専門になって、体中にみかんを押し込まれていた横井さんまでいなくなって、「華の15期!」の語尾がかすれるような寂しさが心中をよぎります。気落ちした時、仕方がないとあきらめかけた時、彼等のことを思い出し、何と無駄心に迷う自分と叱咤してしまいます。

山小屋だって、行けるんだもの。やめる理由なんてないサ!

10月3日(土)

まぶしいような晴天。大島さんの車に便乗し教祖様と私は小立野キャンパスへ向かう。場違

いなプランターを見つけ、はて奥様にガーデニングのご趣味でも思ったら、何とこれが便器になるということでありました。(私、これからプランターを見たら、下品に笑っちゃいそうで心配です。)そこから辰野さんに電話したら、まだご在宅で…つつじヶ丘と、小立野は非常に近いのだということも納得しました。

さて何度目かの倉谷行きです。何度目かになると、こうして倉谷へ向かっているのも当然の気がしてくるのがまた不思議です。

5年ちょっと前、35周年実行委員会結成のため、地元にいる筈のOBに電話をかけまくりました。大島さんの所へも卒業以来初めての電話をかけました。山のような戸惑いと、気恥ずかしさと…でも、これがやれなかったら私はOBと名乗る訳にはいかないと、20余年のブランクを越えてかけました…そして、こうやって再び昔の先輩や仲間と倉谷を訪れる日が戻ってきました。夢みたい。夢みたいでありながら、今はもう、このOB会をめぐる人の輪が人生からすっぱり抜けることはとても考えられない。このOB会にかけた時間を他に向けていたとしたら、私はどんな人達と巡り逢えたというのだろうか…。

エスティマが急停止する。前方の道路がない！後ろを振り返れば、うっそー、寺津の発電所が見えるではないか！しいて弁護すれば、懸念がなかった訳ではないんです。でも、大出さんの事故にもめげず、やるんだ…の時に、つい、希望的観測に情が走ってしまいました。確認の電話1本、かけるべきでありました。

澄み渡る青空、善男善女は覚悟を決めて歩いたのでありました。背中には例の便器代わりのプランター。思わずククッとなるのをこらえながらの道中は、くるみがコロコロ転がり、時としてスキー場への道路のごとく路面を洗う水流には、飛沫をあげつつの行軍でした。そしてやっぱり切れ込みでは「何時になったら吊橋がつくんじゃ」と悪態をつけて、ダムに着きました。



仕事量としては、ここで引き返してもいいくらいでしたが、そこは我慢して、ダムの電話を借りて後発の穂積さんを脅かし、さらに先陣を続行したのでありました。

ダム沿いの道は要補修箇所が何箇所も出現していて、これなら永久に金沢市からの補助金がいただけそうです。治山事業とはなるほど金蔓になるものです。

しかし、BH下の大変貌は、そんな皮肉がふっとぶほどでした。ますます草木が生い茂り…程度の経年変化だったものが、広々大テントサイトが出現していたのです。我がBHは、その昔お寺が建っていた場所なのだそうです。(BH13号参照)だから、雪崩にも水害にも一応安心とはいえるでしょう。

今回は総会後に加藤さん達が掃除して、次に現役達が使ったの後でした。それにしてもすでにカメムシから、ハチからの残骸が転がり、冬近しを告げていました。私は妊婦になれても、人夫には間に合いそうもなく、専ら年越しのお掃除に専念しました。

無人の小屋はなにより生き物達のオアシスになっておりますようで、まずは蚊帳がお着替えあそばした跡が2箇所ありましたし、ミイラから、風化したボロボロからあらゆる隙間から出てきて、かすかに「ギャー」とか「オー」とか洩らしながら、掃き、拭き清めました。今時の朝シャンが当然の若者達に、小屋を好きになれというのは、やっぱり無理なんだろうなと思いました。じゃあ何故私は好きなんだろう。

好きといって一人で来るほどには物好きにな

れない。仲間との思い出があって、今も仲間がいるから来れるんだ…そう、もう二度と来ることはあるまいとここを後にした日もあります。それがここにいるし、外では、大島さんと辰野さんが漫才みたいな掛け合いをしながら、プロならではの配管に取り込んでいるのです。雑巾のゴミを窓から払い落としながら、こんなシーンの中にいるなんて、やっぱり夢みたいと思いました。

教祖様は…教祖様は釣り道具を手にして、「釣れもせんのだけど、まあ馬鹿なのがたまにはおるからな」と岩魚釣りにでかけておられました。と、「〇〇ケテエー」のかすかな叫び声。「今、助けてえと聞こえなかったか？」皆手を止めて、下流側を覗き見れど…判明せず。皆それなりに田村さんの「生態」は判っているのです。まあ事故ではなからうと作業を続けました。私も、あの格調高い教祖様が「助けてえ」などという俗語で締め括るとは思えず、もしそうだったら、彼の美学にかけて「やり直し！」と這い上がってこられるはずだし…と思いつつもお姿を拝見するまではちょっと心配でした。幸い教祖様は戦果をぶら下げてお帰りで、感極まられて「オオイデエー」と絶叫されたものと判明し

ました。一昨年、小屋で教祖様が80日の修行をされた折り、溪流釣りを嗜まれていた大出さんは故郷のコシヒカリを差し入れられたり、岩魚釣りを指南されたり、小屋を訪ねられての親交があったのでした。葬儀の席では静かに涙をふくしかなかった教祖様にとって、ここ倉谷のせせらぎは思いを吐き出すメロディーとなったのでしょうか。

さて、明るさの残るうちに食事の用意を。と、穂積さんと、はるばる岡崎からの佐野さんの登場です。小屋って、こうやって、次々人が増えてくるのが嬉しいです。もっと遅くなるかと思ってたのに…そして、すぐ働くのが、これまたすごいですね。

(さて、辰野さん、佐野さんとは重複しないように書きます。でも、佐野さんのクイズについては、他2名がばらしてしまっておりますね)

秋刀魚…ただでさえ長くなった道中をよく運んでいただいたものです。ええ、あの時の秋刀魚よく覚えてます。いろいろ落書き帳に図解を書いたのも。奥名さんが買って、道端の雪を冷却剤がわりに入れて、一緒に駒場から歩きました。あの小屋じまい、みぞれの中で撮った犀川ダムでの写真には高村さんも写っています。



一輪車の中で混ぜると、汚さず、移し替えの手間いらず。人手なし、物なしだと汗えるオツム。

こうやって思い切れば再現できることもあれば、決して再現できないこともあるのが25年の歲月というもの。ともあれ、煙を気にせず焼いた秋刀魚、ハマチの刺身も加わって、北アルプスでピフテキが食べられる時代に堂々渡り合った豪華メニューとなりました。

夜はずっと大出さんの思い出話に暮れました。あの新トレ事故後でピリピリしていた夏合宿に、大出さんは、四年生として同じパーティーにご参加でした。私達一年生の食当に加わり、ここに鍋持ちをしていて下さったことを覚えています。にっくき上級生に、食当の1年生がコバイケイソウを刻んだ話も、その時間いたように思います。明日に中秋の名月となる月は、山々を皓々と照らしていました。便所もいけれど、こうやって…も、まあ。

下ネタへ落ちたついでに…私、隠れ場所を探したり露出したり、絶対女は損だと思ってました。そう言ったら、宇野さん「女は誤魔化せるけど、男はすぐどっちかばれてしまうやん」。へーなるほど。発想違うな♫という発見以上に男ってデリケートなんだと発見。いや、そんなことあらへん。あの養蚕小屋では、窓際から皆済ませやがって…。バリバリの靴履いては外へ出るの恨めしかったもんだわよ…ああ、「養蚕小屋」がキーワードになる世代ってのも、限られてるのよね。

日頃はちっとも思い出さないことが、芋蔓をたぐるように出てくる…それが山小屋です。

10月4日(日)

「起きて下さい！ダムから歩かんなんのですよ！」山小屋へ来てても女房役です。辰野さんも大島さんも、休日なのにお仕事。山小屋からご出勤なんて、これまた現役時代には考えられなかったシビアな現実です。

「ダムのおっさんが送ってくれんかなあ」

(ダムと崩壊地点を往復の、職員用の車があった)とブツブツ言いつつご出立。

そう言えば、四年の新トレだっけ。松林さん

と私、月曜の授業に欠ける訳にはいかなくて、二人早立ちしました。ダムで「運よく」パトカー(何の事件でいたのだろう)を見つけ、乗せてもらいました。「運よく」と思ったのは最初だけ。街中に入り、パトカーも非常時ではないのだから、朝の渋滞に巻き込まれる。外からじっと注がれる好奇の視線の数々、ああ、何か囁いている…顔もこわばり、小さくなってますます犯罪者風情になってしまった二人でした。あれから、救急車には二度乗りましたが、パトカーはあれっきりです。

さて、小屋の方はクレオソートを塗布したり、セメントを補充したり。塗ハケがないないと探し回ったあげく、枝の先に軍手を針金でくくりつけて代用としました。「あれは確か…」と各自の記憶をつなげて、それで出てきたり、迷宮入りだったり…それならこうしよう工夫してうまいまいと喝采したり。この感覚は学生時代というよりもっと昔、群れる友達かいて、何もかもをワイワイと遊びの材料にしたそんな頃にむしろ似ています。

さて私は年に2回のご奉公、河原からの階段を補修することにしました。小鍬でステップを刻んで…要するに削っては下へ落としていくんだから、流水で土が流されていくのと究極やてることは変わらん♫と汗を流していると、駆け登ってくる足音。

わっ、奥名さん。金曜日の「ごめん。また一つ葬式が入った」の電話で、今回は来れないと思ってたのに。駒帰から日帰りになるじゃん。OB会長を廻しただけでも、責任感してるのに、「こんな無理して…次の会長の成手がいなくなっちゃうよ！」と悪態つきながら、でもとてもとても嬉しかった私。

便所の方は、これ以上進めても雪の餌食になりそうでおしまいとし、小屋仕舞いに専念しました。

帰りの長い長い林道は、くすみ拾いの強欲おばさんに。屈んだら頭の方へザックがずり落ち



15佐野 15奥名 13吉田 3田村

(15舟田は、せめて「映像」は控えます)

そうなのに、目のくるみをヒョイと転がされたり…ンニャロ！童心に帰る一時。もう数時間後には、お父さんお母さんで、名刺を持った社会人なのね。

皆の集めたくるみも全部もらって、来る時より荷重く掃宅した節ちゃんでした。

## おまけ 秋の白山

「やまざと」って、読むのは好きでも書くのは…がメインの読者層らしいです。いろんな人が書いてくれたら、私も筆を控えられるんですが…。読んでいただけたら、多少は行間に重なる思い出もあるんじゃないか…と、性懲りもなくしたためます。

10月10日（土・祭日）

やっと晴マークが並んだ秋の一日。別当出合へ向かう。今日ナカオの5名は、「白山（越前）禅定道」（観光新道の尾根の続き・市ノ瀬までの旧道）の復元状況を確認に行くのである。

尚、正確にはナカオの4名プラス、大コブと称して憚らない舟田氏1名である。

（この大コブは時として、ワングルの同期会にもついてきます。私としては、「ワシモ族」「濡れ落葉族」に思えなくもないんですが、「あんない旦那さんはおらん。節ちゃんは感謝せにゃいかん。」なんて説教する同期もいます。ルセエ！日頃立てて、立てて、立て尽くしている結果やねん。）

今日は下山予定側に一台置いていくつもりだった。ところが、市ノ瀬でシャットアウト。夏山みたいに誘導されて、「なんでえ？」と思ったら、すでに駐車場は満杯状態なのだった。それも県外車がズラリ。

シャトルバスに押し込められても今浦島の心地。あたしゃあ天下のナカオ山岳会、こちらの知らん間に取りつけ騒ぎでもおきたんかいな？

（実際、ある知人は室堂改築があるから今年のうちにと慌てて、同日登っていたのだそう。）別当出合も夏山と同じ喧噪状態。秋山って多少は通の、静かな山が楽しめる世界だった。宇宙まで続いていると実感できる澄んだ空、じっとり濡れる草紅葉、時として走りぬける冬毛のオ

コジョー…これらはもうちょい晩秋のシーンだけれど、静寂が何ともいえず琴線を震わせた。なのに砂防新道は数珠つなぎ。自分も立派に中高年で、喧噪の一員でありながら、白けた顔で観光新道へ向かう私であった。

さて観光新道の方は、懸念の溝状の滑り易い急坂に巻き道が増え、岩止めも施されて、随分歩き易くなっていた。汗ばむ陽気の青空には汚物運搬のヘリが飛び交い、シーズンの終わりを告げている。ああ興醒め。自然を愛すと言いながら自然の最大の脅威は人間なのだもの。

今日調査の箇所も、自然に帰ろうとしている道に大義名分をつけて、復活しようとするもの。砂防はオーバーユース。他の既存の道はアクセス悪く、長く、利用しきれしていない。それぞれを未解決のまま、新しいことでなければ「仕事」にならない、予算がつかないとばかりまた白山が刻まれていくのは何か悲しい。山を歩けば、予算がついた年だけ大がかりにやって後はほったらかしの遊歩道になら山ほどおめにかかる。藪に埋もれたベンチ、吸殻入れ、柵…最初から不用のものが、不用と判りきっていても設置され、不用のままにうずもれる。こんなばらまき方しか山村の民が食べていく道はないのだろうか？

観光新道の尾根に入る所、ここから下の尾根続きが今日の仕事。通行不可と締め切っており、その為二人が、免罪符の腕章を携帯している。その本日の最高地点で大休止をしていると、何と梅さん夫婦が上がってきた。山で知人にでくわすのは嬉しい。というより、基本的にワングルの人には山で会いたい。どの山がどう、誰がどこそこへ行ってね、なんて話を同じ風に吹かれながらやっていたら、それが最高だと思おう。

ともあれ、白山に関しては、毎度上馬さん・梅さんは行政側委員として加わっているし、民間代表にはナカオの林代表が加わっている。つい最近もこの道を話題に含む会議に同席しており、この後にも、報告会の予定があったらしい。私はただのおばさんなのに、山に関しては、双

方からトップ情報がもらえる、かなりおいしい立場である。(いえ、日地出版か、昭文社かと携帯する地図に気を遣うこともあります。)

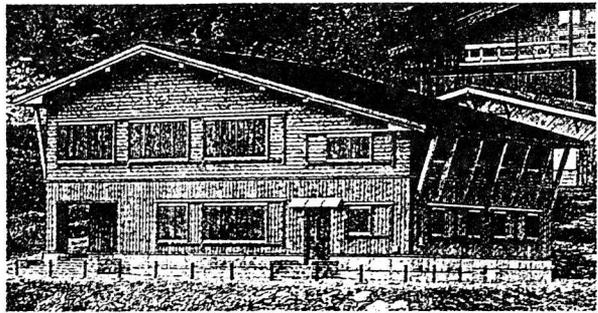
道の方は大がかりにやってある箇所もあれば一冬持つか疑問の所もあった。湿原らしき所、このルートならではの位置による展望、尾根歩き部分の気分の好き…しかし、利用者は？今時の登山者は、登山の世界に入りこみながら、軽薄短少。いわゆる3K(汚い、きつい、危険)も、「きれい(清潔)」「軽い」「健康的」の新3Kへと変貌している。おばさま方を満足させるよほどの付加価値がないと(下山地点に料理のおいしい秘湯がある、より後のアクセスが便利など)、遠回りして時間をかけて結局アクセス変わらずのこのルートが選択されると思えない。どうせ刻むなら、顧客満足、利用される道でなければ…。

おっと本日は、そんなお薦めでの伝承の岩や痕跡を探すのが目的だったらしい。幸い、岩屋を見つけ、廃物棄積の破壊の跡を確認した。道がちょっと枝別れのように見える度、林代表は遙拝の跡ではないかと確認しておいでた。この根気とそして博学には毎度脱帽。泰澄大師にまつわる調査の時も、図書館通いをされて、私達はただ金魚の糞でお寺巡りに同伴しただけだった。いつでも学べること、テーマを持って山を続けることを教えてもらった。ワングルは人が交替していくことで続いている。社会人山岳会はそんな交替がないことが長所の反面、急所にもなる。ただ好きだけでは続かない。

最後の六万山の急階段も、自然に堪えるとは思えなかった。高三郎の整備は効率よくないけれど、地形をよんだ踏跡が重なって路になる程度で、それでいいのだと、機材を見上げて思った。草の少ない今年、さすがにこのルートではいくつかの発見はあったらしい。林代表は何かと梅キノコ博士に尋ねておいでたが、キノコへの食気のない私はなおさら記憶回路が働かない。

林道を歩き辿りついた市ノ瀬では、さらに路上駐車の前が伸びていた。その晩の室堂宿泊者数は今年最高だったらしい。ハード面で、白山

には緑のダイヤモンド計画の予算がつき、建造ラッシュといったところ。これを愚挙としないために、もっともっとソフト面での知恵が待たれる白山である。



完成した南竜ヶ馬場セントラルロッジ  
石川県白峰村

## 南竜ヶ馬場ロッジが完成

石川県が「白山緑のダイヤモンド計画」の一環で白山・南竜ヶ馬場地区(白峰村)に整備していた休憩・野営場管理施設「南竜ヶ馬場セントラルロッジ」がこのほど、完成した。来年七月ごろに利用開始する展示コーナー、自然解説員

らが詰めるボランティア室、休憩室などが整備された。約三億円を費やし、昨年度から建設を進めていた。

標高約二千メートルに位置し、付近には湿地性の高山植物やアオモリトドマツの林など多彩な自然景観が広がっている。

## 白山登山に憩いの施設

### 岩間温泉に休憩所

県、12年オープン 露天大ぶろのそばに

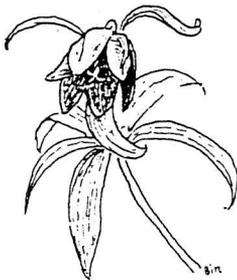
白山国立公園の登山口に位置する石川県尾口村の岩間温泉

泉元湯付近に、二十四時間利用可能な休憩施設がオープンし、平成十二年度の開所を

目指す。建設場所は白山山頂につながる登山コースの入り口にあり、特別天然記念物の岩間噴泉塔群に向かう通過地点ともなっている。県は登山者層が限られていた白山北部の雄大な自然をアピールする狙いで既に一部の登山道の大規模改修に入っており、休憩所を登山道の利用につながる拠点として活用する考えである。

する見通しとなった。県は五日までに、同温泉を源泉とする露天大ぶろのそばに休憩室やトイレなどを備えた「岩間休憩所」を建設する方針を決めた。年内に着工し、平成十二年度の開所を

岩間温泉元湯から約百五十メートル離れた露天大ぶろは、建設する休憩所から約二十メートルの距離にあり、休憩所更衣室がわりに使用すれば、手軽に大自

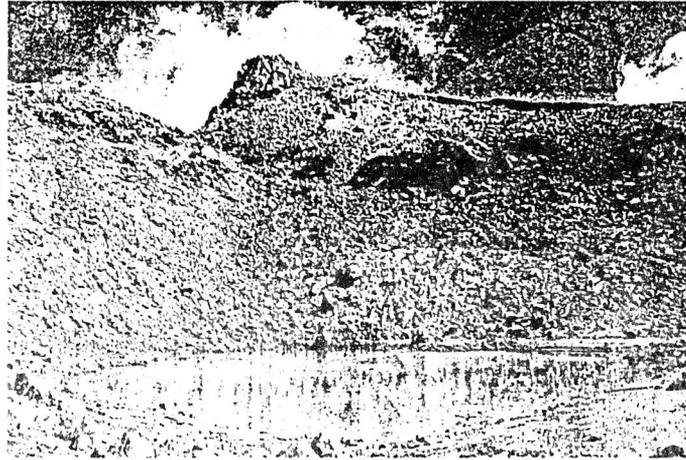


# 白山に異変 伝説の千蛇ヶ池でも

## 万年雪消えた



一面雪に覆われた昨年10月上旬の千蛇ヶ池



万年雪が解け、水面が現れた3日の千蛇ヶ池  
(写真はいずれも稲森喜八郎さん提供)

### 少雪、夏の長雨原因か

白山で唯一、年間を通して雪が解けない「多年性雪洞」として知られる千蛇ヶ池の万年雪が五日までに、ほぼ跡形もなく消えているのが右川県内の登山愛好家らによって確認された。越前の高層が千匹の葦を封じ込めて以来、厚い雪の層に覆われ続けているとの伝説が残る同池が水面全体を人目にさらすのは極めて珍しいとされる。県白山自然保護センターは今冬の記録的な少雪と夏の長雨が原因とみており、納まる気配がない露峰の異変に目を凝らしている。

#### 県内の登山愛好家ら確認

白山自然保護センターに、いよ、深くは地のため八よると、池は山の斜面の影月でも十を積る積雪が、一部でも現れることはほとんどない。ところが今年五月までにはほぼ完全に雪が消え去り、エマラルドグリーン

水面を静かにたたえる様が複数の登山愛好家らによって確認されている。気象協会北陸センターによると、今夏の白山は当初の水不足の心配とは裏腹に、七、八月を通じて一昨年のほぼ

千蛇ヶ池(標高約二六〇〇m。發老元(七二七)年に白山を開山したと伝えられる越前の僧善達(たいちよう)大師が、登山者に危害を加えていた千匹の毒蛇を諭して池の中に封じ込めたとの伝説で知られる。以来激しい雪が降り続き、夏でも解けることのない万年雪が水面に蓋をする形で覆い方一雪が解けた場合、蛇が出てくるのを防ぐため池を見下ろすようにそびえる溶岩の塊「御宝庫(おたからこ)」が崩れ落ちると伝えられる。

二倍に相当する降水量を記録しており、白山自然保護センターでは少ない残雪が長雨で解けたとみている。

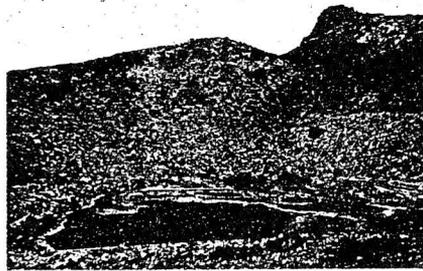
十月三日に百七回目の白山登山を終えた川北町橋、稲森喜八郎さん(左)は「千蛇ヶ池の水面がこれまで現れたのを目にしたのは初めてだ。御宝庫が崩れ落ちないか心配だ」と話している。



# 千蛇ヶ池の中は氷の峡谷



千蛇ヶ池内に大量に残る雪氷を調査する伊藤技官。白山千蛇ヶ池



万年雪が解けた白山・千蛇ヶ池の全景  
=10月12日(金沢市常盤町の荒木哲男さん提供)

## 白山

白山の「多量降雪帯」として知られ、三十五年ぶりに万年雪が消滅した白山千蛇ヶ池の中や周辺の岩の下には大量の雪氷が実在していることが、加賀市の中谷幸一郎雪の科学館 神田健三館長と福井大の伊藤文雄技官の三十一日までの調査で確認された。岩の下に氷が存在することはこれまでの研究でも予測されていたが、実際に確認されたのは今回が初めて。池の中に作られた氷の峡谷は全国的にも事例がなく、長く雪に閉ざされていた。氷が取り除かれ、千蛇ヶ池の素顔が明らかになった。

## 岩石の下にも大量の雪氷

### 雪の科学 館長ら確認 全国で報告例なし

神田健三館長と伊藤文雄 雪が消えたことを知り、岩を調査に訪れた。技官の二人は十月六日付の石の下と池の中の様子を確北國新聞で千蛇ヶ池の万年雪を認するため二十五日、同池

分析で過去の情報も成瀬謙二北大低温科学研究所助教 雪氷が小さく、雪氷が溶け残ったままの状態が保たれているということも予測されるが、どういふ状況であろうか。このほか、池の中の土砂の下にも氷があることが分かった。神田館長によると、池周辺では土砂と氷が何層にもわたって積み重なっている可能性があり、池の生い立ちを知る上でも興味深いとしている。

調査によると、池の直径は約四十メートル、水深は深いところでは約九メートル、その大部分が氷で覆われ、所々が空いたような形になっていた。神田館長によると、表面の穴は水の対流によってできた可能性が大きく、池の内部は氷の厚い部分と薄い部分に分かれていた。水面の色の変化もさまざまだった。内部は氷の峡谷のようになっている。

また、池の水際部分は右で覆われていたが、すぐそばの土砂の下に、約七十センチほどの高さで水平にえぐられた氷の層が見つかった。このほか、池の中の土砂の下にも氷があることが分かった。神田館長によると、池周辺では土砂と氷が何層にもわたって積み重なっている可能性があり、池の生い立ちを知る上でも興味深いとしている。

< お詫び >

ワインシュタイン氏の世紀の大論文に関しまして、編集子の手違い、並びに無学により、最後の1ページを抜かして9号に掲載してしまいました。ここに深くお詫び申し上げます。

どこからも「これでは論文が完結していない

のでは？」のお問い合わせはございませんでした。ワッゲル関係者から、しかるべき賞への推薦はやや望み薄かとも思われますが、大発見の論文が、机の奥隅に忘れさられた不遇の天才達の逸話は数知れず。これにて完結致しますので、どうかご高覧のほど、お願い申し上げます。

Weight of Super String

$$m = h/c^3 = 10^{-43} \text{ g}$$

m: mass of super string

Weight of original universe

$$M = \sqrt{hc/G} = 2 \times 10^{55} \text{ g}$$

M: mass of original universe

Number of super strings in original universe are  $M/m$ .

$$M/m = 2 \times 10^{43}$$

Energy of original universe is

$$E = Mc^2 = 1.8 \times 10^{66} \text{ g} \cdot \text{cm}^2 \cdot \text{s}^{-2}$$

Temperature of original universe is

$$T = EN/R = 4.3 \times 10^{51} \text{ K}$$

N; Weinstein constant  $2 \times 10^{43} \text{ mol}^{-1}$

R: Gas constant  $8.3 \times 10^7 \text{ g} \cdot \text{cm}^2 \cdot \text{s}^{-2} \cdot \text{K}^{-1} \cdot \text{mol}^{-1}$

Length of Super String

$$l = \sqrt{h \cdot G/c^3} = 10^{-33} \text{ cm}$$

h: Planck constant  $10^{-27} \text{ g} \cdot \text{cm}^2 \cdot \text{s}^{-1}$

G: gravity constant  $6.7 \times 10^{-8} \text{ cm}^3 \cdot \text{g}^{-1} \cdot \text{s}^{-2}$

c: velocity of light  $3 \times 10^{10} \text{ cm} \cdot \text{s}^{-1}$

cf

Einstein's energy equation,  $E=mc^2$ , was induced approximately from principle of relativity. I, Weinstein obtained easily this equation from Minkowski formula and dimensional constitution.

$x^2 + y^2 + z^2 = c^2 t^2$  ..... Minkowski formula

$$c^2 t^2 = [L^2] \text{ ..... (A)}$$

$$E = [ML^2 t^{-2}] \text{ ..... (B)}$$

substitute (A) to (B), that is  $E=mc^2$

# 更生れ！ 封建帝国

自称0期 田村 昭夫

明治初期の日本は、外国人にとって桃源郷に見えたらしい。

山紫水明のこの邦は、平野も山地も美しい水田が広がり、人々は勤勉に働き、貧しいながらも平和に暮らしていた。

西欧の科学文明が、このやさしい穏やかな国を荒々しく破壊してしまった。ラフカディオ・ハーンの愛した日本は、またたく間に醜く変わってしまった。

その責任は、西欧の科学技術にあるのではなく、それを国策として取り入れた我国にある。科学とは、自然の謎を解くことであり、技術とは、人間の欲望達成の手段である。私達は、効率と利便さばかり追求した結果、平和で美しい国を、かくも醜悪で危険な国にした。

戦後この国は、商工農士の逆封建制になり、士は社会から葬り去られ、代わって商が猛威を奮って、この国を墮落させた。

今や金銭支配による日本は自滅したのだから、新しい社会制度の構築が急がれる。それには、士農工商の封建社会に戻るのがよからう。

士は、志の高い少数の指導者であって、断じて政治家、役人ではない。そして農業就労人口をもっと増やし、非生産的不労所得階層である保険・金融・証券の商業人口を激減さす。

楽して設けることしか考えない効率優先の社会から、勤労を喜びとする社会に戻すこと。そうすれば、桃源郷が再びこの国に甦るだろう。景気など回復しなくてよい。

<年金制度>厚生年金や共済年金を廃止して、国民基礎年金一本建にすべし。一人の生活費として、月3万円もあれば充分である。

<土地>土地そのものの資産価値はゼロである。土地を如何に利用し、生産性を上げるかで不動

産の資産価値が決まる。従って土地は全て、公有にすべきものである。

日本のエライ経済学者達は、こんな簡単なこともわからない。

この狭い日本は資源に満ち溢れている。戦後五十年、外国から輸入された原料の九十%が国内にゴミとして蓄積されている。これを再利用しない法はない。太平洋戦争では四年間も資源なしで世界を相手に闘ったのだ



1998.8.5 読者日報

## 鎖国のすすめ

田村昭夫(61)

我が国が輸出できるのは人材だけである。競争社会で揉まれた日本人は世界中何処

から少なくともこれから百年間は外国から輸入なしでやって行ける。日本人は国内に居る限りその能力を発揮できない。この国では位人臣を極めた人間は凡人の代表格ばかり。小淵総理や宮沢大蔵大臣を見ればわかる。古来真の人材は常に草莽にあり。我が国が豊かだったのは縄文中期だったと云う。その時の人口は多く見積もっても五十万人。現在の一億二千万人の人間を百年程かけて外国に輸出すれば残った五十万人は

でも有能な人材たり得る。日本人は国内に居る限りその能力を発揮できない。この国では位人臣を極めた人間は凡人の代表格ばかり。小淵総理や宮沢大蔵大臣を見ればわかる。古来真の人材は常に草莽にあり。我が国が豊かだったのは縄文中期だったと云う。その時の人口は多く見積もっても五十万人。現在の一億二千万人の人間を百年程かけて外国に輸出すれば残った五十万人は

嘗ての様な幸福な日々が約束されよう。その時、東京は巨大なゴーストタウンになっているだろう。今巷で取り沙汰されている景気回復など論外である。縄文時代の様な豊かな社会になる為には我が国の経済が完全に破綻することが最も近道と思うが、如何に。

東工大・本川達雄教授の説。人間の大きさの動物の生息密度は一平方メートルあたり一・四匹。

# 会津から初代大統領を

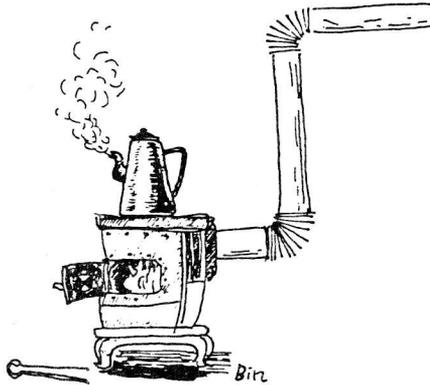
1998.7.23  
会津日報

田村 昭夫 (61)

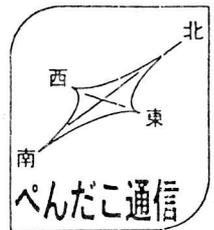


桶本内閣は火だるまになって消え去った。「行政改革を火だるまになってやる。」と国民に宣言した手前、改革が出来なかったのだから国民は総理を焼き殺した訳である。かくなる上は速かに国民投票で大統領を選出すべし。

吾こそは大統領となつて国難に当らんとするものは名乗り出よ。大統領になるには政治の下衆人が良いと思う。そして通訳なしで外国首脳と討論や談笑の出来る人間であること。さらに国民の為なら命もいらぬと覚悟した人間であること。強力な指導力を持った真のエリートを国民は求めている。薩長の作つたこの国はいまや断末魔の状態にある。戊辰百三十年。歴史は形を変えて繰返す。会津から大統領を出し、国と地元会津の改革を同時進行で行う。識者達が今までに書いたり述べたりしたものや参考にして、改革プログラムを作成し、勇気をもって行動を起こす時である。時は熟せり。但し、ただ制度を弄くるだけでは駄目である。皆の意識の改革こそが重要なのだ。大統領候補者として私は名乗りあげる。皆さんも名乗り出て欲しい。



「きけ、わだつみのこえ」  
俺達が戦争で死んだのは何の為だったか。断じて貴様達にこんな墜落した日本を作らずに死んだのではない。これではあまりにも俺達が惨めた。貴様達は戦後十年間は良くやった。しかし昭和三十年から今までやってきたことは一体全体なんだ。貴様達のやったことはコンクリートで道やビルを造り、排気ガスを撒き散らしたことでだけではないか。もっと分相応な生き方が出来なかったのか。今そのツケが回ってきて



十三歳以上の奴等よ、貴様達はこの国を元通りに復元してから死ね！ 山や田畑を五十年前にもどせ！ コンクリートの建物や道路を

## 日本戦没学生の手記 長谷川 信

1998.8.15 会津日報  
会津若松市相生町 田村 昭夫(61)

た。貴様達が滅びるのは勝手だ。しかし何の罪もない動植物を道づれにすることは許せない。戦後生き残った五

長谷川信(享年23才)  
昭和二十年四月十二日、武陽特別攻撃隊員として与那国島北方洋上戦死、会津若松市上町一―四出身

ぶち壊し、自動車を一掃してから死ね！ そして「政治屋」「木っ端役人」「土建屋」「金貸し」は地獄に落ちろ！ 俺達わだつみは貴様等人間のクズを徹底的にイジメてやる。「弱きもの、哀れなるもの、汝の名は人類、墜落した狼」

\* \*  
俺は結局凡々と生き、瓜々と死ぬことだろう。だがたった一つ出来る。涙を流して祈る事だ。それが国泰か、親安か知られない。祈ることなのだ。(猪苗代湖十六橋 長谷川信碑より)



太平洋戦争の末期と現在の日本は全く同じである。自らが完全に破綻していることを知っている故に情報の開示を必死にならねばならぬ。銀行を公的資金で助けようとする政府の姿は、太平洋戦争末期に敗戦色の濃厚な大本営が戦報で国民を欺くのを支えた東条内閣を彷彿させる。学者、評論家等、世間では頭が良いと思われている人

種に限って簡単なことをわざと屁理屈を捏ねくりまわし、複雑に見せている。これはあらゆる分野の専門家と称

## 売国のすすめ

1998.9.11 会津日報

田村 昭夫(62)

する輩の常套手段と云ってよい。金融組織がとくに崩壊していることが誰の目にも明らかなのに善良

な借り手保護の為に公的資金を使って大銀行を救済するなど訳のわからないことを云うボケ大臣が居る。日本長期信用銀行など潰せば良い。潰れて得するのは借り手だから。破たんした日本は丸ごと国連に引き取ってもらい、愚か者の日本人達を労働者として世界市場に売り出せば、二十一世紀の奴隷産出国として、この国は今後とも繁栄するだろう。折しもの水害である。日本国民総動員で、国土の復旧作業にあたり、日本人の働きぶりを世界に宣伝する又とない機会である。

種に限って簡単なことをわざと屁理屈を捏ねくりまわし、複雑に見せている。これはあらゆる分野の専門家と称する輩の常套手段と云ってよい。金融組織がとくに崩壊していることが誰の目にも明らかなのに善良な借り手保護の為に公的資金を使って大銀行を救済するなど訳のわからないことを云うボケ大臣が居る。日本長期信用銀行など潰せば良い。潰れて得するのは借り手だから。破たんした日本は丸ごと国連に引き取ってもらい、愚か者の日本人達を労働者として世界市場に売り出せば、二十一世紀の奴隷産出国として、この国は今後とも繁栄するだろう。折しもの水害である。日本国民総動員で、国土の復旧作業にあたり、日本人の働きぶりを世界に宣伝する又とない機会である。



「質草が高く売んにエから助けてくんつて」と質屋のおやじが村長に泣きついた。人のいい村長は「質屋を助けんなんねべ」と集めた年貢から都合つけるそうだ。それを指くわえてポーツと見ている村びとたち。オラこんな村いやだ。外国サ出てベコ飼うだ。吉幾三でなくてもこんな気になる。愚者、地震、水害ばかりのつまらない日本村から逃げ出して、広い世界に出て、思いっきり自分の能力を発揮してみたい。こんな自分でも何か世界の人達に役立つことが出来るはずだ。例えば地雷の撤去作業など。日本村が気に入って離れる。

## 外国サいってベコ飼うべ

会津日報

会津若松市 田村 昭夫(62)

揮してみたい。こんな自分でも何か世界の人達に役立つことが出来るはずだ。例えば地雷の撤去作業など。日本村が気に入って離れる。

れない人には良い仕事がある。村中に散乱している廃品回収やゴミ分別をやってはどうか。コストが高くない。年金でもかまわない。年金をもらって、食っちゃ寝している輩(やから)を只でこぎ使えば良い。彼等も生き甲斐を求めているはずだ。人間とは本来その様なものだと思ふ。自分がこの世に生きていることが何らかの意味で人に役立っているという自覚が生きる力を与えてくれる。自分は社会になにも貢献出来ない単なるお荷物であると悟った人はどうか砒素でも飲んで死んでもらいたい。人間は誇りを失ったらおしまいであ

Nur wer die Sehnsucht kennt,  
weib was ich leide

ゲーテの「ウィルヘルム・マイスターの修行時代」の中にある、ミニヨンが歌う短い詩の冒頭の一節である。

学生の頃、この言葉をしかめつらしく「唯、憧れを知る者のみ、わか悩み知らぬ」なんて訳して有り難がっていた。あとで、小娘ミニヨンが自分の故郷を懐かしんだだけの歌だと知って、がっかりした。何か深い、哲学的意味がある様に思っていたが、真相はたいしたものじゃない。

思い込みについて言えば、かつて、泰澄大師の開いた道、越前平泉寺を経ての白山山行を試みた折り、平泉寺の住職平泉澄氏に、古来の修験者の歩いた道の様子を尋ねたことがある。住

職は私の申し出にいたく心を動かされたらしく、親切に道を教えて下さった。そして曰く、「人の歩いた道と云うものは、千年たとうが、二千年たとうが、決して無くならないものです。」深く感銘してたどっていたら、道はやがて藪になってしまった。落語の「こんやく問答」ではないが、思い込みや考え過ぎは禁物である。

考えてみれば、異性、学校、職場、その他に対する失望は、自分勝手な思い込みにも責があるのであろう。思い込みが過ぎて失望する。それを繰り返すのが人生と云うものかもしれない。「思い込み」特集号など、「やまぎと」でもやってみては如何。



先日東邦銀行へいって年金を受けとってききました。銀行では下ラ旗き一個をおまけにくれました。子供じゃあるまいし、馬鹿にするにも程があります。これから到来する世界大恐慌に備えて欧州統合通貨の「ユーロ」に換

金をおすすめいたします。円やドルを持っていても紙クズになるだけですよ。政府は公的資金六十兆円を銀行救済に使うそうですがおとなしい日本人はエライ人達が云うことだから間違いないと思っているのでしょうか。外国だったら暴動が起きて当然なのですが、おとなしい日本人向きにおだやかな抵抗方法として皆で仲良く納税拒否をしてみましよう。

東大出のエライ人達がイイ頭で考えたらしいメイヤ案が新聞に出ていました。が中学中途の私にはムカシくて

わかりません。読者の皆さんの中で、もしおわかりの方がいらっしやいましたら教えて下さい。お経と同じでわからないから同じがたいたので、わかったらいたしたくないので、もしもありませんか。

（日経・十月十七日付）  
公的資金として六十兆円が用意された。従来の預金者保護のための十七兆円の特例業務勘定のほかに、二つの

する費用や、ブリッジバンク（つなぎ銀行）設立の出資金に充てる。健全な借り手に融資を継続したり、不良債権を時価で買い取る資金にもなる。

金融機能早期健全化勘定は二十五兆円。破たん前の金融機関に資本注入するため、普通株、優先株、劣後債などを購入する資金となる。これまでの十三兆円の金融危機管理勘定を衣替えしたものだ。

しかし逆の場合は損失が出る。資本注入した銀行が破たんしたり、融資が滞り付いたりする場合、そのなれば税金で穴埋めする必要がある。

従来ある十七兆円の特例業務勘定は、破たん処理するときに債務超過分の穴埋めをして預金者を保護するのが目的。北海道拓殖銀行の破たんでは預金者保護のための資金援助だけで一兆七千九百億円

資本注入のための二十五兆円については全額投入し①主要十行の自己資本比率が一五％になり国際的な優良行の香港上海銀行と並ぶ②全金融機関のリスク資産が六百兆円なので自己資本比率が四％向上する——という。一時国有化などのため十八兆円を合わせた四十三兆円で一八十七兆円の問題債の半分をカバーできる」としてはいる。

＊ ＊ ＊  
台風十号が各地に被害を与えた模様ですが景気回復を願う国民大衆にとっては朗報です。なぜなら土産屋が崩壊してこの国を経済が活性化する仕組みになっていくからです。誰の言葉か知りませんが、頭狂徒民と痴呆人の国なのです。この国は。

# 納税拒否のすすめ

1998.10.23

田村 昭夫(62)

勘定を預金保険機構に新設する。政府保証付まで日銀や民間金融機関から借り入れて調達するため直ちに国民負担になるわけではないが、一部は最終的に税金でまかなうことになる。

新設の金融再生勘定には十八兆円をあてて。金融機関が破たん寸前になったとき、特別公的管理（一時国有化）に移動するために政府が株式を強制取得

この二勘定については、金融再生委が資金を使うたびに厳格に審査し回収することが前提だ。①特別公的管理した銀行やブリッジバンクを他の金融機関に高く売却した②新規融資が予定通り返済されずに不良債権を回収した③資本注入した銀行から配当、利子収入が入り元本も返済された——という場合は収益が

かかる見込み。ほとんどが便さず回収されない。まず金融機関が支払う預金保険料があるが、年間で約四千六百億円程度なので不足は公的資金を使う。七兆円の交付国債を取り崩し、国有財産の売却などで充当することになる。

六十兆円の公的資金枠は必要額を積み上げた数字ではないが、政府・自民党は七つの根拠を示している。①従

# トレッキングと地図

地図ニュースNo.287より転載 11期 ながおか まさとし 長岡 正利

## トレッキングとは

trekkingを辞書で引けば、原意は（アフリカ南部の）牛車旅行とある。それから派生して、徒歩での小旅行を言うものとなったようである。

最近、何かの事件をきっかけに、耳なれない言葉が一気に普遍性をもつことがある。このトレッキングも、昨秋のヒマラヤ山中での大量遭難を契機としてにわか世の注目を浴びた。念のためにこの事件を振り返れば、ベンガル湾を北上した季節はずれのサイクロンがネパール東部に豪雨を降らせ、標高の高い地ではそれが異常な量の積雪となって、もともとが傾斜地の山中では至る所で雪崩の発生を見たものである。エベレスト西方のゴーキョに至るルート途上（図3）の、数日前までは秋の日差しの中に砂塵が舞っていたような地点で、日本人13人を含む25人の死者が出、ヒマラヤ全域では60人以上もの死者があった。

さて、冒頭に述べたとおり、トレッキングは足だけをたよりに毎日山中を歩き続ける（時に馬なども利用）ものだが、何が人々をそれに誘うのか。

慌ただしく、しかも画一化された観光地めぐりの旅行に違和感をもつ人々のために、昔は個人旅行が当然であったヒマラヤ山間部の徒歩旅行が、20年位前から一部の小規模な専門旅行社の手で小団体旅行として企画され始めた。それが意外に集客力のあることが判って、近年は大手旅行社も取上げるようになっていく。

## ヨーロッパアルプス

言うまでもなく、古くから自然と調和させながらの観光開発が進められた地で、富士山より高い山頂にまでロープウェイが架けられ、かなりの高地にまで快適な滞在を楽しめるホテルが建てられている。また、岩を攀じてたどり着けるような山小屋の設備も、日本とは較べものにならない。

このような宿泊施設を次々と利用しての、軽装での山歩きが可能であり、コースの取り方によっては観光客の訪れない静かなアルプス散策を楽しむことができる。時間と体力の乏しい向きには、交通機関を利用しての慌ただしいアルプスめぐりも可能である。

これらの地域の5万分1程度の地図は、近年は日本国内でも充分に入手可能となった。当該国でも、都市で多少の時間があれば書店などでの地図探しが楽しめるほか、特にスイスでは昔から、観光地の小さな売店でもその周辺の美しい官製地図が容易に買求められる。

## ヒマラヤ・カラコルム

インドのスリナガルを中心とするカシミール地方など、政情不安の地域と国境地帯の大部分を除けば、近年は昔に較べて比較的容易に入域できるようになった。

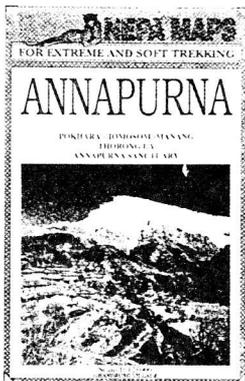
ネパールヒマラヤについては、日本国内においても専門旅行社に頼めば、1人からでも任意の山域へ、ガイド（シェルパ）やコック、ポーターを

ANNAPURNA



1: 100 000

epal-Kartenwerk der Arbeitsgemeinschaft  
vergleichende Hochgebirgsforschung Nr. 3



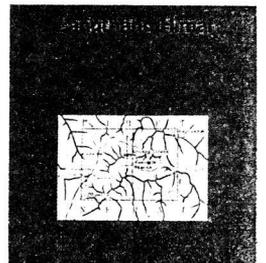
Helambu-Langtang  
Gosainkund



Trekking Map - Scale 1:100,000  
Trekking North of Kathmandu  
Helambu, Gosainkund  
The Langtang Valley and Ganja La



Alpenvereinskarte

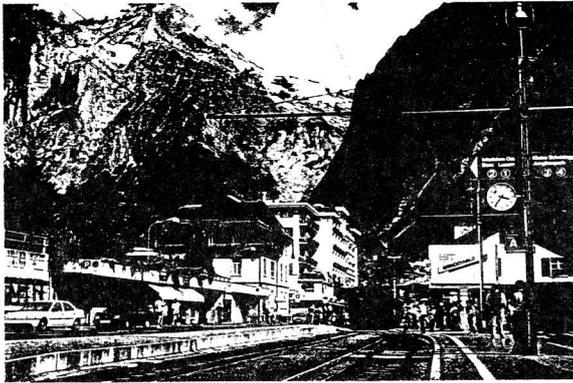


（トレッキング用の各種地図の表紙デザイン）

伴うトレッキングの手配が可能であり、テント宿泊の山歩きで日本語しか話せなくとも、身の回りのおずかなものだけを携えて出国しても、何とかなろう(山歩きの基本的体力は必要)。むしろ、専門旅行社の企画する小人数グループツアーに参加するのがはるかに便利ではある。

カラコルムでは、旅慣れた人以外には山間部での一人歩きはお勧めできない。辺境地への入域にはかなりの面倒も伴い、旅行社のツアーに参加するのが何かと便利である。インドヒマラヤは両者の中間くらいの便利さであろう。

ネパールヒマラヤではモンスーンの影響をまと



写真① スイス、鉄道はアイガー北壁直下からトンネルで山中を抜け、写真右端の氷河の山稜上のユングフラウヨッホ駅に達する(スイスの鉄道のパンフレット“ユングフラウヨッホ”より転載)

写真② 左写真の山麓、グリンデンヴァルトの風景、トレッカーや氷河の山々に向う登山者の姿が似つかわしい山間部の街の駅



図1 国による地図の違い。左は精緻な美しさで定評のあるスイス地図局の1:50000地図、右は登山道(青)や冬のスキーコース(赤)を判りやすく表現したフランスIGNの1:50000地図(現在この縮尺は廃刊)。ともに、左下のモンブランから左上のシャモニーの範囲を示す。

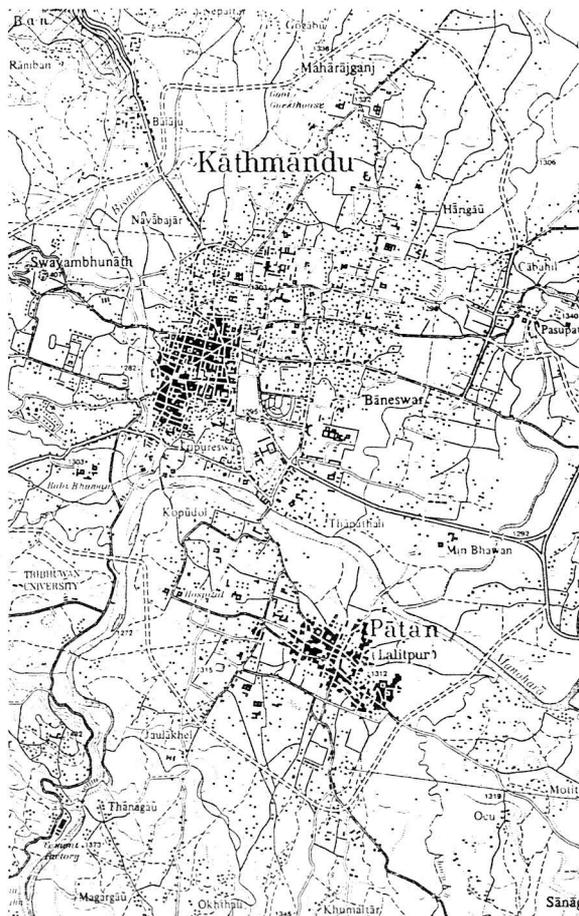


図2 カトマンズ市街、中世の面影をのこす街、赤が写真⑦の旧王宮 (1:50000, Kathmandu Valley, ミュンヘン Nelles, 1977: 55%に縮小)

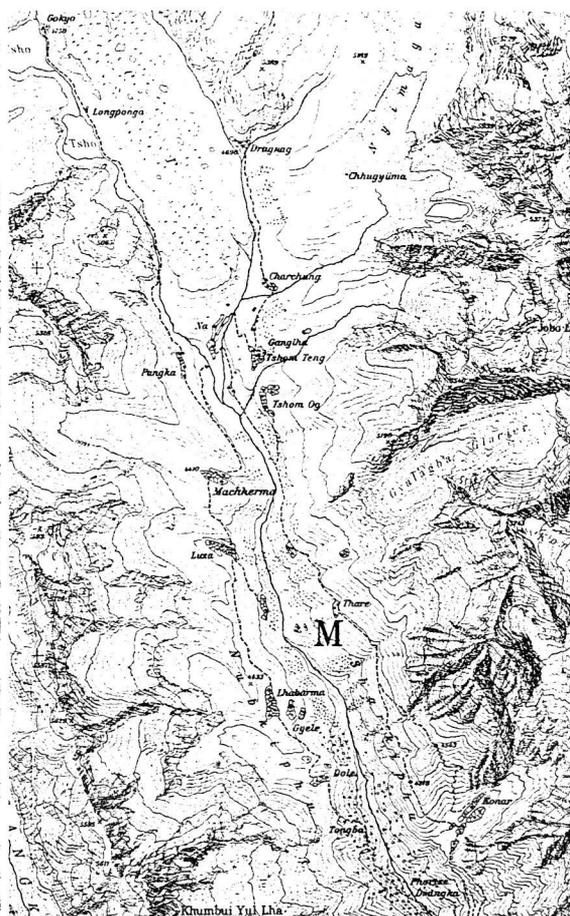


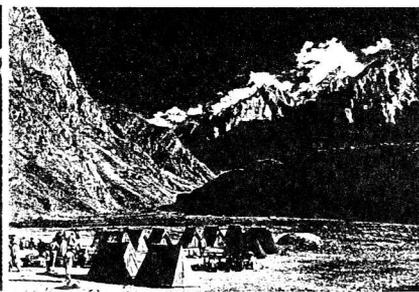
図3 ネパール山間部、昨秋の大量遭難(本文)は図左中央のパンガの村で起こった(Khumbu Himal, 1978, ほかは同左; 50%に縮小)



写真③ ネパール、アンナプルナ山麓の尾根上の村、最近車道が作られてはほぼ消滅した



写真④ 左写真の先で見た風景、山はアンナプルナ・サウス (7219m)。表紙写真と同じ山



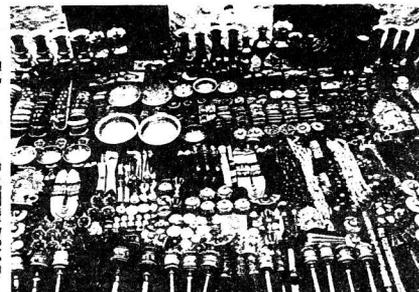
写真⑤ パキスタン・カラコルム、極度な乾燥地域、山はマッシュアブルム (7821m)



写真⑥ ネパールの農村風景、カトマンズ郊外から見たジュガル・ヒマールの山々



写真⑦ カトマンズ旧王宮前、祭りの日の賑わい



写真⑧ 楽しい土産物の数かず、古い仏具や装身具などが多い

もに受けるため、夏は山歩きに向かないのに対して、西のインドヒマラヤでは海から遠いこともあってそう問題はない。カラコルムはモンスーンの影響を殆ど受けず、むしろ山岳沙漠と言ってもよい環境下にある(写真⑤)。冬期については、ネパールでは亜熱帯に相当することもあって、日本の秋山のようなどかな山歩きを誰もが楽しむことができるが、ほかは、冬は凍てつく極寒の山岳地を経験したい方を除いて、行くのは止めたほうが良い。むろん、ツアーも出ない。山岳地の道路の殆どは閉鎖されるものの、昔を知る人間には信じられないことだが、空路でラダックのレーやカラコム中心地のスカルドに入ることはできる。

ところで最近、何れの地域でも山間部への道路延長が急速に進められ、時間の限られた人々にとっては大変有利となったほか、各地でヘリコプターの利用が進められ、ネパールではモンスーン影響下の地域を越えていきなり高山植物が咲き乱れる高地へ入ることができるまでになっている。昔、ヒマラヤ前縁の雨に煙る亜熱帯樹林帯を、無数の山蝨(表紙参照)に血を吸われるままに歩き続けたことが信じられないような時代となった。

ところで、この地域の地図としては、訪れる人や登山者の多い山域を中心に、スイスの<sup>(アルプス)</sup>山岳研究財団によるものを始め、ドイツ、オーストリア、フランスなどの団体や民間社会で作られたものが、前述と同様にわが国でも求めることができる。ほかに、20・30年位前には考えられなかったものだが、現地観光地の土産物屋には、上述のものを含めてネパールやインドなどの現地国の民間製のものなど、たくさんの多彩な地図(下図)が並ぶようになった由で、とにかく格安で多様な地図が入手できるのは嬉しい(中には著作権上問題があるのではと思われるものもあるらしい)。

## あとがき

歩くことは素晴らしい。歩かなくては見えないものが見え、(我々からみれば)極限の自然の中で生きる人々の生活に触れることもできる。年配の人々にとっては、かつてのわが国ではどこでも見ることができたような、のどかな農村風景や日常の生活に、思わず子供時代を懐かしむこともあろう。

でも、本誌読者で旅行もままならないような忙しい方々のためには、地図を眺めながらの机上トレッキングのお勧めを。

トレッキングを手掛ける専門旅行社では、美しい無料パンフレットを用意しており(山関係の雑誌の広告欄連絡先により入手可能)、最近では自治体の図書館でも豪華な山岳写真集を揃えるようになってきている。それらを片手に、国内でも入手できる、あるいは現地にでかける友人に頼んで買ってきてもらった地図を広げて、ルートをなぞり、氷雪の山々の景観とヒマラヤやカラコルムの空の青さ、春なればしゃくなげの林の開花の見事さ、夏は氷河湖のほとりを彩るヒマラヤの青いけしやエーデルワイスなどの高山植物の中での憩いを空想する。これもまた、地図と旅の楽しみ。

以上、「なに人生はまだ長い、いずれそのうちまた行ける日はある」と、深夜・休日にかかわらず、原稿締切等に追われている本誌編集子が描いた、机上に地図を広げてのはかない夢であります。

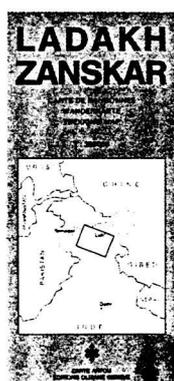
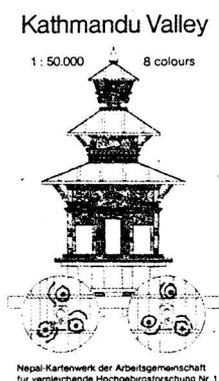
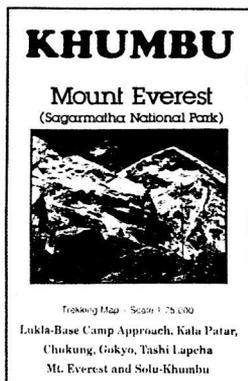
【参考】 国内での関係地図の入手先を紹介します。

内 外 交 易 ㈱ 03-3400-2326、広域に渡る注文を対象

㈱マップハウス 03-3295-1444、1枚の注文でも可

代表的なトレッキング専門会社としては、アルパインツアーサービス㈱(03-3503-1911) などがあり、世界の山々のトレッキング・ツアーが多く出されている。

(写真は①を除いて筆者によるが、⑦以外は昔のもの)



(トレッキング用の各種地図の表紙デザイン)

## 我が青春の記

16期 清水 重仁

さて、「やまざと」始めて以来の大長編寄稿です。私、「電気科の重仁」と初対面でインプットしましたので、まさかこれだけの文才と根気がありとは存じませんでした。大阪外大と天秤にかけて云々…を納得。

催促に催促を重ねても出てこぬ原稿多し…なので、喜んで掲載します。私も随分と「記録魔」と言われ、記憶も定かの方と自認しておりますが、さすがに「日記」の迫力…忘れていた当時の事を克明に思い出しました。

ワゲルを軸にしなが、70年前半の青春群像が描き出されている…小さな世界の中での一コマを綴りながら、確かにその時代を映し出している秀作です。

さて、皆様も、かつてBHに載せようとしてそのままになってしまった原稿とか、隠れたエッセー等ありましたら、どうぞお寄せ下さい。もちろん新作も歓迎です。

拝啓

本日も梅雨明けを思わせる暑い日差しが続いておりますが、いかがお暮らしてでしょうか。

しばらくOB会誌への原稿作成（我が青春の記？）から遠ざかっておりましたが、5月の山小屋酒場の折りにも局長より叱咤激励された事

もあり、その後ぼちぼちであります。手を加えて、何とか体裁を整えるに至りました。

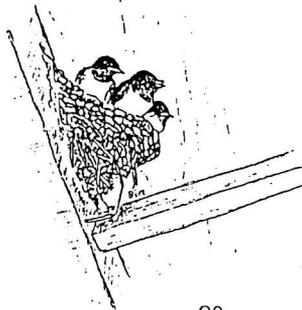
こんなものを発表しても何になる、又、どれだけの人が読んでくれるのだろうか等と、なかなか逡巡の域を出ないのでありますが、出すべきとお言葉も頂戴いたし、自分としても投稿の決心をしました。何度も推敲を重ねておきますと、人間とは益々欲張りになってくるもので、あれもこれもという具合になり、この辺で潮時と判断しました。

結果的に余分な事が多かったせいか、かなりの量になってしまいました。会誌にこれだけのスペースがあるのかどうかも分かりませんが、できれば全編を一度に掲載して頂きたいと考えます。（恥は1回だけにしたい？）

これでしばらくは原稿の要請もありませんまい。

敬具

P.S. 今回たまたま日記という手段で、主に部活動を中心に学生時代を振り返ってみました。省略した所や書ききれなかった部分も含めて、かなり膨大ともいえる時間を部活動に費やしていたこと（当然予想はされるのだが）が、改めて分かりました。なんとか見掛け上は学業（こちらの手段は問わず）との両立は為されていたのでしようが…。又、何といってもこれはノンフィクションなのです。



この度、15期高村さんを偲んでということで寄稿する際、約20年ぶりに古い日記を紐解く機会を得ました。部分的に抜粋しただけでしたが、その後、極めて少数の方々からではありますが少なからずの反響をいただきました。中には私の顔には似合わないこととの、もっともなご意見も頂戴しております。

さて~~この度~~<sup>いつ</sup>どこで私が口走ったか記憶も定かではありませんが、気がつくと日記をもとに「我が青春の記」などという大それた題名のもとで、OB会誌への寄稿をすることになっていたようです。本来、日記なるものは他人に公開するような代物ではないと思えますし、そういう行為は全くもって自己満足あるいは懐古趣味の極みにとられそうです。しかしながら金沢を離れてちょうど20年を経過することも相まって、10年では早すぎ30年ではほとんど記憶から消えそうだと判断から、思い切って筆をとることにしました。

という訳で約5年間（ただし後半2年間は、もはや日記ではなくほぼ1年を振り返っていわば年記のようにになっている）の日記をどのように料理しようかと思案しましたが、単純に1年度毎に編集することにします。自他共に支障のない範囲で、概ね部活動を中心としたものになるでしょうが、とりあえず以下のようなタイトルを設定してみます。

1. プロローグ
2. 入部篇 (71年度、S46. 4～S47. 3)
3. 中堅篇 (72年度、S47. 4～S48. 3)
4. リーダー篇 (73年度、S48. 4～S49. 3)
5. 執行部～退部～OB篇 (74、75、76年度、S49. 4～S51. 9)
6. エピローグ

OB会誌の貴重なページを借用させていただくにあたり、いくつかの時系列的な出来事ができるだけ原文に忠実に、かつ、よけいな部分はやむを得ず省略という手順を踏んで書き綴ってみます。原文引用により敬称略の様などころもあり、また、内容によっては特定の読者の気分を害する場合もあるかもしれませんが、時効ということでもよろしく願います。山行などのメンバーは会誌によっても記録されていますが、当方の日記にも記録がある限り、くどいようですがその都度記述しました。コースも大体は書いてありましたができるだけ省略します。

当然ながら大半の登場人物はワンダーフォーゲル部については16期の前後数年の範囲内に留まってしまうでしょう。しかしながら予想される幅広い読者の皆さんには、当時のワンダーフォーゲル部という集団で多感な時期を共に過ごした仲間たちの意識、馬鹿さ加減、純情さなどの一片でも改めて感じていただいたり、又、ご自分の眠ってしまった記憶の一回路でもオンにしてもらえれば、本望だと考えます。

ここまできて何か非常に堅苦しいことを書いているようで、まさに顔に似合わないといわれそうな気分になってきました。前にも述べましたが支障の無い範囲での日記の公開はありますが、ある程度の羞恥心を伴いながらそろそろプロローグへはいりましょう。

## プロローグ

S46. 4に金沢大学工学部電気工学科に入学し、学生証番号は71-297であったと思う。本大学と大阪外大とを天秤にかけての選択でしたが、将来に向けてのはっきりとした展望もない者にとっては理系でも文系でも、どちらでもよかったと思います。ただ大都会というものが性に合わなかったようで、大阪のほうは大学周辺も薄汚い印象でした。一方、金大の当時のキャッチフレーズの1つは、城の中に校舎があるということだったし、事実それに惹かれた面もあり、又、元々ほとんど日本海側の気候に生まれ育った私には金沢の風土に違和感なくとけ込めると感じたのだろうと思います。結局は6年間在学することになりました。ここで余談ですが、6年も居ながら、又、こういう部に属しながらもその間能登には一回も行ったことがなく、恐ろしいことに現在も同様の状況です。

さて今回、ワンダーフォーゲル部入部篇として書き進めるわけですが、この段になってふと思考の中に湧き、引っかかってしまったことがあります。一般的な企業などにはいわゆる社是や経営理念なるものが掲げられているのが普通ですが、はたして金大ワンダーフォーゲル部には活動の目的や理念があったのか、あるのかということ。今さら何を言っているのかとほとんど情けない気持ちで手元にある部誌をいくつかめくりました。その結

果、ベルクハイム35周年記念上巻の部の規約紹介の所で第3条に目的が掲げられていました。こういった条文あるいは法律は現在の生活でも同様であると思いますが、普段はほとんどの人にとっては必要にならなければ全く見向きもしないか、目を通したとしても記憶できる代物ではありません。この機に改めて、いや、まるで初めてのようにその目的に眺め入りました。

第三条（目的） 大自然に親しむことにより、教養を高め、体力を錬磨すると共に、団体生活を通して正しい人間の交わりを学び取り、青春を謳歌し、もって祖国に育まれた自然の美しさを見だし、又、ワンダーフォーゲル活動の啓蒙をその目的とする。

ついでながら、何冊かの国語辞典で「ワンダーフォーゲル」を引いてみました。その結果若干不揃いであるが以下のようにになりました。「ワンゲル」についてはワンダーフォーゲルの略ということで記載されています。

1. 健康のため、また自然に親しむために、徒歩で山野を越えて旅行すること。渡り鳥運動。
2. 山野を歩いて旅行する青年の団体。徒歩旅行をする人。
3. グループで山野を巡り歩き、心身を鍛えるスポーツ。
4. 登山を主とする大学などのサークルの称。

上文中、徒歩、山野、旅行、団体、グループなどの単語が目立ちます。私が勝手に総合的に解釈するとワンゲルとは、



仲間と共に、主として山野を徒歩で旅行することにより自然に親しみ、ひいては健康な心身を形成すること。 などとなるのでしょうか。

さて再度じっくり、第三条を眺めると終わりの部分のワンダーフォーゲル活動の啓蒙も目的のさほど小さくはない一つの柱ととらえられるようです。すなわち解釈文と連動させると、仲間と共に、主として山野を徒歩で旅行することにより自然に親しみ、ひいては健康な心身を形成することを啓蒙するとなります。この目的が現在の時代背景とマッチするかは、はなはだ疑問ですが今では啓蒙するにあたっては中高年を対象にした方が良いのではないかと思います。これは冗談として、私の関する限りのワンゲル活動において、はたして啓蒙活動があったのでしょうか。部則第4条、第4項に啓蒙活動として、映画会、キャンプ、展示会などが明示されていますが、私の記憶としてはオープン山行くらいしか思い出せず、ワンゲルの目的からすると少々お寂しい状況であったかもしれません。ただし、登山道や標識の整備、出版物の発行、記録の整理、保管なども間接的な啓蒙活動と言えなくもないでしょうが。

また近年、車でほとんどの距離を稼いでしまう山への旅行（こういうのは山登りとか登山とは厳密には言えないらしい）をくりかえす筆者等にとっては自然・環境破壊とのかねあいの気にかかる所ではあります。一昨年7月に家族で久しぶりに白山へ行った時の事です。旅行会社の小旗を先頭に何十人も登ってくる高年の人々、ゴミを平気でポイ捨てしている高校生らしきこちら大集団、定員の250%位も詰め込まなければならない室堂小屋（我々はテント持参で南竜でしたが）などの現実を目撃し、やはり時代は変わったのかと思わざるをえませんでした。まあ考えてみれば、下界で普通に生活すること自体すでに環境破壊を伴う今（特に今始まったものでもないだろうが）では、もう行くところまで行かねばならないのでしょうか。だが、たとえば自分の活動範囲を縮小し自然破壊になるので山へも行かないという人がいても不思議ではない世の中だとも思いますが。

横道に逸れればなしで肝心の入部篇がなかなか始まりませんが、始めるためにもう1回だけ規約の中から条文を引用します。

第五条（部員） 部員の募集期間は年一回とし、毎年四月十日より三十日までとする。期間外の入部については、リーダー会の承認を必要とする。

（この記念号によればS47、12、15以降は同様の条項は第三十五条にあり）

そうなのです、私の入部時期は募集期間をかなり逸脱したもので、条項の通りリーダー会で審議してもらったのです。

振り返ってみますと入部後の私は必要最小限の活動しかしていないようで、約1年余りを長い助走期間として、ほとんど存在感なく過ごしたのです。さて、いよいよ入部篇として物語を開始します。\*印文は現在において、わかる範囲での状況説明や感想を記したものです。

## 入部篇 (S46.4~S47.3)

昭和46年

4/7(水) しかし金沢へ行こう。どうなってもよい。もう家もあす一日だけ停っていることになった。いやこんなにセンチメンタルになる必要はない。距離的にはそんなに遠くはない。しかしどんな生活になるのであろうか。

4/12(月) 例によって先輩たちと体育館ですごす。いろいろなクラブがあってどれにするか迷ってしまう。ライフルもかっこいいが、体をうごかさないと欠点がある。ラグビーもおもしろそうであるし、登山もよいし、ヨットもヨイ。

\*先輩たちとは浪人後、今回一緒に入学した虎姫高校の2人。

4/15(木) 体育の時間はいきなり体力テストだった。それによってトレーニングクラスとその他に分割するらしい。高校の時とほとんど同じ内容であった。得点合計は29点であった。確か高校時代のSPORT TESTでもその点数だったと思う。3級のはずである。4時限はなかった。

4/27(火) 昨日の学生大会も出席者の数が少なく、4.28ストライキは中止になったようだ。もちろん自分も長く出席したわけではないが。明日は我が虎姫HIGH SCHOOLの新入生歓迎コンパがかの大嶋旅館であるらしい。しかし会費が非常に高い。驚くなかれ1500円。あもう金無い。

\*大嶋旅館は、この時代、虎姫高校の金大受験宿であった。この頃、バス代30円、風呂代35円、散髪650円、家賃5500円(1回目桜町で間借り)などと記録してある。例によってコンパでは乱れて片町のレイナなどに寄って、友人の下宿で1泊。

5/9(日) しかしそろそろクラブへ入らなければならないと感じる。そうでないと4年間何もせず、ただ生きてゆくことしかできなくなってしまう。それにしてもこれだ!というクラブが見あたらない。運動系か文化系か。こんなつまらないこといつまでも悩まなければならないのだ。情けない。

5/20(木) 月日のたつのははやい。明日こそは絶対にラグビー部の門をたたく。(はずである。)しかしながら、極度の不安がつきまとう。

5/21(金) 放課後、松永さんと話をしていたら、何だかワンゲル部へ入りたくなった。松永さんも入る気があるらしい。明日部室へ行ってみよう。

\*翌5/22の日記にはワンゲル部のことなど全く記述なし。

5/24(月) 松永さんとワンゲルへゆく。一応、卯辰山へランニング、そして体力づくりをやる。7時ごろ帰ってくる。入部可能かどうか、はっきりしていない。松永さんは、今年入れなかったら、来年入るとがんばっている。僕もそうしよう。そうになると、もし入部不可の場合は今年アルバイトで金をつくろう。自分の金で用具を買おう。ワンゲルも週2回。きょうのところは、たいして体にこたえない。まあまあ状態である。先輩の人もみんな親切そうであった。

\*部員募集期間をとくに過ぎた状況です。今年入れなかったら来年などと、よく書いています。日記の中には経過の記述はありませんが、入部を決心するには高校の先輩でもある宇野氏(15期)の存在が大きかったのではないかと考えます。

5/26(水) ワンゲルの審議会へゆく。その結果一応入部が承認される。そして名前は忘れたが、ある先輩に部室でいろいろ説明を聞く。こんどの土曜日からさっそく、トレーニングで山へ行くことになっている。みんなに追いつけるように、しっかりトレーニングしなくてはならないと強く感じる。

5/31(月) 山小屋生活。まあこんなものだろうか。帰ってきて先輩にもいわれたが、少々さばりすぎたかもしれない。それともあまりにも先輩がなつっこいのか。いずれにしろ、もうこれから、一年部員の下っぱであることを頭において言動に気をつけよう

と感じた。活動自体は割合に興味もてた。

\*入部の遅かった者のために、にわか仕立ての新トレを実施してもらった時のことで、確か二年生のうちの一人は高村さんだったと記憶する。全く関係のない話ですが5/28には学館前で愛用の自転車を盗まれて心底より嘆いている。

6/4(金) 合宿の結団式は明日である。途中から抜け出なければならない。少々後ろめたい気持ちがある。明日はあまり飲まないでおこう。酔いつぶれて汽車に乗れなかったとなると大変なことだからなあ。

\*親戚の何かの用事で帰らなければならないと書いている。日曜日に帰沢時、ゆのくに4号がひどく混んでしんどいとしている。

6/7(月) 牧野パーティのミーティングあり。記録係になっていた。しっかりやろう。それに反し、勉強のほうはさっぱりであり、化学もとけない。

\*この頃勉強をやっていない、問題が解けないなどと非常に心配し、憂えている。又、この日ザック代として4,100円出費と記録。シュラフについては大学山岳ワンゲルのためのマンスリーシュラフということで、6/30に3,940円となっており、私はいまだに愛用中。さらに地図140円、部費600円なども見かけられる。

6/19~20 きびしい。27kgだもんね。1時間歩きっぱなし、疲れた。こんどの高三郎行きは35kg。不安だ。ぶっただおれるのではないだろうか。しかし、富山県、石川県をまたにかけて歩いた。なかなかいきなものであったことよ。

\*医王山における合宿トレだが、本来は6/12であり、中止になったと書いてある。

6/27(日) とにかくえらい。あんなのははじめて。オレだけが恥をかいたことがあった。忘れようにも忘れられない。しかしよくやったと思う。おかげで体中ががたがた。くそえらい。いたい。

\*高三郎合宿トレのあとの全文ですが状況不明。

7/11(日) 全然あかん。物理の問題一問90分以上やっただができない。あの部分の問題は楽にできないと、もう絶望だという。あさってから白山行き。しかしこのままでよいのだろうか。もう風呂へ行くのがめんどくさいくらいなのだ。もう2週間になるか。

\*勉強については相変わらずずっと悩み続けている。しかし本当に2週間も風呂に行っていなかったのだろうか。

7/16(金) 白山登山!! まあまあだった。4日間のうちにいろいろみた。雨にも降られ、雲にもかぶせられ……。御岳、穂高等かすんでみえた。国立公園にしてはあまりぱっとしなないと思った。今度は夏合宿10日間。どうなるであろうか。

\*白山登山費用2000円となっている。

8/2 きょう合宿から帰ってきたわけであるが、いったい全体何が残った

のであろうか。さっぱりわからない。合宿反省会もゆううつであった。夕食を横井氏におごってもらおう。明日かえることに決めた。13時の汽車である。帰れると思うと気が休まる。合宿member 牧野茂春、吉本良治、大田正喜、横井昭次、石田忠篤、祖父江直久、東郷博、金森廣、清水重仁 PARTY "舞舞"

\*鹿島槍などに行ったと記憶するが、こんな感想しか書いていない。そのうち、帰ってこいといわれても帰らないのに、まだまだ故郷に未練があるようだ。パーティ名の舞舞は確か金森君の発案だったはず。

9/3(金) 9月1日にこちらに来る。来てみて驚いたことに山小屋作業は中止。僕のせいかもしれない。参加人員がわずか3名だという理由からである。柏木氏にもうしわけがない。



10/14 山小屋作業のことで部室へ集合のはずであったが、集まったのは3人。16日から吉田氏と入山することになった。2人分の食料計画を作らねばならない。どうもやりにくい、2人とは。

10/15(金) 買出しの日。17日の晩から6人分となる。明日、13時30分までに駒帰へ着いていなくてはならない。兼六園下11時49分あり。駒帰からは穂積さんのバイクでゆく。明日はいろいろしなくてはならない。ラジオをもってゆき、乾電池を買い、傘をもってゆき、筆記用具を買い、駒帰まで行かねばならない。ああ、パンのへたが部室にあるはずである。渡辺氏が買っておいてくれるはずになっている。

10/21 山小屋での生活は抜群であった。大島氏、柴田氏、吉本氏、吉田氏、渡辺氏、横井氏。横井さんは今、たった一人で暮しているはずである。4回目に入山する者がいないのだ。大島氏は牌を持ってこられた。毎晩やった。飯もたくさん喰った。仕事も道を造ったし、小屋周辺の整備には目を引くものがおおいにあった。吉田氏と吉本氏はさきに下山した。兼六園下17時30分に着いた。そして後始末。

\*釜で炊く飯はうまかったのだろう。以後私の活動の場として犀奥付近の比重が高いことや、近年飽きもせず山小屋酒場なるものに顔を出しているのもこのような事柄が遠因かもしれない。しかし学校では後期が始まったばかりのほうですが、5~6日も入山していてもよかったのだろうか。

10/23 クラブ総会あり。なんか陰鬱な気持ち・・・。

10/26 ロマンで竹内氏の横で打つ。結構なもうけであったと思う。

\*あの辺りには、ロマン、オメガ、龍宮ホールなどがありよく行った。麻雀も日記によれば6月9日に初めて手を染めて以来、恥ずかしながら連日のように面子と共に記述あり。

Oct. 31th, Sun たばこをくわえ、ぼさあとして考えたこと。たばこは吸っても減るし吸わなくても徐々に燃えてゆく。これは時間についてもあてはまる。ぼさあとしていても、勉強しているときも、麻雀・パチンコやっているときも、なにをしても過ぎさってゆく。

Nov. 6. 1時30分から、示1で総会。なんとなくだらだら、出席者少なし。

Nov. 9. 大引越し。リヤカー2回。正司、初宿、寺脇、松永、勝島各氏の協力でひっこしをすませた。夕食をいただく。勝島宅で積む。いきなり不規則な生活がはじまった。あすのストライキあるらしい。授業どうなるかわからないが・・・。

\*小立野3丁目(善光寺湯の近く)の下宿へ引越した。二食付で12,500円。リヤカーのため何人かのでやらないと、小立野台への登りはきつい。

Nov. 18. 土曜日は歓送登山がある。クラブ員全員参加らしい。70余名の名前がズラズラ書きならべてあった。ああそうだ、17日に大田氏にル・シャトウでオレともう一人の清水にコーヒーをサービスしてもらう。

Nov. 20~21 歓送登山。何か、はじめから楽天気分一杯だった。ダムから一ピッチ。帰りはばらばら。酒、しかし、3年生の女の人がついでくれたり、たばこに火をつけてくれたり、何かほろよいだった。2班、牧野、宇野、石田、北川、辻、立浪、Mr. 柴田であった。

\*メニューはスキヤキだったようだ。タバコは何人かの先輩諸嬢の方々も吸っておられたと思いますが、どんな銘柄だったのでしょ。我々はハイライトが一般的だった。

Dec. 2th. 一限目文学休講。バス代損した。二限目相変わらずつらい。三限目はいつも睡眠。四限目は眠気がささない。五限目はないのだ。最近部室へ行くのがおっくうである。今日は体育のためにいったのみ。いやな気分なのだ最近は。

\*この頃は、クラブをやるときはやる、やりたくないときはやらないなどと書いている部分もある。

Dec. 4. 午後部会。気分悪し。7時過ぎになる。コンパ流れ。

\*コンパは1年部員コンパで、次のように1週間のびたようで、会場は北限寮だった。

12/12(日) 昨日のコンパ。酔いつぶれ、ぶざまな醜態をさらした。女の子のしゃくだとようまわる。英のところで一夜を明かす。メンバー、田中正、川端、金森。朝方からつむ。そして昼頃バチンコ。そして帰る。

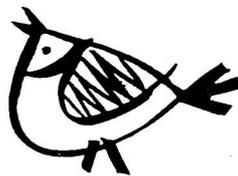
12/13 パークにて、医王山冬山ミーティング。装備係とあいなる。

12/14 成人式P. W. の装備計画のため、部室で一時を過ごす。4限目、機械科の奴らと文学の授業に出席し、勝島氏の返事をして帰る。6時30分ごろから、9時30分まで寝た。田中と小木曾がきていた。田中は京都と大阪へ来週いくらしいので、水曜日、英語と化学実験へ出席してやることにした。明日は木曜日、トレーニングがある。

\*部員ではないが、代返と代出席の実態の一部。こういった中、昭和46年も終わりに近づき25日には19歳の誕生日を迎えることになる。ダラけた生活を嘆きつつ。

昭和47年

1/10 クラブミーティング、  
トレーニング中止。勉強やらなくちゃなら  
ない。登山靴を購入。8500円也。



( \*以後2月初めまで記述なし。 )

2/2(水) クラブトレーニングかなりきびしかった。田中正がオレの下宿で沈殿すると言い出したのでしかたなく宿す。11時ごろまで眠った。その後少し学習した。彼は週刊誌に読みふけていた。

\*この2月雪が全然ないと書いている。この後しばらくしてスト権が確立して、後期試験は4月になったとしている。

2/13(日) 札幌冬季オリンピックも終わった。クラブ関係では天気図をとるのを相当忘れた。これではいけないと思いながら、つい聴くのを怠ってしまう。

2/23(水) きょうのトレーニングは最高にえらかった。校内2周、階段の登り5回・・・。ふらふらした。新二トレももうすぐ。入試ももうすぐ。春山準合宿ももうすぐ。後期試験ももうすぐ。何もかももうすぐ。最後に光陰矢の如し。

2/25(金) 夕方、春山M. あすは買出し。少しばかりの準備をする。ワカンにあまに油ぬってない。まあなんとかなるさ。

2/26(土) PM2、買出し、買出し表相当miss。パッキング、重量30kg。合宿より軽いけど冬だけあって2泊3日でも重い感じ。春山準合宿では思いやられる気がする。電信公社にてMeeting、Coffee 55円、なにか渋かった。明日は6時30分集合。バスがないもよう。早起きして歩いていかねばならない。

2/29 新二トレ Member 間所、石田、西村、村瀬

ああ、寒かった。三日間雨と雪。

よく耐えられたものである。また

もや1年生は2人のみ。

ザックも割合重い。帰りはラッセル、ラッセル。集中したのは4パ

ーティのみ。あとの3パーティは

脱出。雪は2mくらいはあったろ

うか。食料係としてmistake

多し。

\*2月の初めは雪が少ないと書いた

が、不意の大雪になったのだろ

うか。



3/1 反省会の後、清家宅で積む。中野、英、林、三浦、寺内。そしてあとから酔っぱらって来た者、塚本、金森、山内、金井。朝、橋場からバスで帰る。

3/11(土) きのはバイト。10時に開始。3時30分ごろ終わった。なかなか疲れた、ポスター貼りといっても。1400円であったが、北国新聞のねえちゃんが、1500円にしてくれた。実質は123枚であった。それを140枚にしてくれ、まともや150枚にしてくれた。ええ、ねえちゃんやったぜ。きょうは、2時からトレーニング。えらかった。足ががたがたになった。

3/17(金) トレーニング。夜、横井氏宅へよる。川端、宇野、寺内、中野。ワカン確保。第7で10時30分めし。中野宿泊。川端帰るであろう。18日から当分の間、家をあける。まず辻田宅。そしてウィンバーの中。45kgもかついで歩けるであろうか。少々、自信ない。

3/30(木) 久しぶりにdiaryの門をたたく。さすが春山のだご味。いかった、いかった。しかし1年生として、また、気象係としてなんとチョンボの多いことか。Member B隊 清家雅幸、松縄宏、川端俊朗、北川隆次、中野。中でもよかったのはシゲジの壁。下りのシリ制動!!ズボンも破れた。スピードありスリルあり。ABCD隊のそれぞれが力をあわす。すばらしいことではないか。きびしい寒さ。その中でブロック積み。あれはえらかった。オレはC1で熱を出した。その次の日は個人装備だけで行った。まあ回復した。シゲジの2峰で快晴の際にSunOilを塗って日なたぼっこ。御前峰、剣が峰、大汝、七倉、四塚、釈迦、別山、シゲジ、雪の山々……。帰りにB.H.でドンチャン騒ぎ。酒と男と春歌etc。

\*沈殿2日を含み9泊10日の春山準合宿。山自体は当然であるが、なんといっても養蚕小屋での最終日の一夜は楽しく、強烈な印象を受けたように思う。どれくらいの熱だかわからないが、回復はこういった状況下では若さや体力というよりも気力のなせる技か。当然ながらまだまだ未熟であったようですが何とか持ちこたえてここまでやってきたという感じでしょうか。

#### 中堅篇 (昭和47.4~昭和48.3)

後期試験未終了のまま4/1には自動的に2年生になった。部活動については、ようやく助走期間を終え、夏以降くらいから積極的に取り組みはじめるようになったようです。

昭和47年

4/22(土)~23(日) 線形の試験、カンニング承認の感じであった。自信のあったのは一問のみであった。その後、中野、藤野、松平とで桜荘へ。その後クラブ総会。新トレの際、おれは全体の装備係とあいなってしまった。一度も装備係の経験はない。しっかりやらねばならないと痛感する。そしてP.M.6:00より石川門下ちんしょう園でコンパ。乱れ乱れてビールのぶっかけあい。一年生の奴ら、俺より年上のやつばかりだ。一浪が多かったような気がする。そして2次会、赤玉へ。そして3次会、ル・ビアンへ。

\*この線形の試験で遅れていた後期試験の終了。年上よりも同年というのが正しいようです、ごめん。

4/27(木) なにもかも無気力。クラブへ行く気もない。めんどくさいの一語に尽きる。29~1日、山小屋作業、装備係。5/20~22日、新トレ、装備係やる気なし。授業をさぼってまでやらなければならないのだろうか。

4/28(金) 山小屋P.W.のpackingをようやく完了した。明日は8時30分集合である。1日の午前中に帰る。しかし、土曜日の授業はさぼることになってしまう。月曜日は化学実験がある。薬学部の女子の顔が見られるのである。

5/1(月) 山小屋を6:30出発。駒帰を9:50発バス、150円で兼六園下につく。そして、2限、3、4限と授業に出席。渡辺、中野、田中正の面々は残った。旧道と新道とに分かれて登った。おれは旧道を登り、高三郎の一峰、二峰と2年生になってはじめて登った。かの有名な山、高三郎。残雪もすこしあった。頂上でコンデンスミルクとカルピスでもって雪氷をしてたべた。しかし暑さがこたえた。いつもながら山小屋での釜でたくめしはうまかった。旧道はオレの切り開いたところもある。さすがにうれしい

気分のものである。白山、北ア、見越、奈良、大笠もみえた。そのむこうのおいずるには川端たちがいるはずであった。

Member 今村(4)、渡辺(3)、竹内(3)、塚本(2)、井上(2)、清水(美)(2)、亀田(2)、寺内(2)、中野(2)、田中(正)(2)以上

\*このページにダムより見た高三郎のスケッチも一緒に書いている。

5/2(火) 成績表!! 法学、体講、数Aを除き一応すべてpassした。数Bが優であった。驚き!! 可は梶先生のEnglishと歴史学。菊池先生が良であったのは不平あり。

\*結果的に優は一つだったのだろうか。

5/3 久しぶりに散髪にゆく。去年の8月以来である。少々短くしすぎたようだ。明日は帰省である。

\*確かに長くしていたが9ヶ月もの間、全く手を加えなかったのだろうか。

5/8(月) 夜、川端と田中来る。エレキギターをならして帰る。明日、装備分けをしなくてはならない。何もかもめんどくさい。

\*ほとんど弾けないのにギターは持っていたようだ。



5/9(火) ああ、くそう、めんどくさい。装備分けやて……。いやになってしまった、今日はほんとうに。むしゃくしゃする。1年生を連れて卯辰山までランニング、疲れるぜまったく。

\*装備分けとは新トレのためだったのだろうか。全く記憶にない。

5/10(WED) 世界初の物理学実験。ヤング率の項目を少々前もって見ておいたのはよいのだが、場所がちがった。何という困難な実験だろう。望遠鏡のようなものをのぞいて、スケールの目盛りを読む。鏡の回転によって移動するのである。パートナーの館氏のおかげでどうにかこうにかレポート完成までこぎつけ、一発でpassしたが、時はすでに6時前であった。やっけて、全然理解できなかったもんな。今日の実験は。

\*必須科目の実験の内容の一部まで書いているのはここだけである。今もこういったカリキュラムになっているのだろうか。物理実験については非常に神経質になっている。

5/18(木) ああ、疲れた。健民公園まで走って、その後装備の仕事。家へ着いたのが10時40分。もういやになる。しかし、おれは北川隆次に大きく借りがある。明日はpacking。またもや遅くなることは必至であろう。買い出しは昼休み。その前が装備分け。足はがたがた。帰りに田中正と揚子江で五目そばを食べたのみ。

\*大きな借りとはなんだったのか不明。

5/22(月) おれにとっては初めての新しい新トレ。不安であったなべも順調である。2年生としてどんな仕事をしたであろうか。もっとリーダーを助けるべきであったのか。

Member P. L. 宇野潔 4年 山田廣、矢津早苗 3年 祖父江直久

2年 清水啓紀、大石恵子 1年 川村、井上、吉田、山田

高三郎旧道951まで

絹でmeeting。その後積む、公園下クラブ。祖父江、山上、井上(2)、林、井上(1)。そして若葉へ。Mr. 祖父江のおごりであった。ふらふらの状態で化学実験レポートと装備報告を書いたのであった。

\*酔っぱらいながらも勉学とクラブとを両立させているのか。

5/25(木) 夜、啓さんと工学部27番教室へドンチャン騒ぎに行った。途中、監視がやってきたが何ともゆわず。

\*??

5 / 3 1 (水) 本日は休み。学校の創立記念日。

6 / 5 (月) 2年生 meeting。合宿のことについて。中野と間所氏に伴うことにした。

6 / 7 (水) 水曜という日はまさに最悪の日である。数B、力学、物実とまさに頭がかんかんになる授業科目ばかりである。あしたははやくもくようです。いちじかんめはどいつごで、にじかんめはかがくです。ひるからはでんきかいろりろんのですとがあるのです。さてどうなりましょう。べつにこれとってまじめにべんきょうしていません。

\*などとまだまだ続くのですがこの辺にしておきます。

6 / 1 1 (日) 10日、史上初の献血。ああ、グロテスク。その後総会。その後結団式。その後オリンピック。その後間所宅。11日、浜川とオートバイのりまわす。夜、間所宅からのビール2本、寺脇と飲む。  
合宿 Member P. L. 間所 S. L. 中野 4 大田、北島 3 奥名  
2 清水(美) 1 大森、平井、堂野、恵比寿

\*結団式は校内でやったのだったろうか。

6 / 1 7 ~ 1 8 第1回合宿トレーニング。もうわけがわからん。びしょぬれだった。もう寝るぜ。

6 / 2 1 (水) 南ア北部 P. W. にも行くつもりです。山小屋作業にも行きたいのですが、日の関係で無理でしょう。一度はこういうことも否定しておきながら、ついには勉強を横に置いてしまうのです。これで正しいのでしょうか。大変まよう所です。

6 / 2 3 (金) しかし、あの体育の授業は頭にくる。時間を10分も延長した上、綱登りをやらせる。4mしか登れなかった。体操は5人の内に入らなかった。あれだけ幸運であった。あすの駅伝大会・・・、果たしてどんな結果になることやら。

6 / 2 4 ~ 2 5 駅伝大会!! 総合4位。優秀選手は大森であろう。相当苦しかった。そこでビールは5本。コンパ代金300円。間所宅でスキヤキコンパ。途中で間所氏から1000円出費でビール追加。女達もよく飲んだ。大田氏もいた。平井と大森は睡眠。堂野、中野、奥名・・・は積む。朝の5時までやった。そして眠る。起きたのが10時30分。帰宅して寝た。

最近では山へ行くのに何か情熱的なものを感じなくなるようになる。ただの行きたいという気持ちだけであるが。それは1年生諸君を下に控えているからかもしれない。

6 / 2 6 (月) 最近はいい天気が続く。貯金を5000円おろす。そのうち今日は3500円使った。内訳は 1. ニッカ 2. 合宿トレーニング費 3. 地図代  
4. 食費 5. 交通費 となっている。

6 / 3 0 (金) packingの日。どうもいやだ。団装が少しも回ってこないのである。これもほんとうに困ったことである。石をつめて、ああ、30kgにするのである。ばからしいというか、こっけいである。明日は雨になるかもしれない。いやだなあ。

7 / 3 (月) 7月1日 金沢-駒帰-B. H. 下 7月2日 B. H. 下-高  
三郎新道-989 peak-金沢

1日、ダムをすぎたところで2500円ひろった。それで、中野、間所、奥名の各人と宝生会館(宇野氏の同行)で、そして銀ブラメンバーだけで奥名氏宅でのむ、くう。寿司3000円・・・。10時すぎかな、横井氏登場。のんでもらいます。横井氏の部屋で3人が寝かせてもらった。

\*お金をひらうのも珍しい。まさかワングル部員の誰かのお金ではなかったでしょうね。

7 / 1 0 (月) クラブで遅くなっておばさんにいやな顔をされた。正当な理由はあるのだ。オレもいつも精一杯早く帰ってくるようにしているのだが。

\*クラブだけではなく、日頃の生活も不規則で10月末に引越越しすることになる。

7/11(火) この数日は梅雨前線の盛り返しで全国的に大荒れに荒れている。日本の上に梅雨前線、そして太平洋とシナ海には4つの台風が存在する。ほんとうに奇怪な天気である。夕食を食ってからトレーニングにいった。腹にぐっとこたえた。そして電通でコーラを飲んだ。間所氏は中野と大森の代金をもつ。その後、Leader会らしきものを観まして、ブラブラ帰ってきたのであります。

\*すでに異常気象の現われか。

7/15(土) 15日朝、7時ごろんと寝、10時ごろ家へ帰る。あわててクラブへ行く。当然の如く、買い出しは延期。月曜日の10時ということになっている。そしてワングル部員憩いの場"Ω"へ行く。間所、奥名、宇野、田中正、清家、増田、三宅氏ら・・・その後、清家宅で増田、三宅氏と積む。ポロポロに沈む。

\*白山合宿トレ延期、即ギャンブルか。

7/17(月) 10時ごろ部室に行く。Leaderの間での話し合いがおこなわれていた。間所氏ははじめ行かないつもりであった。11時すぎに行動することに決定した。そして買い出し、packing。オレは重量が20kgくらい。明日は7時出発である。おばさんがおにぎりを作ってやろうといていた。夕食にビールをコップ2杯もらう。

7/20(木) 天気は上々。顔が真っ赤になった。よう焼けた。御前峰からのながめもよかった。さすが・・・っ。明日から帰省しようと思う。25日くらいに来るつもりである。帰りにジュネで奥名様にビールをおごってもらった。

\*結果として全パーティ砂防、南龍の同一コースとなったと思う。

7/25~26 A. M. 11:00より買い出し。P. M. 7:00間所宅でコース説明会。A. M. 0:00例によって4人が残る。ああ、こんな時にまで麻雀やってもよいであろうか。A. M. 3:00奥名氏に乗せてもらって彼氏の下宿に到着。A. M. 11:00帰宅。そしてP. M. 2:00バックキング、割合早かった。35kg前後になる。そして矢津嬢に運んでもらう。そして渡辺Partyを盛大に見送る。明日の朝5時には松縄、宇野氏ら、そのあと我々、三宅、坂尻氏らがゆくのである。

\*コース説明会とはどんなことしてたのか。特に飲んだとも書いていない。



8/4(金) Member P. L. 間所新一 S. L. 中野淳一  
4 矢津早苗 3 奥名正啓 2 清水美智子 1 大森克成 平井幹男 堂野外巳明  
恵比寿泰子 帰ってきたぜ。一番よかったのは薬師や黒五からの水晶、赤牛らの眺めであろう。槍も人が多い。去年はほんとうに少なかったと思う。スタンプもたくさん押してきた。大天井では雷、風、雨でやられて、小屋へ避難した。素泊まりで1000円である。大天井では水がなかった。中房から有明まではtaxi。この方がバスよりも安くあがるのだからおもしろい。

8/5 P. M. 1:00 PARKで反省会。その後4人で公園下クラブへ行った。

\*水晶は翌年めざすことになる。

8/7(月) A. M. 10:00より反省会。P. M. 2:45終了。その後、大森と2人で合宿の装備の整理。平井と恵比寿と堂野の奴等、何をしてるのか。P. M. 7:00山内宅で2年生meeting。酒飲んでペチャクチャ。0:45帰る。

\*全体の反省会かどうか覚えていない。

8/10(木) スタア劇場へゆく。そして10時前に帰宅。久しぶりの天気図をとってやった。川端のやつシュラフとザックを取りに来なかった。おかげでズブ濡れである。部室へ行ったら赤牛P. W. の準備中であった。

\*状況からすると夜中にシュラフとザックを部室まで持って行ったのであろうか。

8 / 13 (日) 部室へ計画用紙と南アのアルパインガイドを取りにいった所、ちょうど高村氏をLeaderとするトレッキングの連中が帰ってきた。沈殿、沈殿で予定は大失敗だそう。現在、白山には上馬、南保、間所氏と川端らも入っているが、ほとんど沈殿だったらしい。

\* 南ア北部P. W. のため少々勉強しようとしているらしい。

8 / 15 (火) 毎日、毎日暑い！午後部室にてブスや装備の点検をやった。点検の最中に焼きそばを作って食べた。田中正がやってきた。おれは30円しかなかったが、彼のおごりでみかどへ行ってミルク小倉フラッペなるものを食べた。それから彼のパチンコを見にいった。4時30分頃から部室でごろんと横になった。5時すぎだったか、川端が白山から帰ってきた。オレのザックとシュラフも持ってきた。中野との連絡がとれないので、川端に残りの地図も借りることにした。明日は買い出し、パッキングである。東京ストアで買うらしい。

\* 8 / 10と関連して、私のシュラフ、ザックを貸していたのか？P. W. の記録をみても川端が白山へ行っていた事実は見つからない。地図はもちろん南ア。

8 / 17 ~ 24 南ア北部P. W. = ナポレオンのためのP. W. 塩見一山7000円。同じコース往復。Member 西村、増田、三宅、亀田、大森  
24日 茂六にてP. W. のコンパ。その後オリンピックへ。

\* パーティ名はオールド。8 / 20、21と北荒川で沈殿。5分の1ほどしか消化せず下山。テントの中でトランプばかりであったが、まことに楽しいP. W. であった。亀田、大森と共に翌年再挑戦。



メンバーは3回生3名、  
2回生2名、1回生1  
名。うち最年長が1回  
生という訳で「オールド」

8 / 26 母からの手紙。「ボルの死」「俺の友人が一人減った」

\* 小学5年のころより飼っていた愛犬のこと。いつまでも野性味を失わなかった犬であった。信頼できる、自然につきあえる友であったなどと述懐している。先祖の墓参りもかねて9月2日に帰省。

9 / 4 (月) 帰りに部室へ寄ったら、増田氏がいて、明日バイトをやらないかといわれて、なんなく承認した。彼の下宿へ12時ごろ行けばいいそうなのである。

9 / 5 (火) 12時ごろ増田氏の下宿へ行く。迎えの車が来ない。ぼんやり待つ。2時前に来た。そして内灘のほうへ行く。ソフトボール大会のテントの撤収であった。重たいテント、ポール、イス・・・。5時前には終わった。しかし、テントやポールは返却せねばならないので、1時間ほど車に乗ったりして、やっと6時に終わり、上諸江からバス、バスで帰る。

9 / 6 (水) 物理実験では中野と共同であった。終えて部室に立ち寄る。北川隆次が一年生4人と2年生3人におごる。"みかど"へ。The 3th 白山ベルクハイムP. W. のMemberが決定していた。高村、増田、金森、渡辺(和)である。現在の

( 懐い字体と緑された PW 計画書 コース概説の一部 )

仙人岩岳～大笠の鞍部にも池塘があるとのことである。  
 この付近も東面が切れていて、尾根上げがなりの灌木の叢である。  
 奈良岳直下で二重山稜となり、ルートを取り易がむっかしいようだ。  
 奈良岳の最後の登りもかなりきつく、ルートも取りにくい。大笠から  
 奈良岳頂上迄4～5時間だろう。頂上に出ると一度に南に河内  
 村へ続く道が延々と連なっているのが見える。又、頂上には夏新しい  
 白い道標が立っていて、我々がPWの白山研究会の道標もある。人造  
 のキノコ場迄作りつけてある。もちろんテントは張れる。  
 見越方面へ向うとすぐに道はなくなり、背おれも高い笹になる。  
 その笹叢も見越山直下で消え、足元は浮石の多い、岩場のくすれた  
 様な感じになり、ずつと歩きやすくなる。奈良岳から見越山南峰  
 迄1時間。南峰は大門方面への尾根との分岐となっている。  
 傾斜しているが、テントのはれる位の土の露出した所がある。ここにも  
 白山研究会の赤い道標が付けられている。  
 さらに中峰、北峰と進むが、一応3アトが所々あるが、中峰  
 の下り、北峰の上部付近及び下りは荒れ方がひどく種々の叢が  
 入り混ざって、ルートを取り方がかなり難しい。南峰からワニゲル平  
 迄約2時間。(ワニゲル平とは…数年前の山小屋作業で登山道整備中  
 に作った基地で場所は、1/2.5万「西赤尾」の地図で、高三郎山と見越山  
 の稜線上で見越山の北西側直下の1380mの少し広くなつた非常に小  
 い鞍部。6人張る張位の広さがあり「水有り」との柱がある所を下れば  
 2～3分で小さな沢に出、更に2分位で大きな沢に出る。水量は豊富。  
 水場へは足場を切つてある。ワニゲル平に取つて天国のような所である。)  
 ワニゲル平手前5分より、いい道がある。(今年は更に延びるだろう。)  
 ワニゲル平からいよいよ水平に近い道となり、程度西側に巻きたまから  
 高三郎山の五峰へ登る。あと五峰を越せばもうI峰である。  
 高三郎山I峰迄、ワニゲル平から2時間程である。

以上

文責 高村

資料は、大次白山-Bergheim PW (長森幸三氏)  
 横浜市大 WV 部、長岡正利さん  
 トリイケスポーツの田さん 等々と、筆者自  
 身の経験によるものと、推測である。



( 蒸し胸や竹の可<sub>3</sub>X=2-2<sub>2</sub> )

食料計画

by Chief Cook Shimizu さん

	朝	昼	行動	夕	ミーティング
金一 基助		マ-7100-113	ア×1	スチアチ 7'72009 ハフサイ 1-2キ 赤コン 1 コ-47-71	紅茶 菓子1
金一 基助	ミソ汁 ワカメ 7407 1/2	パンの角 1/2 シヤム 1	ミユ-ス 1/2 レモン 1 ア×1 クミン 1 L-251	カレー 7'72009 L'740112 3キ911 人等 1 カ-27-71	紅茶 菓子1
金一 基助	ミソ汁 3.1 フリカケ 1/2 ミソ汁 1	パンの角 1/2 ワカメ 5 シヤム 1	ミユ-ス 1/2 羊かん 1 日0.03 クミン 1 キ911	ビーフシチュー 7'72009 ミユ-ス 1 日0.03 人等 1 日0.03 343-31	紅茶 菓子1
金一 基助	やきめし ブルーチーズ パン 100g	ハイライト 5	羊かん 1 サラ パン 1 キ911 レモン 1	釜めし モヒス 茶	紅茶
金一 基助	やきめし 67 茶 ソー-2-31	豆乳パン 5 マ-マレード 1	4301 ア×1 ハク L-251	モヒ 5x5=257 マ-7111	紅茶 菓子1
金一 基助	やきめし 67 茶 ソー-2-31	豆乳パン 5 マ-マレード 1	パン 1 ビスツ 羊かん 1 レモン サッレ 1	ラ-メ-ライス 茶 ラ-メ-5 未58 ソー-2-31 3.1111	ココア 菓子1
金一 基助	やきめし 67 茶 ソー-2-31	玉子パン 5	3キサツウ 1 サラ フサレ 1 キ911 L-251	やきめし ブルーチーズ パン 1	ココア 菓子1
金一 基助	やきめし 67 茶 ソー-2-31	玉子パン 5 シヤム 1	サッレ 1 レモン 羊かん 1 ア×1	飯と味噌 かん 1 L-251	お好み焼
金一 基助	やきめし ココア 1 ソー-2-31		キアラメル 1 サッレ 1		
予備 1	茶漬 モヒ 1 L-251	41パン 5 シヤム 1	サッレ 1 キ911 フサレ 1 レモン L-251	やきめし 茶 ソー-2-31 ラー	紅茶
2	ミソ汁 茶 1.2x2.1ミソ汁 0.1111	41パン 5 マ-7111	羊かん 1 ビスツ クミン 1 キ911 ア×1	4キサツウ 7'72009 パン 1 ア×1 フサレ 1	紅茶 菓子1
3	ラー 6 ソー-2-31	41パン 5 マ-マレード 1	豆乳パン 1 ビスツ 3キサツウ 1 レモン L-251	釜めし 茶 釜めし 1 2	紅茶
4	茶漬 モヒ パン 1	マ-7110-113 シヤム 1	ラッサー 1 羊かん 1 ア×1	パン 1 日0.03 L'740112 2 サッレ ミユ-ス 1 人等 1 日0.03	ココア 菓子1
5	ミソ汁 ワカメ 123.11	マ-7110-113 マ-マレード 1	サッレ 1 4301	チキライス 4キサツウ 1 クミン 1	ココア 菓子1
非常食	オボムパン 5 ハチミツ 1	角+ス 1 スロート 150g	予備用	茶 7'72009 L'740112	紅茶

三方岩以後  
水1.7倍の  
水の量に注意

2.5L

2.0L

4.6L

4.4L

1.5L

5.4L

5.4L

4.8L

計30.6L

米 2.7 升 (一人朝 1.0 合 夕 1.5 合)

米 1 升

- ・ 大秤内は三方岩岳へデボしておく。
- ・ 大秤の向の一日分はバルクハイムへデボ。
- ・ 予備食 1.2.3 は三方岩出穂後の予備食。
- ・ 右欄の水必要量の計算規準  $\text{茶} 200\text{cc}/\text{人}$   $\text{茶} 100\text{cc}/\text{人}$   $\text{やきめし} 160\text{cc}/\text{人}$   
 $\text{ラ-メ-} 350\text{cc}/\text{人}$   $\text{紅茶} 100\text{cc}/\text{人}$   $\text{米の水の量} 1.5\text{倍}$

所、部室には P. W. の大盛り。思い出せる所をあげてみると、まず、白山ーベルクハイム、上高地、秋の白山、常念山脈、朝日連峰、森本川、八重山、五箇山、八ヶ岳、それに山小屋作業と非常に多い。

9/7(木) 午後、専門さぼる。間所氏とミカドへ。その後、増田氏とル・シャトウへ。バイトの金入る。5時より白山ーベルクハイムミーティング。食料係になる。だからだした話で頭に来た。軽量化をはからねばならない。それに8泊9日、予備日5日という長さ。最大の山行になるかもしれないと増田氏もいったよ。

\*どうもミーティングは苦手らしいが、義務感はある模様。

9/8(金) 体育の時間。またもや当てられなかった。3時25分ごろより始まって、4時10分ごろ終わった。信じられない。5時より2年合ワンの meeting。食料の係に啓紀とともに指名された。

9/12 今日、オレは大 shock を受けた。とうとう言われた。下宿を変われと。朝は遅いし、晩も遅い。がっくりきた。来月までに何とかしなくてはならない。田中の所が3畳であいているという。これから相談に行ってくる。

9/20(水) きょうでやれやれ物理実験が終了した。12回の実験をやったが何の成果も残らなかったようだ。5時過ぎから P. W. の Meeting。そして電々に飯を食べに行った。高村氏が言っていた。もうすぐ新トレじゃないかと。そうもうすぐである。俺達2年生が Leadership をとらなければならないのである。

\*自分には Leader はつとまらないだろうなどと述べている。



9/29(金) 一応試験終了。中野、藤野、松平とで cherry へ。そして9時ごろから引越す。まあまあ落ち着く。

\*文章から判断すると9時とは夜の9時か。小立野1丁目の下宿の3畳の部屋に入った模様。後に部屋はかわるが4年半ここで暮らす。

10/1(日) 朝6時30分部室へ。1年コンパの残留党が数人いた。着替えて橋場へ。7時47分のバスで二俣へ。車掌が切符を2枚くれた。1枚もうけた。さてトレーニングであるがきつかった。地藏峠まで。ほんとうに初体験のブッシュ。もうふてくされて歩いていた。地藏峠までゆくと、国見、黒瀑、蕪岩等がよく見られる。地藏峠から1ピッチで見上。バスのなかではねむい、ねむい。そして部室ではしばらくぼけっとしていた。山小屋作業はパッキング完了であった。

\*9/30に中野宅で2年生10名ほどでコンパらしきものを催しているが、珍しく私は飲まなかったとしている。増田氏、風邪気味で不参加。

10/2(月) しかし今日の買い出し packing は疲れた。みんなもそうらしい。それで明日の出発は明後日になった。頭が重い、熱があるようだ。明日のうちに少しでも快復にむかわなければおれはアウチか。アウチにはなりたくない。オレは燃えている。

\*高村、増田氏は松林氏と共に9/28~29に三方岩岳へデポに行ってもらっている。私だけでなくみんなも疲れており、この時点で10/4出発になっていたのですね。

10/3(火) 何かとごたごたして、大手町病院へ。高村氏に金を借りて1650円。注射1本と薬4日分。少しは楽になった気がする。熱がないのに(36度4分)のにあるように感じてしまう。結局、明日出発ということになった。

\*明日の出発を前に全員の体調もギリギリの所で持ちこたえたよう。現在私の平熱は35度4分くらいで微熱はあったのか。

10/15(日) ほんとうに大 P. W. 。兼六園下から始まって一周してまたもとの所へ。坂尻氏らともワンゲル平であらう。Bergheim では山田氏の差し入れの酒。8期生の old。西村、上馬の各氏にも出会う。ほんとうにがんばった P. W. 。しかし今日はよく走った。ダムから駒帰の少し前まで。部室に誰もいなかったのが寂しい。北川がコ

ーヒーをおごってくれた。川端がおっこちたらしい。Bushはえらい。笈、大笠、仙人窟・・・。分速8m。水は100cc。熊の巢平、岩底のキレット、奈良岳池塘・・・。大笠のピーク直前で目をついてしまった。現在充血中である。ヘルメット様々の感じであった。明日の発表、さてどうなるか。

\*沈殿2日を含む1泊12日。発表とはもちろん試験結果であろうが、16日は日記もつけておらず。

10/24 運動部委員会にmanagerの代理として出席した。

\*??

10/29(日) 土曜日は総会があった。間所氏が予想どおり部長に立候補した。きょうは、引越しをした。さすが8畳、だだっぴろい感じがする。

10/31(火) 実験をいい加減にすませて中野とともに部室へ行く。果たして2年Meetingあり。食料系のチーフだ。明日は工学部の運動会。といっても俺は買い出しにゆかねばならない。

\*工学部の運動会には、三悪競争(酒を1合飲んで、タバコを1本吸い、麻雀牌を積む)というのがあり一度参加したことを覚えている。

11/1(水) 買い出しをする。そしてバックングらしきものもする。我がクラブの新執行部ではオレを装備係として用いるらしい。あまり乗り気じゃないがな。しかし、例外と体がもつ。たった睡眠2時間であるのに。

11/5 3日~5日 2年合ワソ。俺の最高最大の悪乗り山行になるかもしれぬ。食料係としてのチョンボもあり。前高三郎まで富大の織田君と2人だけで行った。

\*少し羽目を外しすぎたようだった。我々がワンデリング中に他の人は何をしていたのだろう。もう1人氣のあった福大の平川君は後に再登場。

11/11(土) P.M. 3:00より総会。間所氏の新執行部の方針が打ち出される。俺は装備係に任命された。P.M. 9:00まで長びいた。

11/15(水) 2年Meetingへ行く。法文校舎の4階に部屋をとった。6時から9時までまとまりのない話をして終わる。

\*この辺りのMeetingは冬山関連か?

11/18(SAT) P.M. 5時すぎより歓送登山つぶれの残念コンパなるものが、旧生協の一階でシートをひいて催された。あれが4年生を送るという感じのコンパであろうか。追コンとまったく同じ形になったようである。20人ばかり香林坊へ行く。一方は金森、もう一方は亀田が肩をかしてくれた。1時間半ほどいたらしいが、そしてこんどは、一方に小林、もう一方に亀田。小谷氏宅へ17人ほどのりこむ。

11/19 午前1時ごろ1年生は全部帰った。残りは、牧野、大田、今村、松林、宇野、井上、小林であった。井上はそうとうにまいている。その後、小谷、辰野、岡崎、松縄氏が来た。松縄氏宅にとめてもらった。12時ごろ帰ってくる。あまりにいい天気なので工学部の4階まで登って、白山、高三郎、大門をみる。

\*まずは宿主不在の所に上がり込んだらしい。工学部から白山見えましたっけ。

11/26(SUN) 昼過ぎより本部へいってみる。かなりの模擬店が立ち並んでいた。めざすは"Z"。50円券でコーヒーとシュークリームをいただいた。部室へ行く。誰もいない。しばらくすると井上徹と能美。金が200円しかなかったので井上に500円かりる。即パチンコ。少々でた。5時すぎ井上にあつたら金を返そうと思ひながら歩いていくと、ちょうど出会ったので返却。部室に行くと岩田氏、鈴木氏、それに高村氏。岩田氏に最近おまえは顔をあげたなあといわれた。

\*やっとみんなに名前を覚えてもらったということか。

11/29 (WED) 午後さぼり。というのはいつものことであるが、ウィンパーの注文のため寸法をはからねばならなかった。井上徹と小間の2人で援助してもらって無事完了した。ホリイケまで注文しに行った。予算は7~8万円である。

\* ウィンパーはオーダーメイドだったのか。

11/30 (木) 電磁気演習を終えて(何のことかさっぱりであったが) Leader 会へゆく。最近寺口によく乗せてもらう。6時20分ごろであったろうか。うまく予算にでくわした。各係の予算案の話が続く。だんだんと人数がへり、最終的に残ったのは間所、高村、西村、石田、宇野、南保、川端、山内、中野の面々。終了は師走一日午前零時。信じられない。

12/2 (土) 午後、総会。執行部の連中も頭にきていたが、俺も頭に来た。ほんとうに出席者が少ないのである。特に1年生だらうか。冬山の参加者もあまり増えていない。総会が終わって、塚本と北川と3人でホリイケへ行った。そこでピッケルを注文し、ロングスパッツを購入した。まあ、一応格好はつくのではないが。井上徹に装備のサブをやってもらうことにした。明日午後より部室の整理を行う。北川もやってくるそうだ。ほんとうにありがたい。

12/9~12/11 (月) 荒島岳初冬 P. W. 南保、田中正  
9日、中野宅に正と行く。金沢駅、午前2時33分発、急行(北国)で福井へ。そこで3時間ばかり待ち、6時45分発越美北線に乗る。7時34分勝原着。快晴になってしまった。睡眠不足のおかげで腰が痛い。死にそうになってしゃくなげ平に着く。12時15分ごろ。そして昼飯を食って、いざやワンデリング。1時間ほどで荒島岳ピーク。荒島という山、かなり見せ場がある。さすが日本百名山の一つ、独立峰なのである。ピーク付近は雪もしまっているし、エビのしっぽが非常に多い。真っ青の空と真っ白の雪山。夏テンを張る。次の日7時40分起床。またもや快晴。10時40分出発。スキー場に着いたのが12時30分ごろであったろうか。1杯70円のインタントカフェを飲む。13時46分発ので福井へ。これからが大変。「平川」をよんだのだ。彼の車でまず大学へゆく。部室を見たりする。そしてバスで駅前へ。まだ飲むのは早いということで喫茶店へ。そして次第に飲んでゆく。

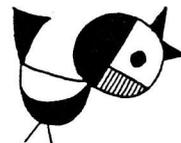
回った所 1. 銀座茶廊 2. 大番 3. 丸美屋 4. 寺前 5. 選挙事務所  
6. あるスナック

さて大変。南保氏大悪乗り。朝日の記者だとかいって選挙事務所でインタビューしたり。また一升瓶をいただいたり・・・。汽車はなくなる。11日、午前1時55分のきたぐにに一応決める。しかしだめだった。線路のそばのあるスナックで白熱。いつまでも終わらないので正とともに北国にのった。部室へ着いたのが午前4時ごろ。一人で寝た。10時ごろからぼつぼつ人がくるので起きている。その後生協へ行って驚いた。南保氏がけろっとしていた。ル・シャトウでコーラをもらう。

\* ちょうど議員選挙の投票日だったようだ。福井市内のワンデリングも P. W. の行動記録とされたのだろうか。バラバラで帰った P. W. 、これほどの予定外行動の覚えは他には全くない。

12/12 (火) 6時ごろより電々で P. W. の簡単な反省会。その後2年 Meeting。新2トレ(どんな名称になるかわからないが)のことについての話であった。何かしらまとまらなかったようだ。合宿委員会も作る時期である。塚本の話によるとピッケルは到着したようだ。明日購入してこようと思う。明日は臨時総会あり。部費半期分1200円を払わなければならない。ピッケルを買うと一銭ものこらんで少し待ってもらおうか。

\* 合宿委員会って前年から組織していたのだろうか。



12/16 (土) 部室に行く。やがて北川や英や林が来た。北川と生協で飯を食う。13:30よりウィンパー設営訓練。案外、冬山以外の参加者も多く大成功であった。その後C隊で天気図講習会らしきものをやり、珈琲館へゆく。そこでいろいろの話がでる。合宿、新2トレ。果たして俺に Leader が務まるかどうかである。

12/20 (水) 本日は冬山 attack 隊と1年生と別れてトレーニングがなされた。三宅氏のトレーニングはきいたきいた。明日は電機器のテスト。A. M. 1:00ごろまで寝た。勉強しだしたのが2時。現在5時30分。これからまた寝よう。

12/21(木) 冷たい雨の降る金沢。ウィンパーをホリイケより取ってくる。2年 Meeting 開催さる。合宿委員会結成。座長 川端。新2トレチーフ、サブ決定、中野、清水啓。工学部の学生係へ行ってトランシーバーの件を話さねばならない。明日は買い出し、あさってパッキング、その次の日出発。

12/30(土) 24~29 冬山大師道付近ついに成ってしまった20才。何かぼうっとしている。Member C隊 P. L. 高村、中野、北川、川村、井上、橋本 冬山というより春山のような感じ。ラッセル、吹雪なし。コースタイムもせいぜい3時間。楽勝のようであった。それについている attack の日だけ、まさに快晴。ほんとうに楽しい、そんな山行。それにまちがっても、もうないような20才の誕生パーティを中ノ平の小屋でやってもらった。こんな平凡でない、考えられないようなことが大自然の雪の中で行われたのである。増田氏と奥名氏からの cake。P. L. のもってきた Hi Hi N i k k a。はじめのうちはのらなかつたけれども、いや格調が高すぎたのである。ロシア、ドイツ、フランス語の独唱が飛び出した。そして2年合ワンの掘り出し物、ジャジャジャンオウーがとびだす。29日、15時50分金沢着。ブーチャンでパーティのコンパなるものあり。10時30分ごろ若葉へ行く。A隊はまだやっていた。川端が一番乗っていたようである。11時40分ごろでる。その後、俺の下宿で松岡、川端、中野、小林でさわいだり、麻雀したりした。また来年あいましょう。

\*山行のことはよく覚えていないが中ノ平の小屋は非常に立派であったとの印象がある。12月25日、20才になった。



伏拝から経ヶ岳アタック。この頃はこんなに雪があった。現在の、経ヶ岳、荒島交互の冬合宿の先駆けとなった冬山準合宿。

昭和48年

1/8(月) 部室へ行ったら高村、南保の両氏居る。ほんとうに高村氏とはよく会う。高村氏は学生部のテントのことで有沢商会へ行くので俺も行く。商談をして喫茶店へはいる。そこで2時間以上もしゃべる。もうすぐ楽しい学校が始まる。医王山成人式 P. W.、何の係りもなかった。今年の正月は一滴も酒を飲まず。何やしらん今は疲れ気味。

1/10(水) 塚本が春に笈周辺やらんかという。まあやるといっておいた。新2トレも近い。新2トレの終わるまでは勉強ができないと誰かが言っていた。

1/11(木) 授業開始。いやになる。特に電磁気演習では頭の善し悪しが目に見える。6時過ぎ反省会場へ。8時すぎ終了。9時より山内宅で2年 Meeting。何やらだらだら。 全員参加、医王山 5 party、road 2 party。

\*新2トレのことだろうが、roadも計画されていたのか。

1/17(水) 13~15 医王山成人式 P. W. 何かしらおもしろい面々。坂尻、宇野、高村、塚本、中野、立浪、渡辺、恵比寿。激しいラッセルを処女雪に与え、月光の下でもがいた。腹もすいた。何か冬山以上の成果もあった。さて話しはかわる。我

々2年生一同は連日朝帰りを繰り返している。今日は1、2年Meeting。完全に敗北した。

\*敗北後すぐにMeetingもやっているが、個人的にはあれほどの理論的らしき1年生を連れていくのはあまり気がすまないといっている。

1/18(木) 昼12時30分起床。5時30分ごろ部屋へ。追コン執行部、増田氏、川端、塚本と共にParkへ。追コンの贈り物にはカセットテープらしい。それのためのTAPE RECORDERの数とか所有者とか決めて、一応追コンの概要をみた。川端に司会の事項を考えておけと。あせるなあ、司会をやるなんて。Parkに一年生がいた。話しをしたいと……。新2トレのことについて8時30分まで議論し、一応我々が説き伏せた感じとなった。

\*追コンの贈り物ってカセットテープだったのか。我々の時は何だったのだろう。

1/19(金) 2年Meetingの場所移動。山内宅～中野宅～小林宅。一応member分けまで2年生としては終了した。明日の総会でも発表する。医王山、全員参加のことを。

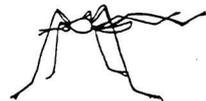
1/20(土) ネクタイしめて出勤となった。1時30分より総会。集まり悪し。新2トレのこともすんなり通過した感じ。川端と共に5時前に大和へ。テープレコーダーの設置などを完了させる。6時すぎより追コン開始。司会役……。適当にやっておく。8時すぎに1次会終了。少し後始末。執行部の連中も居残った。川端、金森、塚本との4人で走りまわり、やっと蛇の目で矢津、大田、今村各氏を見つける。20人以上いたのだろうか。10時30分ごろで、ブラブラいくと蛇の目長町店で山田、牧野、間所、宇野、増田、高村、坂尻氏ら……。金森と2人でのりこむ。そこもやがてで、エンゼルの前で川端、正、塚本と一緒に間所氏らを追う。矢津氏についていたのだが、間所、坂尻、宇野氏たちがサントリーケラーにいたためにのりかえ。川端と2人でいった。そこを2時すぎにでて広小路のオールナイトの喫茶へ。そこで6時30分までいた。のこっていたのは宇野、川端、林、井上敏、紺矢、小間、山田和。そして、宇野、井上、川端、小間、山田和とともに内灘へゆく。ねむいねむい、サッカーしたり。家へ帰ってきたのは11時前。大門、見越、奈良、大笠等がよく見えた。

\*ネクタイは同じ下宿の連れから借りていったとしている。今読み返してみると、漠然とはあるが、こういう状況で確かに朝早く内灘へいった記憶が舞い戻るようです。

1/24(水) 午後は例によってさぼる。ホリイケへ行く。ウィンパーの伝票と新2トレでウィンパーを借りられるかどうかを聞く。6時すぎより2年Meeting。コースを決定。自信はまるっきりない。

1/25(木) L会出席。2年のP.L.敗北。昨日のMeetingがいかに感情的であり、弱いものであったか痛感した。コースに関して特にそうであった。Leaderという立場を考えてみるに、俺だけの力でどこまでやれるかである。コースの変更もありうる。

\*諸先輩方を前にL会では十分脅かされるのであろう。



1/27~28 Meetingで少し事務的なことを決定。夜、辻田と田中の3人で飲み歩き。P.M. 11:45 at しの A.M. 2:00 at サントリーケラー A.M. 3:30 at マリアヌ→くわせものである。在金全部はたいて逃げ出してきた。

\*この新2トレに関するMeetingは初めて自分もったもので、前日には何を決めたらよいかなどと書いている。辻田、田中は虎姫高校出身。

1/29(月) もうクラブしかないのか。5:00よりMeeting。4人しか集まらず。井上が吐きやがって貧血まで起こした。その後、2年Meeting。コース再検討。その他Meetingのことや、沈殿日のこと。英が乗せてくれた。同乗者、立浪、亀田。明日、川端と英に見上まで行ってもらおう。

1 / 30 (火) 午前中は寝ていた。5 : 30 ごろより Meeting。2年は俺だけというまことにいかなものであった。珈琲館でもふり会の話聞く。春山の事である。テストを2日後に控えているのに、こんなにのんびりしてよいのだろうか。春山の attack point は御前峰らしい。大汝でよいという声もあるらしい。

2 / 1 (木) 果たしてできず、電磁気。即L会へ。最初、春山の事。大汝か御前峰か。結論せず。その次やっと新2トレ。腹は減る減る。頭に来る。家へ帰ってきたら12時前である。

2 / 3 (土) 授業はでなかった。生協で散髪。1時30分ごろ橋場行きバスに乗る。総会の場のB8まで2人で行った。総会では春山がもめた。御前峰か大汝か。Leader会へさしもどしということになった。総会の後、partyのMeetingを珈琲館でやった。

2 / 12 (月) ぼやっとしているうちにもはや12日。まず新2トレの偵察が大きく控え、その後工数試験。ほんとうに不安だ。忙しい時かとも思う。昨日は白山大縦走P.W.に名を記したが、今日消してきた。山小屋作業でもやろうかと思うのである。珈琲館でpartyのMeetingと4月のP.W.のMeetingをやった。

\*この間も当然ながらトレーニング、2年Meeting、L会、虎高追コンや弟が訪ねて来たりで忙しい。

2 / 13 (火) 例によって部室へ。しかし誰もいない。5時すぎにはどっと押し寄せてきたが・・・宇野氏の話によると今のP.W.は少々やりすぎだという。ほとんどが春山経験者に限定される。別山、白山大縦走、大笠・笈、白山しょうよう・・・面子をみってみるとほとんど同じ奴等。ああ、そうだなあと俺も感じた。皆が行けるところもやりゃなあかん。俺はまあ5月には山小屋でもゆく。新道の整備でもやるぞと思っている。ということ西村さんにもらした。一度もらすともう後へはひけないであろう。6時ごろより珈琲館でシモフリ会の話聞く。現在の状態では春山も規模を縮小しなくてはなるまい。最近のクラブ活動はなにか盛り上がりがないのではないか。新2トレもなにかバラバラ。春山なんてのはほとんど意識されていないではなかろうか。

\*5月に山小屋へいったかは後の楽しみ。

2 / 15 (木) 一日中のどかな日であった。L会に出席するつもりはなかったが、俺を混ぜて人数がわずかの6人。ミカドで開かれていた。いまなお春山はもめる。現在の状態では4PARTYは確実。昨年のような形態にはすまいとして、いろいろ問題がでてくる。明日は偵察のためいろいろと準備しなければならぬだろう。それにアイゼンの件でホリイケまで行かねばならない。クラブで3台、坂尻氏と中野、それに破廉恥にも俺の分も、計6台注文する。

\*どうい内容か思い出もしないが、春山というのはよほどもめていたようですね。

2 / 16 (金) 午後ホリイケへ行く。アイゼンの話。taniの10本爪6つ。アイゼンなんか買う必要無いのであろうか。6800円也。しかしカッコイイからな。ところがアイゼンはいてチョンボやっても破廉恥だからなあ。まあ、あまり使用する品じゃない。もったいないという気もする。あす偵察。工学部前から乗る。食料は井上にまかした。考えてみれば面倒くさい話だ。

\*アイゼンは何回使用したか記憶にもないが、今でも朱色の極彩色のまま手元にある。

2 / 17 (土) 8 : 38 工学部前、9 : 10 芝原、10 : 10 栃尾・・・夏道の取っつきmiss。少しもどる。612Pより続くpeakへ直登。12 : 00 peak着。登り切ってみるとひどいbush。沢に行く方がよいかと思って下る。沢は当然だめであった。13 : 00 下山決定。一応見上へ行き、時間があれば夕霧まで行くことにした。折谷でちょうど金森、山内が帰るのにでくわし、ザックだけ運んでもらう。見上着15 : 00。しかし林道はラッセルの必要あり。完全に下山と決定。金森は14個のわかんたザックを積んで帰る。医王口までトラックに乗せてもらう。部室着16 : 55。ちょうど雨が降り出す。しかし今日はしんどかった。road、roadである。井上と珈琲館で8時すぎまでぼんやりしていた。中野と小林は夕霧まで行ったのであろうか。ほんとうに今日はもう行く気はしなかった。bush、bush・・・726もまだまだ、

まして奥医王、夕霧なんてとうてい無理と思った。

\* 医王山に関するいくつかの地名も今となってはほとんど位置関係わからず。

2/20(火) 今日で一応実験は終了した。6時ごろ中野宅へ行く。8時前から2年 Meeting。なんと貧弱なる参加、9名。新2トレのコース変更に関しての話。再偵察の必要があるのだろうか。

2/24(土) 非常に寒い一日。昨日は2年 Meeting を中野宅でやり、その後、中野、川端、田中正、山内、小林とで飲みに行く。そして再び中野宅へ帰り、麻雀を少しやり2時すぎにブラブラ帰ってきた。本日12時起床。即クラブへ。トレーニングと Meeting。俺の Party もかなりまあまあだし、一年の各自の体調もよさそう。明日は偵察に行こうかとも思っていたのだが天気も悪そうだしやめよう。本番ではいささか不安であるが。雪の降ることを祈る。

\* 次の日にコース変更後の再偵察に行った人に会ったりして、自分は無責任かなどと書いている。

2/26(月) 10時の買い出しが11時すぎになってしまった。昼飯も食わず、4時すぎに packing 完了。その後簡単な Meeting をやる。P. L. が主に集まったの話は6時前から始まった。气象台に電話をかけた結果、明日はほぼ突撃に固まった。俺達は公園下7:09発、朝6時30分に部室集合である。2、3日前から体調がかんばしくない。便通が悪いし、今日の packing の時も全身がだるかった。明日は5時30分ごろ起きなくてはならない。

\* Leader としての初仕事に非常に神経質になっていたものと思われる。

2/27~3/1 新2トレ 4班 Member 井上敏、吉田、能美、堂野、山田

\* 2泊3日、折谷から二俣のコースで725付近と夕霧峠で各1泊。初日、725ピークを間違えたとしているが、その他については Leader として何とかやれたと書いてあった。

3/2(金) 反省会 at 新堅公民館。その後・・・俺と塚本、清水啓が組む。広小路の茶店へ行くと井上と北川がいた。一年は6人。まず茂六へ。12,500円也。その後オリンピアへ。山田をのぞいて一年生を帰した。そしてサントリーケラーへ。虎姫のボトル No. 86と水割りやつまみ2,250円。俺はフラフラになりタクシーで一人帰ってきた。さてもう一方では中野ががんばって一本以上出したそうだ。川端は早く逃げたらしい。

3/3 本日は10時よりL会。L会終了後、間所氏にお供したが敗北。今日は下宿の先輩のお別れ式である。みるまに金がなくなった。35,000→20,000。下宿のおばさんに1,000円貸した。

3/5(月) 午後、少しばかり波に乗ってきたと思いきや、突然の川端の来訪。他人の家に泊まったらしくギターをもってきた。3時30分ごろまで弾いたり、話をしたり。4時頃部室へ。A隊トレーニング。ああ、きつい。さすが坂尻氏。目がまわってしまった。珈琲館で一年生と少し話をして帰る。外は猛吹雪。3月に入ってからより一層厳しい。まさに暖冬春寒である。8日から test。入試は終了、いいなあ。

3/15(木) 春山トレーニング。アイゼンの練習もやる。家へ帰ると驚き。峯生参上! 話を聞いてびっくり。一年間休学だそう。日本中をまわるらしい。まず俺の下宿に20日間もしくはそれ以上いて、金をためるらしい。合宿委員会があったので俺はまた出かけたが、信濃で11時ごろまちあわせてかなり飲んだ。

\* 峯生というのは清水峯生(しみずみねお)君のことで隣村の幼なじみで、このときは鳥取大学の教育学部の学生。私の下宿へ飯代だけ払ってバイトしながら4月上旬くらいまでいたようだ。3/17には入試の発表もあり母校からは9名の合格らしいと書いている。

3/31(土) 73 春山準合宿 3/21~3/30 A隊  
P. L. 坂尻、三宅(3)、金森(2)、松岡(1)、川村(1)

なんともはや定義のしにくい春山であった。ほんとうに残念、アタックできなかったことは。しかし、降雪による驚き。天気変化の激しいこと。また沈殿のときのポーカの楽しかったこと。冬山や厳冬期としては最大のものとなろう。今日は反省会あり。ひとつもおもしろくなかった。その後、P. W. の簡単な Meet ing。風邪のためかもうフラフラである。

\* 出発前にも鼻がつまってしまうと記している。3 / 25 に最高到達地点のシゲジ壁直下で降雪のため沈殿。3 / 26 は同地点より腰まであるいはそれ以上のラッセルでC2 からC、D 隊のラッセル救助をおおぎC2 までバック。3 / 27 は快晴沈殿。3 / 28 は春一番で沈殿。3 / 29 は大雨でズブ濡れでB. H. まで下山している。あれだけもめた春山もアタックに関しては御前峰アタックとなっていた。

以上、大学2年生もちょうど終わり。かなり抜粋したつもりですがこの分量となりました。読者の方はもう飽き飽きされていらっしゃると思いますし、今後の読者数の減少も十分予想されますが、このままでは中途半端ですのでさらにリーダー篇として継続させていただきます。



#### リーダー篇 (昭和48. 4~49. 3)

4 / 4 ~ 4 / 8 (日) 4月4日、峯生に野町までb y c y c l eで乗せてもらってP. W. へ。快晴、快晴、大成功のP. W. 。

Member L. 金森、三宅(4)、塚本(3)、吉田(2)、井上(2) 筈へ2度目。しかし、暑かった。すばらしいP. W. だった。疲労度もはげしい。中宮から白山下まで歩いたのはきつかった。野町駅前まで高村氏も交えて一杯。明日、反省会。

\* 春山準合宿を終えて体調悪しといいながら、すぐに出かけるのだから元気なものです。確かに春山を楽しめたと、おぼろげながら今でも実感します。工学部近くから野町まで自転車では結構かかるだろう。

5 / 13 (日) 昨日、クラブの総会が少し早く終わったので、中野、川端、小林の4人でブラブラと犀川沿いへビールをかついで真っ昼間から出かけた。4人ともいい気分になっていたようである。11時すぎに高山氏と中野宅へ面子を求めて行き、12時から4時30分まで麻雀。そして中野と松平を送って5時30分就寝。

\* 4 / 11 に日記帳切れ、この日まで記載なし。この日記帳の初めの信条の所に、今年はクラブの実際の指導者であり、勉強とともに頑張らねばならないとしている。中堅篇の2 / 13 のところで5月に山小屋へ行ったかは後の楽しみと書いておいたが、日記帳切れで空白部分となってしまった。アルバムにも記述なくどこへも行かなかったのか。

5 / 15 (火) 5時30分よりトレーニング。8時ごろよりL会。帰ってきたのが10時30分。こんな生活は頭に来るのであった、少なくとも昔の俺には。最近では寝付きが悪い。4時ごろしか寝られないようだ。朝は早くても9時。30分も早く起きれば飯も食えるのであるが。

5 / 16 (水) 来週の水曜日には犀川ダムまでハイキングがあるらしい。月曜日に帰ってまた行くのか。来週はスケジュールが一杯だ。2、3年ミーティング、合宿委員会、L会、P審・・・そしてその後にはコンパ(?)、合宿結団式、果ては合宿トレ、合宿・・・なかなか忙しい。

\* ハイキングとは何だったのか、水曜日は珍しくデートしているようです。

5 / 19 (土) ~ 21 (月) '73 新トレ 6班。Members (4) 奥名、西村、(3) 立浪、(2) 小間、堂野、(1) 横山、七間、黒田



新道取っ付きにて。  
こういう所でも  
「設営練習」をさ  
せたんですね、あ  
の頃は。もちろん  
三角テント。

新トレも終わった。少なくとも俺の雰囲気は1、2年の間に伝わる。マイペースでやったまでだが。感じたことは一杯あるが書く気はしない。Leaderとしてにやにやしすぎではなかったろうか。午後は授業に出た。電磁気演習は7時まで、頭に来る。

\*倉谷手前吊り橋の上でのパーティの写像があるが、やはりニヤニヤしているようです。その下に、厳しく、楽しく、けじめをつけると私の方針らしきものを書いている。

5/23(水) 20時には合宿委員会は始まっていたらうか。俺の合宿コースはしんどい模様。いろいろもめて井上(敏)と一緒に行くことになった。井上と亀田がじゃんけんしたのであった。

5/24(木) 昼少し前に起きる。そして少し勉強し、5時前に部室へ行く。L会は18:00に開始。だらだらとくだらん話をして21:45終了。明日もコースの説明会などある。めんどうといえはそれまでである。しかし今めんどうといっは救われぬ。

5/30(水) L会に出席。合宿のコースをもう少し楽にせよとのこと。明日は開学記念日で休み。登山靴の修理に額団地までいってくるかな。L会終了後、宇野、間所氏としなのへ行った。

5/31(木) 額住宅まで高い金を使って行ったが、目標の店はなくがっくり来た。こうなったらしかたがない、ホリイケしかないのか。とうとう5月も終わったか。

\*額団地とは誰からの情報だったのだろう。

6/7(木) L会出席。今後のL会審議内容をみても毎週せっぱつまってしんどい。なぜあれほどまでにとも考える。下宿で飯を食っていると、顔が小さくなったとかいわれた。疲労気味のせいであろうか。頭はぼうっとするし・・・。

6/9(土) 総会の後、結団式。俺のパーティは男ばかりであるし、酒豪も多そうでひどく乱れ狂ったよう。旧生協においては8時に終わった。そしてエリーへ行く。そこで事務的な話をし、次にしなのへ。茂良、徹、敏明、奥名、松岡、そして後に特別参加として中野、亀田、長田、小間。午前1時ごろ出たのであろうか。中野、敏明、松岡は俺の下宿へ来て6時まで麻雀。昨晚、最も悪のりを呈していたと思われるのが奥名氏、ついで徹かな。

\*男ばかりのほうが気がらくなどとやせがまん。

6/12(火) 5人の名を載せてP. W. のピラを出す。5時すぎよりトレーニング。別にたいしたことはやっていないのに非常に疲れたような気がした。その後ミーティング。俺のパーティは早く終わった。いや、おれの頭脳から言っ、もう話が續かない

のである。

\* P. W. とは南ア北部でコースは昨年と同様で雪辱戦。ほかの P. W. でもそうだったのだろうが2ヶ月半後のことだが結構早くから動いていたのですね。

6/14(木) 昨晩はL会及び白山北部主稜についての各大学に対する回答などで寝たのが5時。寝付いたのが7時で、当然午前中はサボ。午後部室へコピー原紙に書くために行く。5時30分よりトレーニング。

6/16~17(日) 第1回合宿トレ、於医王山、Member 井上敏明(3)、井上徹、堂野外巳明、松岡創(2)、井上茂良、七間一誠、田辺隆一、山村直嘉(1) 合宿トレにしては楽すぎた感じもしないでもない。1年は期待できそう。

\* もはやLeaderが務まるかなどという懸念や不安は全くなくなったのだろうか。

6/18(月) 昼すぎ部室へ行く。懐かしの白山-BHP. W. 写真あり。

\* 写真の現像を半年かけてやってもらったのだろうか。

6/22(金) 実験を終えて部室へ。P審である。たった3人。8時すぎ終了。久しぶりに早く帰る。明日はソフトボール大会。

\* P審もメンバー不足で流会など結構ある。



6/23(土) ソフトボール大会は期待に反し3位となった。非常に疲れた。敏明宅で9時前より酒宴。12時すぎよりしなのへ。新潟大の医学部の連中とかなり親密にやる。増田、井上(敏)、(徹)、(茂)、松岡の面子。

6/27、28(木) L会。試験前夜! 11時すぎに帰る。そして少し勉強をして寝る。2時30分。朝8時50分起床。間所氏宅へ起こそうと思って行っただが、もう学校の模様。3問が確実に解けたと思う。もう今日は授業やる気なし。実験のレポートは書かなければならないし、P審もあるし。P審は19時30分開始、終了29日午前0時30分。南ア北部P. W. はやけにすんなり通った。井上(敏)にバイクにのせてもらい裏道より帰る。ありがとうよ。レポートを少しまとめたが、考察がまるっきりわからず。

6/29(金) パッキング終了6時すぎ。そして臨時L会。事故対策を残して、10時20分ごろ終わる。明日合宿トレ、いやな雨である。

6/30~7/1(日) 第2回合宿トレ、重量トレ、Member 敏明、徹、堂の、茂良、田辺、七間、山村。1年生の力強さ、かなり安心する。帰って来た日、しなの一杯やる。あまり酔わなかったのが不思議。

7/2(火) 部室へ5時30分ごろ行く。OPENのミーティングらしきものがある。チーフリーダーなんて信じられぬ。その後中野宅で合宿委員会、終了10時30分。

\* 今でもそうかもしれないが、おだてられるとすぐその気になる性格のようです。

7/5(木) 5時30分よりトレーニング。増田氏初参加。相当ばて気味。途中でコーラを皆にいただく。その後ミーティングでミカドへ。あと一週間で白山、合宿もほんとうにもうすぐである。気を抜いてはいけない時である。

\* この日、日本海博の前売り券を云々としている。

7/6(金) P審8時すぎに終了。川端、北川、塚本、敏明とでミカドへ。話は思わぬ方向へすすみ、しなのへ川端、塚本、敏明とで行く。最初一人頭500円のところが、敏明が持っているというのでドンドン行く。2年ミーティングの帰る途中の連中とぼったり。松岡、徹、川村、杉本、吉田、山田。盛大に飲んだ。6700円。川端が俺の部屋で泊まり。

\* 盛大に飲んで6700円だったのだろうか。翌日は午後オープン説明を開き、6~7人くらいだったこと、その後総会、またオープンのパーティ分けがあったと書いてある。

7/9 (月) 試験終了後、L会へ。開会遅くなる。合宿の食料がすんで、オープンの話。各P、L、が集まった。L会は11時30分ごろ終わる。間所、宇野氏とともに、またもや、しなのへ。2000円ばかり払われた。金が全然ない。

7/11 (水) P. M. 8時30分より俺の下宿で一応、事故対策の話。出席者、田、奥名、松岡、徹、敏明、堂野、特別参加間所。その後麻雀、12日A. M. 3時まで。

\*事故対策なる話は2年、3年、4年でやっていたのだろうか。10日は合宿委員会でその後飲んだりして、11日の午前4時ごろより中野宅で数人が寝ている。12日は買い出し、パッキング。我々パーティは13日午前5時20分金沢駅出発、他の6パーティは7時に学校を出発の予定としている。

7/13~16 (日) 白山合宿トレ 「裏等」 Members 増田、井上(敏)、井上(徹)、堂野、松岡、井上(茂)、七間、山村

1日目 坂尻氏見送り、金沢駅5:20発、鳩ヶ湯着9:20。大野から福井大学W. V. と一緒にいる。これ以降南龍までの行程は全く同じ。鳩ヶ湯から歩き出す。ひどい暑さ。下小池、上小池をすぎ、急登にかかったところで松岡めまい。1時間ほどロス。その地点より約5分でT. S. だったので助かった。みんなバテバテの一日だった。

2日目 六本槍まで楽勝に行く。1481P、1671Pをすぎて行く。1700チョットの地点でまたもや松岡めまい。1時間ロス。ザックを軽くして行かせる。三ノ峰の小屋にやっと着く。雪渓で少し遊ぶ。川端たちは行ったのだろうかなどと思っていた。そして三ノ峰に登り御手洗池で休憩。次は別山をねらうが、七間バテバテ。思い切って登らせる。ピークでのたる。それから2Pで南龍。全パーティ来ている。ラストであった。

3日目 御前峰周辺ワンデリング。4日目 砂防~金沢。  
16日の夜は沈床園で飲む。川端、中野、敏明、山上、北川、渡辺、小間、小島、大森、宇野、藤野、藤井、徹、川村。川端、大森と3人で部屋泊まり。

\*松岡君はよほど体調がすぐれなかったようです。私も初日は休憩の都度、いぬむりをしていたようです。ここで初めてパーティ名を記しているが、もっと早くに決まっているのではなからうか。

8/2 (木) 7/31に夏合宿終了。悪天を予想して種池をカットした。塚本たちも一緒に汽車だった。中野たちとは折立、太郎、雲で会った。金森たちとも雲、烏帽子で一緒。Leaderとして行った合宿。歌は一度も歌わなかった。1、2年はどう受け止めたのであろう。烏帽子で台風が天気図上にあった。翌日は船窪までの一番疲れるだろうコース。午前中はずっと感じ行動した。それは正解であった。2459Pで道がわからなくなった。ガスと雨。自分でも以外なほど冷静であった。30分ほど道を捜した。あと60分2ピッチで到着した。針ノ木から下山した。朝、青空が見えていた。不安になった。下山を開始した時から小雨が降り出した。雨が降ってほっとする。

Leaderとしてはどうだったのだろうか。思い返せば牧野氏、間所氏ともに立派であったと思う。俺なんてのは馬鹿なことばかり言っていたような気がしてならない。

皆よく働いてくれた。協力してくれた。各Memberに感謝したい。奥名氏も直前に我がpartyに入った。しかし中野のところの松林氏が参加できなくなったので、そちらにまわってもらった。「裏等」増田(4)、井上(敏)(3)、井上(徹)、堂野、松岡(2)、井上(茂)、七間、田辺、山村(1)

また、いかに月日のたつのが早いか。合宿を終わってみて、3年生は山場を越したような感じではなからうか。やはり疲労感というものをいつもよりは強く感じずにはいられなかった。

\*合宿終了後2日おいてただ一人下宿に居て考えたことを記したとなっており、コース選択理由やコースの概要などについても含み実際は約10頁以上にわたっている。どういう状況だったのか、中野のパーティに先に水晶岳に登られたことについて、理性を失い、彼らに当たりちらしたとか、俺だったら一応高原に入ったであろうなどと、恥ずかしながら子供のような言動も記録されている。歌については嫌いではありません。たぶん他の話題で事欠かなかったのでしょう。又、一日の食費を200円以下に押さえたのは立派、食カンの中は米しかなかったともしている。

8/5 3時前、駅へ行く。まず敏明たちの飯豊、その次啓紀の後立、その次北川たちの北アルプスと暇をもてあまし見送った。驚くことに間所氏も来ていた。彼は6時前には野町へ行き、白山を見送っていた。その後中野宅へ行き寝て、下宿へ帰ってきたのがP. M. 6時前。中野は本日帰省予定。あーあ、皆出払ってしまった。3年生で休ん

でいるのは中野と金森と俺くらいだ。現在のところ40名以上は出てしまっている。なんとなく考えようによっては寂しい。

\*合宿後ほんの数日でみんな出かけて元気なものだったんですね。当方も7日から12日まで帰省。

8/13(月) 午後2時30分から5時30分まで営林署のおっちゃんと内川ダム上流へ下見に行く。オロロもいて暑そう。8月下旬にバイトすることに決定。気楽なおっちゃんて帰りにビール1本酒屋で飲んだ。18時45分、部室で川端に会う。ミカドへ。少しバイトの話をする。

\*おっちゃんの名前は忘れてしまったが顔つきなどは今もおぼろげながら浮かぶ。

8/15(水) 部室へ1時30分ごろ行く。例によって一人。落書き帳を見てがっくり。バイトの奴等昨日6時50分に帰ってきたそう。もう少しほんの20分ほど待てばよかったのだ。川端から電話があったと聞いたので、かけてみると暇だからかけたそうだ。彼はあさってから白山へ行く。いきたくないそうだが。今日は父の誕生日だ。48か49である。

\*このバイトとは白山でのバイトだろう。現在、もはやこの時の父親の年齢に近づいてしまった。父親と比べればなんと未熟なことか。翌16日は一転して部室が超満員としている。



8/18(土) P. M. 9時45分。駅前シネマで一夜をあかすため出発する。明日は塩川か。帰沢は25日の予定。

\*オールナイト営業は何時までだったのだろうか。

8/27(月) 南ア北部 P. W.

Members 大田、塚本、亀田、大森、恵比寿、七間、尾崎  
今回は非常に不調、精神的にも肉体的にも。飯が食えなかった。塩見、西農鳥、農鳥、間ノ岳、中白根、北岳と3000m級はよく走破した。だが北岳小屋においては天候の悪化と病人の発生により2日間の沈殿を強いられ、下山の日もズブ濡れで、ちょうどバスが来てくれて、金沢へ夜の11時すぎに着けたのであった。今回、非常に騒々しいP. W. であった。面子を見れば想像されうであろう。俺はただ一人テントの隅でタバコをすっていた。ますます自分が疲れてきているように思う。本当に腰周辺が痛い。寝られない時があったほどである。背骨もいたい感じがするし、このままやっていて大丈夫なのだろうか。バイトのための買い出しをやった。しかし、営林署の都合が悪く一日延期。川端と二人で間所氏宅へうかがう。勉強中であった。

\*昨年のP. W. の雪辱戦である。旧メンバーは3名。タイムリミットで下山、ぬるぬる滑る下りを2ピッチで飛ばし飛ばしと書いている。よほど疲れていたのだろうか。

8/31(金) バイトは大洪水のなかで行われた。本当に鉄砲水というのか、水の中にテントがあるようなもの。30日に帰ってくる。営林署のオッチャンと若葉へ。その次ブラウンへ。川端と二人で帰る。途中、若竹寮へよる。驚くなかれ、2年のアホと宇野氏とまじえて大酒宴が始まっていた。泊ってかえる。

\*内川ダム付近での草刈りだろう。昼間は川の中で手掴みで大きな岩魚が数匹とれ、焼いて食べたことから、その崇りで夜中に大雨となり危うく流されそうになったと後で話したものだ。

9/4 3日は買い出し。夜、敏明宅へ川端、金森とともに行き、一杯飲む。6時29分ポッカ隊出発。部室にてOPENの仕事やる。6時ごろLeaderにTELする。明日、6時に集まってくれるように言う。今晚は部室に泊るつもり。

\*この文面からすると、オープン山行のため、4日の午前6時29分にポッカ隊が出発し、午後6時に各Leaderに5日の午前6時に集まってくれるように連絡しているようだ。

9/5~7 白山オープン登山、チーフリーダーとして参加。中野、金森、北川、

亀田、宇野をリーダーとする5パーティで一般20名、部員24名の大所帯。天気はぐずつき気味。しかしワンデリングとファイヤはどうか無事終了。あられも降る天気であった。7日に帰ってきた。グラウンドで大ナベで3杯ほど水をかけられた。終わって誰も俺に言ってくれなかった。「ごくろうさん」の一言も。馬鹿な役をひきうけたのだろうか。今一番心配なこと、それは試験が近いこと。

\*白山でSHOWに出る前に、ポケット瓶1本薬に飲んでいったが、全然まわらず赤くなったとも書いている。誰も言ってくれなかったことはないでしょうね。

9/10(月) 夏休みもオーラスになった。この夏休みは充実していたか。思い出せば山へ行っているか、ポケットとすごしているかどちらかであった。夜、間所氏がくる。大学院は通るらしいとのこと。月日の流れのスピードに感嘆しているらしい。本当にそうだ。部長に就任してもう一年になろうとしているのだ。所信表明演説から約一年。冬山、春山、夏合宿と大きな行事があったが、それもすべて終了。10月からは、もはや俺達3年がやらねばならなくなる。明日から学校である。

9/11(火) 実験を適当に済ませ部室へ。何とたくさんのP.W.の掲示。しかし3年生は活動していない。俺もどうしようかと思う。

9/14(金) 川端とともに営林署へ行く。手取り7058円也。3年コンパはなし。

\*お役所のせいかバイト代の支払もけっこう遅かったのだろうか。

9/19(水) P審。馬鹿らしくも終了が20日午前0時すぎ。坂尻、増田氏らと食事を取り、バイクに3人乗りで坂尻氏の下宿へ。そこで3杯ほど冷や酒を飲む。そして帰りがけに辻田の所へ寄り、車で香林坊へでる。家まで送ってもらう。5時前。

\*3人うまく乗れたのだろうか。たしかシルバー風のバイクではなかったでしょうか。この週も過密スケジュールで、17日P審、18日9月総会、21日またもやP審となっている。

9/22(土) 山内宅で合宿委員会。部長は川端と決定。10月8日にミーティングをやって、その後合宿委員会解散コンパなるものを催すらしい。川端が俺に言った。副部长たのむ・・・。なんとか執行部で力を合わせていけば義務は果たせるであろう。

\*大体は頼まれると断れない性格である。

9/23(日) 午前11時ごろよりP審。  
ほんとうによくやるよ。しかし、1年にわたって参加してきたP審。ここで審議は終了した。あとは報告だけとなった。



\*日曜も祝日も当然ながら関係ないのですね。

9/26(水) 電気回路の試験。2年生と一緒に受ける。できたようでできていない。できていないようでできている。そんな感じ。

10/1(月) 午前11時、珍しく宇野氏に起こされた。電気機器のことでの話である。マウンテンでコーヒーをいただく。夜、塚本よりTELあり。そういえば、はじめてP.W.の連絡先に指名されているのだ。明日出発して5日に帰る予定らしい。

\*宇野氏へは私から試験の情報を提供していたのだろうか。このP.W.は尾添尾根か？

10/2(火) 夜、7時ごろ間所氏が来て、梨と栗をいただく。坂尻氏と共にハツ岳P.W.の見送りに行くそうである。早く試験終わらないか。あと、水、木、金、土である。

10/3(水) 6時30分ごろ帰ってくると、玄関に汚らしいズックがあった。川端だと思った。やはりそうであった。冬山や春山の話少ししていった。2人で一応、L会、P審、各係等の面子の振り分けなるものを考えてみた。川端は確かに考えている。俺は思考力が弱いのだろうか。申し訳ない。彼は明日より山小屋作業へ行く。

10/8 3時すぎ部室へ。3年ミーティング開催されたのが山内宅で4時すぎ。冬山の話とか方針とかでもめて途中で夕食をとり、終了が9時すぎだったろうか。執行部で考えなおしてある。その後、川端、金森、中野、敏明、小林、山内、亀田とで香林坊へ。適当な場所がないから結局しなのへ。皆、俺の下宿へ来ることになった。中野、山内、小林、敏明は朝まで麻雀やとった。あとの4人はおとなしく寝た。

10/12~13 執行部集合。川端宅へ。いろいろ考え、山内を交えて5人にする。山内宅へ。間所氏宅へ行くつもりで小立野へ。間所氏不在。俺の部屋で話す。12時過ぎまで。冬山自由参加、スキー準合宿。春山準合宿とスキー、そしてP.W. とのかねあい。・・・話はまとまらず。15日P.M. 1時部室集合。

\*毎年、もめる内容は大体同じようなものだったのだろうか。しかし、場所をいろいろ変えてやっていたのですな。

10/20(土) 昨日は最終P審。驚くなかれ終了が午前3時。それから香林坊の宇宙軒で飲む。朝6時30分帰る。午後1時30分に起きて学校へ。総会である。副将となる。総会は6時30分終了。

\*報告だけのP審のはずだが長くかかっているようだ。

10/22(月) 山内宅で新執行部の密談。木曜日が年間方針発表である。例によって帰宅は23日午前2時すぎ。少し英語やる。午前4時眠る。

10/25(木) 総会あり。9時30分ごろ終了。川端が結構うまくやったし、質問もそう手厳しいものはでなかった。前執行部の人々の最後の一言はそれぞれ味があり、しみじみと聴いた。これから執行部でやっていくうれしさと憂慮が交叉している。現在、これでよいのかと思うくらい話し合い等がない。

10/29~30 L会へ8時すぎより歩いていく。15周年の話などをやっていた。10時30分ごろ終了。その後、間所、高村、石田、山内、井上(茂)、横山、坂井とで若葉へ。1万3000円だったろうか。その後我が家で麻雀。下宿のみんなに迷惑かけたろう。15周年の話だが俺も参加すべきだろうか。総数70名以上にふくらんでいる。電磁気第2は不可であった。がっくり。明日は運動会、どうするか。

11/1(木) 4時半ごろ部室へ行った。15周年記念山行で盛況であった。そんな集団の中でぼつんと一人居た。最近では部室へ行くのにも億劫であるような気がする。増田氏と二人で話していた。今、自分がやる気ない、いやその任務の大きさに圧倒されて、身動きとれないようなことをつぶやいた。増田氏は慣れてしまえば・・・といていた。5時30分ごろから奥三方のミーティングがあった。メンバーは9名となった。内、女子3名である。その後、瑛りで川端、金森と3人で執行部の話。山内は15周年、中野は風邪で寝ていた。

\*断れなくて引き受けたものの、やはり神経質になっていたのだろうか。11/2は部室で写真展の手伝いをしたと書いている。

11/3(土) 朝10時30分ごろ突然父と母との訪問を受ける。手紙を出したそうだが届いていない、奇々怪々。まず本部へ。15周年を見送った。3人で兼六園~香林坊~武蔵ヶ辻~駅と約6時間かけて歩く。いろいろの話をしたが、感傷的になりすぎるので書かないでおこう。弟が金大へくのはほぼ確実か。今ごろベルクハイムでは各自が痴態をさらしているのであろうか。

\*後に15周年は前執行部が俺達に任せたものと、少々怒りを込めて書いている部分がある。

11/6(火) 6時ごろより電気科のコンパ。その後山内宅で執行部のミーティングのため向かった。途中で間所氏と電気課の男3人に会い、若葉へ。9時すぎ山内宅へ。不在。部室へ。不在。中野宅へ。不在。どこでやっているのだろうか。いやになって帰る。

\*かなりの距離を歩いて移動しているとすれば元気なものである。

11/7(水) 久しぶりの快晴のような気がする。青空の暗いほどの色彩が晩秋の山々を一層鮮やかに浮き出している。山へ行ってみたいとふと感じた。午後、実験はなか

った。家で寝て、風呂へ行ってからL会へのぞんだ。歓送は日帰りで医王山ということになった。そのチーフリーダー。冬合宿は奥三方周辺。そのChief Leaderもやらなければならないようである。忙しい感はまぬがれない。

11/8(木) 午前中サボる。午後川端と香林坊をぶらついてた。5時30分より第1回P審。初冬白山などは何を言ってよいやらさっぱりであった。

11/13(火) 執行部でのミーティング、珈琲館にて。11時になって閉店締め出し。中止にする。冬山のことを金森、中野と授業中話すことにして……。山内と帰りにしなのへ寄った。帰ったのが2時すぎ。歓送のことやらで眠られず……。

11/14(水) 1限目からしんどくも出席。2限目、金森、中野と話。そして部室へ。帰ってきて実験。すぐにL会へ。このL会が予算……。歓送……。等でもめて、終わったのが木曜午前3時。2年生とタクシーで帰る。

\*授業中にどの程度の打ち合わせができたのだろうか。本部と工学部を行き来して精力的にやっているようだ。さすが疲れてタクシーを使ったか。

11/15(木) 11時30分、学生部へ行く。他の4名はすでに出席。———この4日間ほんとうに疲れた。体のあちこちが痛い。明日、L会、次日、総会、……。歓送と。

11/16(金) 一限目サボる、製図というのに。L会開催。帰ってきたのが11時20分である。冬合宿についてもめた。スキーとのかねあいである。春山も昨年ほどの規模は無理であろう。

\*本当に午前中から夜中までやっていたのだろうか。例によってもめるシーズンの始まりか。

11/17(土) 総会は6時すぎ終了。俺はあくせく働いた。7時20分ごろより旧生協で歓送宴会。9時すぎ解散したらしい。いつもよりひどく酔っていた。階段で尻を打っていたい。南保氏、吉田にかかえられてオリンピアへ。川端、中野、高村氏、松下氏、鈴木氏も一緒だった。着くと坂尻氏、宇野氏その他大勢がいたと思う。すぐに寝た。11時前に出され川端、中野に送ってもらってタクシーで下宿へ。2人はしなのへ行った。

\*15日はわからないが、16、17日は雨マークを書いているので、天気具合で歓送登山は宴会になったのか。



11/19(月) 寒い一日であった。トレーニングやる。火曜日はL会。水曜P審。木曜偵察。金、土、日はP. W.。発狂の日程である。

\*実際には偵察は中止となり、奥三方P. W. は口三方(一泊二日)をめざすことになった。又、12月6日、13日には大事な追試が実施されることになり、荒島岳P. W. はリーダー自身から止めたとしている。

11/23 口三方P. W. Member L. 金森(3)、川村、山田(2)、横山、横井、津島、浜、桜井(1) 9:00公園下発。959の次のピークまで行く。冬山の偵察をかねていた。大快晴に恵まれる。内尾の小学校に一泊。かなりしんどいコース。しかしリーダーを開放されてかなり悪乗りしたようでもある。

11/24 午後7時30分帰る。その後、金森、川村、山田で若葉、菊へ。どういうわけか菊で映画の前売券を2枚買った。

\*短いP. W. だったが非常に楽しかった。雪もかなりあり冬を迎える前のつかの間の快晴に恵まれたとアルバムにも書いてある。しかし、手元の写真では白い歯を出していないのは私だけである。

11/27(火) 珍しくまじめに授業に出席。終わってすぐ部室へ。蛍光灯がこわれたらしく、ローソクがともっていた。川端と冬山の話をしよとしたが、別にやらなかつ

た。啓紀と山田がOBの話で茶店へ行ったので俺も行った。

\*ワングルだからローソクには事欠かなかったでしょう。

11/30(金) 冬合宿全体ミーティング。C.L.は自分であるが、夏合宿終わってみるとLeaderと名のつくプライドも、厳格さも、緻密さも、またその名に基づく恐怖も何もあったものでない。

12/1(土) 総会。3時ごろ終了。川端、金森、そして宇野氏とバロンへ。

12/3(月) B隊のトレーニングやる。川端と山内と清水とで茶店へ。最近の部の感想めいたものを話す。9時前に間所氏宅へ。電磁気の本を貸してもらう。

12/7(金) 大雪の模様である。荒島岳の連中、どうなっているのやら。

\*私はすでに降りており、3年生はいないが相変わらず南保氏を中心に出かけたらしい。

12/8(土) 間所氏を十全病院前で見送った。雪が降っていた。その後、宇野、高村、井上敏の各氏とともにメンバーで積む。

12/10(月) トレーニング後、ミカドへ川端、中野、北川、清水と行く。冬合宿に関する話である。未知のコースに関する安全性等。俺がチーフとして何をやっているか。ただ名前だけいただいてぼけっとしている。結局、川端が鶴来のポリスと営林署へ行ってくれる。

\*この頃よりなぜか日記を書くのもサボりがちになってきている。馬鹿な私であるが、人並みに別れというものがあつたのだろうか。

12/30(日) 冬合宿修了。今年最後の行事。C.L.として参加。やっと終わってホットする。何もなかったことが、一番確実な安全であった。

B隊 清水(啓)、大家、山田、坂井、津島、岩本、吉岡 全くおもしろい奴ばかりで、始終笑いが絶えなかった。やっぱりやりとげたという気はある。冬山としては結構厳しくもあり、楽しいものであつたと思う。猛吹雪もうまい具合に一時的に止んでくれた。途中、一日だけ大快晴、なればうそだ。我が一年生のアホなこと。2年生も頑張っていた。明日、帰省する。のんびりしたい気でいっぱいだ。山にいる間は感じなかったが、現在ひどい睡魔におそわれている。部員みんな、それぞれ良い年を迎えてくれたまえ。これで1973年の書き収めか。

\*口三方で28日に沈殿している。29日に内尾のどこかで一泊(テントではない)し、30日に4ピッチで加賀一宮まで行ったとしている。

昭和49年(1974年)

1/10 11時、渡辺よりT.E.L.買い出し。P.W.行く気なし。日程、コースの変更となる。5時より冬合宿反省会。かなり厳しい意見もあつた。リーダー間、またメンバーの縦のコネクト等考えなければならないこともあつた。意外と楽であつたという声が多い。そして楽しめたという声も多い。あんなものと思うのが一番か。

1/12~14 白い高三郎を見るP.W.(成人式) L.川端、渡辺、恵比寿、鶴田、津島

\*何も感想は書いていない。

1/26 総会。その後追コン。at電々会館。1次会の後、増田、三宅、松縄、祖父江、松林、上馬各氏と3年は川端、金森、塚本、2年は渡辺、松岡、藤井、小間、杉本で田楽へ。3次会、川端、藤井、松岡で若葉へ。そこで無数の人と会う。4次会、間所氏宅。そして、増田、三宅氏、金森らも来たので、朝の6時まで俺の下宿で話しをした。現在の4年生とももうお別れか。しかし、金沢に残る人も多い。いやでも顔を会わずことができる。

1/28~29(火) 28日、朝起きて思った。春山の話のことを。中野と金森に連絡して部室へ。川端に珈琲館に來いと書き置き。金森の原案を採用。情報集めのため坂尻氏宅

へ。間所氏も来る。はじめ春山の話をしてしたが、そのうち酒を飲み始め、追コンの続き。朝の6時まで飲んだ。そしてそこで12時まで寝て、午後学校へ。春山もっと真剣にやらないあかん。

1 / 30 ~ 31 (木) 電気科3年 v s 看護科2年コンパ。いろいろと女性に声をかけてみるが・・・。夜10時から昼11時まで中野宅で積む。松岡、松平、伊豆、多賀、中野。帰ってきて寝てしまった。P審も行かなかった。

2 / 2 (土) 午後白山研のシンポ参加。その後、金森と談話。昨日執行部で話し合ったという。すまなかった。今回の春山聞いたところでは2年生が5名だという。3年生の参加も不定である。明日、川端とおち合う約束をした。

2 / 3 (日) 午後、川端と茶店で春山に関する話を少しする。同級生の協力の無さが一番問題になった。事実、俺も聞いて頭に来て、残念にも思った。P審でも一騒動あるような雰囲気である。俺のP. W. だれも乗ってくれないし、いや、1年生が多すぎてよわってしまう。P審もめんどろ。自分のP. W. おろして楽にするか。

\*この時期なぜか部活動はなげやりになっているようだ。

2 / 6 (水) L会出席。7時すぎに帰るつもりが10時30分になった。昨年の執行部よりもはるかにいい加減であることは、まあ目に写ってわかる。今の3年はそういう連中ばかりだ。中でもトップが自分であろうか。明日P審。試験も間近。

\*自分に当てはめて判断すると、B型人間は気乗りがしないことはあまりやらないが、一旦のめり込むととことんやるくせに、熱しやすく冷めやすいところがあり、どちらかといえば理論詰めには向かなくて感情、感覚で行動するところがある。執行部にはB型が3人いたはずだが・・・。

2 / 7 (木) P審。11時前修了。渡辺と川村と3人で若葉へ。新2トレ、春山など雑感を話す。12時30分、間所氏宅へ。大学院の話とか、一般的な生活感とかいつものように話しをする。昨日、今日とつぶれる。勉強しなくてはならない。

2 / 9 (土) 総会。4年生は今回をもって現役を去る。次の総会は新入生を交えて行われることになる。早いものである。春山の計画は承認されたものの、いろいろすっきりしなかった。瑛りでP. W. の Meeting をやり、その後執行部で話す。

2 / 13 (水) 本当に寒い天気である。昨晩は執行部でミーティング。若竹寮へ遊びにもいく。今日は午後麻雀。自分が馬鹿に見えるときもある。明日、数理統計の試験があるがなにもやらない。それに情報数学もあきらめムード。明日、P会に行かねばならない。

\*P審かP会か、両方の表現で書いている。

2 / 14 (木) 数理統計は破廉恥ながら悪戯を実施した。5時30分よりP会。いやなものである。しかし、2年生あたりにいろいろと思いつきを尋ねるのもおもしろいものだ。明日はP. W. のミーティング。土曜はP会と試験を前にしてかなり多忙である。最低75単位は確保したい。

\*別に下級生をいじめていたのではないだろうに。

2 / 26 (火) 23日情報数学やめる。24日夜、中野宅へ。少し勉強、半荘やる。信じられない。25日試験終わる。L会出席、その後しなのへ。3年、中野、川端、山内、2年、井上、渡辺、小間、松岡、川村、1万6000円。川端と中野宿泊。勉強すればよかったのに。26日、起きたのが午後4時。夜、テレビをみながら勉強する。

\*本試は終わったようだが、大事な追試が控えている模様。



2 / 28 (木) 昨晚、不安になってか中野宅へ。本日、電子回路第二。非常に優雅な雰囲気受験。まあまあ。夜、電話する。重文は旅館にとまるらしい。父に言う、一科目だけだめだと。

\* 重文とは弟のことで金大を受験した。よほど留年しそうだったのだろうか。

3 / 10 (日) 10日間いろいろあった。1日・・・?、2日・・・宇佐美氏と徹麻、3日・・・?、4日・・・徹麻、5日・・・徹麻、6日・・・P審、春山全体M、7日・・・徹麻、8日・・・映画、9日・・・帰省、10日・・・帰沢。重文の入試も終了した。

\* 10日間いろいろあったと書いているが、ほとんど麻雀か。宇佐美氏とは虎姫高校の先生で受験生の付き添いきていたもので、私も教えてもらったことがある。弟は結局合格し、私と同じ金大工学部電気工学科へ入学し、以後3年間同じ下宿で住むことになった。

3 / 14 (木) 2、3日天候は冬型に戻った。最後の降雪であってほしいと思う。本日、トレーニング。すもう場までも走れなかった。体力が低下していることは目に見えてわかる。春山まであと6日か・・・。

3 / 15 (金) 少し風があったが春らしい天気であった。明日は入試の発表か。春山ミーティングあり。春山も昨年より千円アップの6千円となった。シュラフも千円アップとなっている。ザックも値上がりするだろう。どうでも良いが。井村にニッカズボンたのんでおいた。

3 / 18 (月) 春山買い出し。バスの便の都合で白山下から足。A、B、C隊によるポーラー。七倉アタック。C、L、川端、A・・・北川、B・・・川端、C・・・金森、アタック隊長・・・中野となっている。

\* 以後日記は約9ヶ月の間、ぶつりと途絶える。この春山に関する記録は少なく、アルバム内(写真もなし)にも以下のように3行程書いているだけである。35周年記念ベルクハイム誌によれば養蚕小屋の使用も前年で最後のようだし、どこでどうしたのか思い返してみても全く記憶のかけらもない。

74 春山準合宿 於 青柳新道 Members 北川、中野、渡辺、横井、坂井、井村、津島 七倉アタック成功、中野君がアタックリーダーとして頑張った。

#### 執行部～退部～OB篇

(昭和49. 4～51. 3)

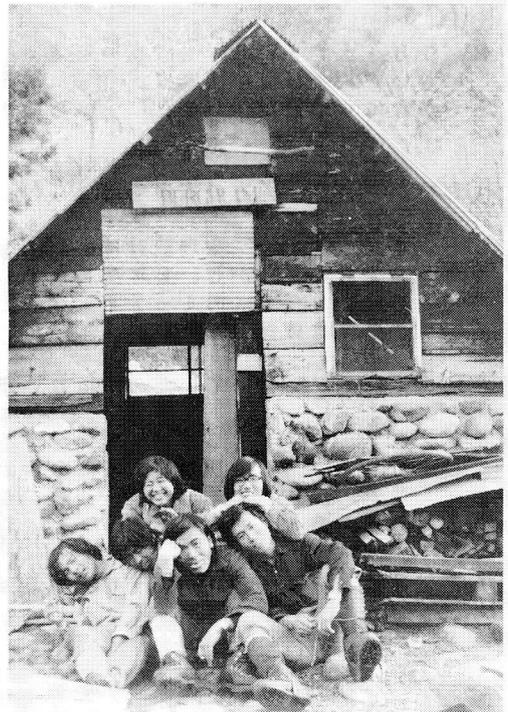
昭和49年12月2日(月)

なんと長い沈黙であったろう。約9ヶ月の期間この日記と顔を合わせたことはなかった。いろいろあった。春山は成功のうちに終わった。

- 4月・・・P. W. 中止
- 5月・・・奥池～B. H.、新トレ
- 6月・・・結団式
- 7月・・・合宿(連絡先)
- 8月・・・山小屋作業
- 9月・・・大学院受験→失敗
- 10月・・・奥池～B. H.
- 11月・・・直海谷P. W.

昭和49年5月

改築直前のBH(一代目)をバックに。



大学院の試験は大失敗だった。何せ毎日麻雀ばかりやっていたのであるから当然だ。その失敗が最近焦りを覚えさせる。

\*ここでは主な出来事のタイトルのみ書き綴っている。驚くべき事にこの約4ヶ月後にはなぜかまた以下のように各内容のアウトラインも綴っているのである。まだ書き留めようという気持ちがあったのだろうか。

昭和50年3月8日(土) 今日には本当に春めいた良い天気であった。約1年間のブランクであった。もっとも前頁に少し書いておいたが。昨日で卒研も一応発表までこぎつけた。しかし自分としては半年間はたして何をやってきたのか、全くわからない。題目だけでも記しておこう。「デジタルアナログ混合回路によるフィルタの研究」  
1年間をさっと思い返してみると  
3月は春山であった。アタックも大成功。中野の姿が目に見えかぶ。

4月、この月はたしか疲労気味。いや、やる気がなかったのか、P. W. を中止させた。Membersには弁解の余地もない。4月の終わりに松岡と2人で偵察に強行軍で奈良岳まで行った。途中、カモシカを見かけたのが印象深い。

\*中止したのは内尾～中宮P. W.

5月はじめの頃 奥池～B. H. P W参加。Members. L. 松岡、中野、横井、七間、津島、浜

1500m級の山々はもう春の匂いを漂わせていた。少々茶色の色をした、黒いゴミのようなものが付着したザラザラの雪の上を歩く。日は暖かい。風はそよ風。なんともいえない満足感である。大笠山まで行った。いい山である。それに見越山北峰からの大グリセード。見越、高三郎間は少々bushで苦労する。Berg Heimも夏休みには改築される。我々は最後であったかも知れぬ。

5月下旬 新入生トレーニングの時期。渡辺君の所で参加した。ダムより眺めた高三郎が美しかった。新道を利用してピークまでワンデリング。前のP. W. のときよりもぐんと雪はへる。ピークに少しあっただけである。あいかわらず見越、奈良、大笠、白山、奥三方、口三方等どんとそびえている。また情熱がわく。

\*奈良岳で1日沈殿している。気に入っている写真の1枚がこの時の奈良岳より眺めた日の出(ちょうど立山の上から出ており、雲海と周りの残雪との調和がすばらしい)である。又、今よりも急な屋根の角度を持つ改築前のベルクハイムの姿が懐かしい。

6月は結団式である。渡辺君のパーティとあいなった。「黒平」という名であったろうか。しかし合宿中は金沢の連絡先として居残った。合宿トレの一回目、高三郎989Pには参加した。

7月、夏合宿の最中。自分はこののんと暮らしていた。

8月下旬、ブラックとコーラをかついで雨の中一人で、ずぶ濡れになってBerg Heimへ。1日で帰る予定が毎日飲んで、食って、仕事して5日間ほどいる。オロロに苦労する。第2期より第3期と居る。

\*8月18日着工、9月8日竣工となっている。昭和39年当時の約半年以上にもわたる大建設工事には及ぶべくもないが、短期集中的に全部員の参加で行われたことは意義のあることではないだろうか。私は大学院の試験を控えてあまり関わらないようにしていたのだろうが、そうはいかなかったようだ。20数年を経た今も特にパットレスを中心とした骨格部分がこれといった異常もなく現存し続けているのは、当時土木工学科に籍を置いた同期部員達のたぶん頭を悩ませたであろう計算が正しかったことを証明するものであろう。

9月、大学院試験、自分ではできたと感じたが落ちてしまう。

\*試験に落ちたのは冒頭には麻雀ばかりやっていたと書いているが、ここではBerg Heimのせいにしておこうと思います。進学しようと思ったのは、今まで部活動が忙しすぎて(?)ほとんど勉学というものをしておらず、これではいかんと思立ち、何か一つでも研究らしきものをしようと思断したからです。一見立派に見える息子を前にして、金

のことは心配するなと親父が言ったような気がする。

10月、奥池～B. H. P W

Leaderとして参加。Members 村池、早川、四方、小野、藤原  
山々は季節ごとに異なった様を呈する。1秒1秒にも違っている。今回は新人3人とともに実施。我ながら無茶をしたとも感ず。見越で金森、中野と出会う。ここのbushにはまいった。仙人岩と大笠とを眺めた。新しいBerg Heimに到着して安心する。亀虫の多いことにびっくりする。2年合ワンの準備とかの草刈りを手伝う。2年生が少ないのも奇妙なことである。Berg Heimでは、はでに飲んだ。しかし感心しますねえ、我ながら。

\*半年遅れの新トレである。執行部もかなりオープンだったのだろうか。奈良岳登山口、ワングル平で各一泊、ベルクハイムで2泊。1ピッチ60分といい新人にはかなり苦労させたらしい。

11月、勉強の方はさっぱり。直海谷のP. W. 参加。L. 津島、川端、佐野、達磨一応、初冬といえるであろうか。959まで行く。そこで雪は30cmくらいであった。冬山がなつかしかった。改めて感じた。口三方は近くて遠き山だなあと。

12月29日 中野宅訪問。川端、金森、山内。いろいろお世話になった。栗原温泉から汽車に乗る。

\*年末だしそのまま一人西へ向かったのだろう。

1975. 1月16. 17日 大学院試験、合格してよかった。

そして今3月。月日のたつのは早い。

\*進学ではあるが一応卒業式にも出席したはずだが、何の感想も記録していないようで情けない限りである。これ以降約10ヶ月もまた記録なし。

今、また年が明けたのである。1976年1月の18日(日)である。

75年4月 高三郎を眺めてP. W. 参加。村池、横井、七間、渡辺のメンバー。  
口三方のピークで雪盲にかかる。

5月 連休、祖父江氏、井上の3人で内尾～B. H. 13時間踏破。雨まじりの雪が冷たかった。しかし、見越山のグリセードはいつもながら良い。小屋作業の連中を手伝う。

5月31日 追悼山行参加。

7月中旬 井上と白山山行。2泊3日。南竜でツェルトかぶって板の上で寝る。次の日は御前峰の社でウイスキーをがぶ飲みしながら寝た。

\*2日の夜は非常に激しい雷鳴の一夜であったと思う。翌朝、ご来光を拝みに登ってきた人たちが社の後ろで朦朧としている我々に気づかずに手を合わせていたようだった。

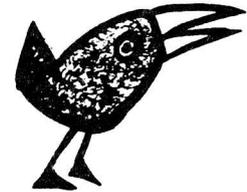
8月上旬 北アルプス山行。川端、井上の3人。リーダーとして参加。

\*濁～烏帽子～野口五郎～双六～笠新道～新穂で半沈含み4泊5日。笠ガ岳ワンデリングには私は行かず、笠新道も2時間でぶっとばすなどでパーティ内に一時険悪なムードが漂った。

11月連休 1人でベルクハイムへ。この時金森らは白山へ行って飲んだんだと。俺一人ついてないか。

\*同窓会のようなものをやっていたのだろうか？

12月20日 虎校追いコン。



12月29日 ワンゲル16期忘年会。金森、林、井上不参加。

12月31日 宇野氏の車で帰る。同乗者 間所、渡辺、山田  
越前海岸がよかった。

\*まだ北陸自動車道なるものは利用できず、ずっと8号線を帰ったのだろうか。

1976. 2. 29 (日) もう2月も終わってしまう。昨日は春一番だろうか。気温も20度まで上がり半ば狂ったようであった。卒研のほうもそろそろ大詰めである。自分の研究も題目が変わりたいへんである。大学院生の発表が23日にあった。間所氏ももう少して金沢を離れてしまうのであろう。

24日は夜、宇野宅へ。間所、堀、山田居る。その後間所宅へ。久々に麻雀。徹マンやり朝の8時すぎから犀川ダムへ。道は除雪してあった。ダムの近くはまだ1mぐらい雪があった。天気もよく高三郎もくっきりその白い稜線を太陽に向け光らせていた。ダムの水面には雪が半ば氷のような状態でびっしりついていた。今までも行こうと思えば冬でも行けたのだろうが、今回初めて訪れたのは少し興味がある。帰ってきてテックでモーニングを注文した。

26日はこれまた久しぶりに部室へ。実は川端に会いに行ったが法文には居なかったの。杉本と兼六園をブラブラ。この日もよい天気で医王山が良く見えた。その後、珈琲館へ。松岡と1年生が居る。ここで大決断。4月のP. W. にのった。尾添尾根である。

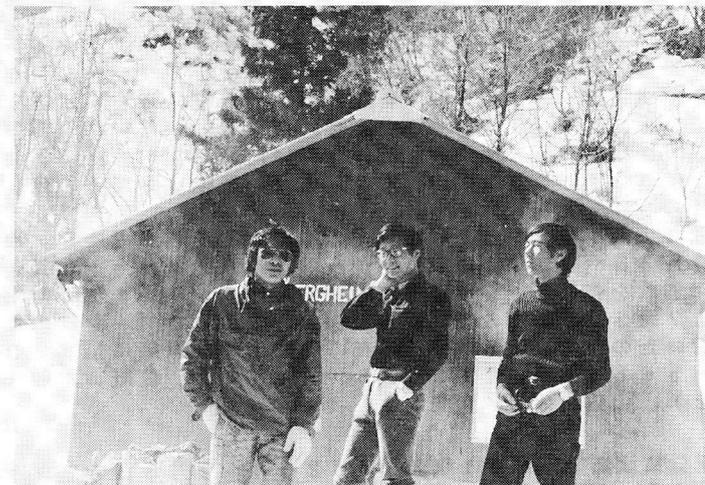
\*時たまOB面して部室にも顔を出していたのかもしれない。日記は1976年3月27日をもって終末をむかえるが、この4月のP. W. に関する記録は、たとえば35周年誌などをみても発見できずお流れになったようだ。

1976. 3. 27 (土) 3月初め 大日へスキー 高嶋先生、森本、田中

3月半ば 牛岳へスキー 上田氏、森本、田中、常陰

3月13~16日 OB 春山、Members 坂尻、宇野、川端  
ダム→大倉→赤堂→月ヶ原→多子津→大門→赤まきこ→見越→高三郎→B. H. →金沢  
俺もよくやるよ、いつまでも飽きもせず。しかし、体調不十分。背中痛み、ひざの痛み。でも顔が黒くなっただけたくましくみえるかも。4月の尾添尾根P. W. などにのっているアホであるが、どうしようと思った。川端君とはもう最後の本格的山行となった。

\*この時、写真によれば  
ベルクハイム周り残雪は  
ちょうど基礎石垣の上近  
くまである。



3月21日 下宿の親父さんと京都までドライブ。湖西を運転。DX東寺へ行く。

\*確か深夜に行ったと記憶している。今津あたりでかなり雪が降っていたと思う。

3月26日 金大卒業式。この夜、森本、上嶋と飲む。彼らが出してくれた。俺は文無しだった。上嶋は金沢にいる。森本は川崎である。その後、間所宅へ。スキー靴をいただく。雪焼けた顔が笑っていた。そう硬くでもないけれど握手をして別れを告げた。また遊びに来てください。お世話になりました。

3月27日 朝、TELがある。川端からだ。今日金沢を去るという。車で行くというから見送りにも行けない。敏明と山内が部室に居たようだ。元気に頑張ってくれ。ともに過ごした青春の思い出はいつまでも心にあるだろう。何かあいそのない別れ方のような気もするが、死ぬまでには何度か会えるだろう。その時には飲んで騒ごう。身近な4年生もみな消えた。なぜ俺はまだ残っているのか。やはり友人がだんだん減っていく寂しさを感じざるを得ない。今さら一つ一つの思い出を蒸し返すことはしない。いつぞや君たちをふと思い出し、しばらく陶酔に浸るにちがいない。君たちもそうだろう。君たちとの行動、討論、ダラ話、生活のほとんどが、みな一人一人の心の礎石ともなっていく。世の中友人が居るといふことはすばらしいことだ。

さて本日16期生の同窓会が催される。川端が不在なのがちょっとおもしろくないが。驚くなかれ中野と金森が舞い戻ってくるという。楽しいことである。塚本、英、小林、川端諸君の成功を祈る。会は6時からの予定。現在文無しで中野君に一時借りようと考えている。

\*いよいよ別れの段になると何やら訳の分からない感傷的なことを書いているようです。この頃は、毎年のように同窓会らしきものをやっていたのだろうか。さて、最後の2年は日記とは呼べないかもしれないが、昭和43年(1968年)より約8年にわたりつけてきた私の日記もこの日をもって完結してしまいました。ここで日記からの引用は終わりですが、76年についてアルバムの余白に山行のちょっとした記録がありましたので引き続き掲載させていただきます。

5月連休 B. H. に入る。16期はただ一人だったが、たくさん小屋に居た。残雪の高三郎へ登る。旧道下山中、この時は小屋作業の数人も一緒だったが道に迷い、20~30分立ち往生した。少々の雨、ガスもあったが積雪期、残雪期には要注意である。

7月28、29日 白山にて第2講座キャンプ。精神的苦悩の多い山行であった。上ではたくさん出会った。山内、英、敏明、松岡、長田、吉田、亀田など。

\*電気科第2講座は高嶋先生をはじめとして10名。上で出会った面々はどういう集まりだったのだろう。

8月31日~9月2日 ワンゲル平、山小屋作業参加(作業はせず)

31日 午後2時、坂井と金沢出発。午後3時ダム出発、もろにブッシュ。午後4時30分新道取付。6時、分岐、ロボット観測所までワンデリング?、40分ほどロス。午後9時、高三郎一峰ピーク着。新道と旧道の分岐(知らずに過ぎてしまったが)からピークまでひどいブッシュ。いやになるぜ。雨こそ降らないが、露でズブ濡れ。二峰をふうふう登る。次は三峰だと頑張る。三峰へ着いた。ワンゲル平のテントは見えない。最後少し右へまがり、左へ登り気味に行く。見えた。午後10時40分。テント内唾然!!12時過ぎに寝る。

9月1日 昼食をとどけに行くのについて見越までゆく。冷たい雨だよく降る。

9月2日 見越頂上で奈良岳からの作業隊(横井ら)と貫通式。13時30分ワンゲル平に別れを告げる。もう完全に最後であろう。一峰まで一時間。旧道を下る。B. H. 着が17時30分。その後、坂井、横井、藤原らとブッシュのなかを帰る。ダムより車で家に着いたのが20時30分。現在、吹き出物と胃痛に悩まされている。お世話になったMembersを書いておこう。L. 村池(4)、佐野、木村(3)、栃尾、佐治、立浪(2)、山口、岩田、青崎(1)

\*記録によると昭和51年度、8月28日~9月3日の夏季作業であり、夜行登山とまでは言えないが、かなり無茶をした上でおしかけていたようだ。これ以後B. H. は追悼山行か何かで訪ねたようだが、それより奥には足を踏み入れることはなかった。ちょうど20年たった96年の山小屋酒場で旧道の900m近くまで久しぶりに登ったのである。それも手に鎌を持ちながら。

## エピソード

着手以来やったりやらなかったりで約10ヶ月を要してしまい、結果的には全くダラダラと綴ってきてしまいました。未発表の部分では恋愛篇などというものもできなくなかったようですが、これは読者の強い要望があれば10年後か20年後（OB会があるか、生存も不明ですが）にしましょう。初めにも書きましたが、読者の方々がほんの少しでも当時の、あるいは学生生活やワングルの共通の記憶を蘇らせていただければ、恥ずかしながらも公開した甲斐があったというものです。ただし、その場の状況によっては今からでも遅くはありませんので、筆者同様に悔い改めて懺悔をしていただければと思います。

なお、もう一度大学生活を送るとしたらどうしたいかという質問があれば次のように答えたいと思います。『勉強の妨げになるクラブ活動などにはわき目もふらず、麻雀・パチンコ・酒・タバコは一切やらず、ただひたすら学問道を歩み、単位の一つの取りこぼしもなく優秀な成績を修める』と。

最近の青年達のもの考え方や気質については私自身よく分からないが、私共とはきっと多くの面で異なってきたと思う。したがって学業やクラブ活動、バイトなどの在り方あるいは地域との接し方も変化しているし、今後も変化しつづけるだろう。そんな中で学生生活は就職までのモラトリアムではないといった考え方や単位認定の見直しに基づく大学の改革、あるいは近い将来すぐにでも来る少子化の影響などを勘案すると、ワングル活動の将来も先細り気味になっていくのではないのでしょうか。かといって私は私達の過ごしてきた時代の活動を正統化する気は全くないし、先細りになろうとも特に何もするつもりもない。私はたまたま当時の数年間ワングルに所属し、たまたま廻りにいた部員たちと活動を共にしていただけなのだから。

そして今、平成10年7月。月日のたつのは恐ろしく早い。先のことはわからないが、過去のことは思い出したり懐かしんだりできる。たとえば、これまでやってきたように日記やアルバムによっても。しかし、もっともっとストレートで実感的な方法の一つは古い顔たちにベルクハイムで会うことである。ベルクハイムというタイムマシンによってそれを瞬時に20数年前へのタイムスリップを味わえる。ただし、よく行っても年間1回位のことであるから私にとってもあと何回この船に乗れるかはわからないが。

完

P S

会誌の貴重なスペースを提供していただき誠にありがとうございました。読後の感想、ご意見、あるいは特に筆者の記憶の空白部分を埋めていただけるような記事などがありましたらOB会までお寄せいただければと思います。  
辺（かたいなか）、留（とどまる）、俱（ともにみな）、輩（なかま）、夢（現実から隔絶した雰囲気）。





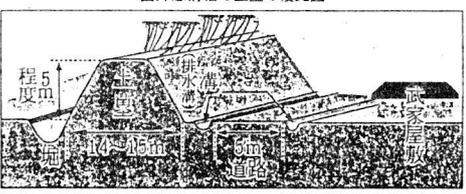
前田利常像(成業開城)

# 利常 城下町仕上げの築造

# 土塁の遺構出土



西外惣構場の土塁の復元図



西外惣構場の内側に築かれた土塁や遺構の遺構が確認された発掘調査現場(台線内が土塁の遺構)

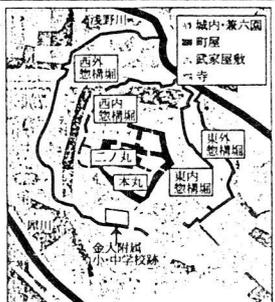
金沢市広坂二丁目

## 慶長年間 幕府と険悪、防御線にも

土塁が見つかったのは広坂の築城高き三十四坂の南端部で、現在は土を埋め立てられて、水が流れている西外惣構場。今の堀はかつては、土塁の内側には、深さ約二十センチの排水溝が掘削され、武家住宅とわが土庫敷地の間に、土塁を築造する際に往來する砂利道が続いていた。

## 西外惣構堀 高さ4—5米裏付け

金沢市埋文センター



金沢城下町に造成された惣構堀(石川濃政の「金沢城跡遺構調査報告書」より)

平成十年の金沢市緑式ワザシエルターを「石垣の解体が進むにつれて、石垣の裏に詰め込まれているのが、石と石と呼ばれる小石だけでなく、土やニール製、五間長屋と構や出土物の有無を確認するために、石垣の裏に詰め込まれた土を掘り出す作業が必要となってきた。

## 緑化フェアへ金沢城址発掘・復元急ぐ 積雪期も「突貫調査」

### 県ウエザシエルター活用

本多町三丁目から香林坊、長町を経て野川まで約二千八百メートルの約三キロにわたる、約二百メートルの長さの遺構を、金沢市埋文センターが、西外惣構堀、東外惣構堀、本丸、二丸の区切りだけなく、堀の内側は、土庫敷地とわが土庫敷地の間に、土塁を築造する際に往來する砂利道が続いていた。

「日本海みらい」の調査結果、石垣の裏に詰め込まれた土を掘り出す作業が必要となってきた。

「日本海みらい」の調査結果、石垣の裏に詰め込まれた土を掘り出す作業が必要となってきた。

「日本海みらい」の調査結果、石垣の裏に詰め込まれた土を掘り出す作業が必要となってきた。

OB各位

平成11年～平成15年までの

## OB会費納入についてのお願い

OB会会計 鳥越 伸博 (23期)

40周年記念事業も天候にも恵まれ、盛況のうちに行うことが出来、これをもって、5年間のOB会活動を無事終了することが出来ました。これもひとえに非常にたくさんの方々のOBの方々から、OB会費を納入いただいたからに他なりません。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げる次第です。

さて、OB会の新たな5年間のスタートするわけですが、向う5年間のOB会費につきましては、先の総会で承認の通り、従来と同じとさせていただくことになりました。皆様方には、不況・リストラの嵐の中、ご負担をおかけしますが、何とぞOB会の趣旨にご賛同いただくとともに、再び多数のOBの方々からの会費納入が、OB会運営の基礎となることをご理解いただき、下記の通り納入下さるようよろしくお願い致します。

### 記

1. 金額 年2,000円

ただし、事務負担軽減のため、5年間の一括先払い(=10,000円)にて納入いただければ幸いです。

2. 納入方法 同封の用紙にて、郵便局から振り込んで下さい。

なお、今回から銀行振込でもOKです。その場合には下記口座宛振り込んで下さい。

振込口座 北国銀行 本店 普通預金 口座番号223703

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

(注. 銀行振込の時は、自分のお名前の前に「期」を記入下さるようお願い致します。

例：23期 鳥越 伸博)

以上

OBスキー合宿 野沢温泉  
2月27日(土)・28日(日)

27日夜、リゾートハウス「ふるさと」2部屋押さえました。

お申し込みは OB会事務局 舟田節子 ☎076-222-9288

または、 奥名正啓 ksc-okuna @nsknet.or.jp.

ma--okuna @pa2.so-net.or.jp

(リゾートハウスふるさと 長野県下高井郡野沢温泉村6556

☎0269-85-2241

FAX 0269-85-3940)

## OB一言通信追加

こんなはずではなかったのに…ページ打ちを終えてからも待つことン月。年を越してしまいました。ホントニモウ…、コンナ…。

そうなのです。これまで先輩が会長様でしたので、グチを控えておりましたが、今では同期。連絡のついでにグチのこぼし放題です。うちにあっては女房のグチ、外(?)にあっては事務局長のグチ…こんなはずではなかったですよ。会長を潰さない為にも、締切は守ってほしいものです。

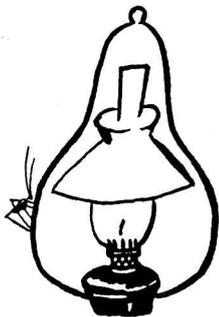
という訳で、年賀状の一部も紹介できることになりました。

中山 美津枝 7期 (ご夫婦連名)

鞍掛山、白山、大嵐山、宿の岩(以上石川県) 灯燈山、鬼が岳、さざえ岳、西方山(以上福井県) 牛岳、大日岳(富山県)、火打山(新潟県) 高妻山(長野県) 大山(鳥取県) 以上が昨年踏破した山です。腰痛に悩まされながらも、登山、スキー、水泳とまだまだ大丈夫です。今年はイブサム購入で、車の中で女房と寝泊りしながらの山行きを楽しんでいます。

山村 嘉一 8期

久し振りにテントかついで白山へ行ってきました。良い年になりますようお祈り申し上げます。日頃の御無沙汰お詫びいたします。本当にお世話様です。



山内 政司 16期

先日はお世話になりました。久々に皆さんの顔を見、なつかしさと、若い顔が多いのに恐れを感じました。今後ともよろしく願います。

大西 正明 18期

家族共々名古屋に転居して9ヶ月になります。妻も子供達も新しい土地に慣れてきたようです。私は体脂肪を減らすべく、今年は登山とテニスに励みます。仕事は励まない。

大変大変遅れましたが、40周年記念の写真をお送り頂きありがとうございました。言い訳しません。単なる筆不生です。参加してよかったですと思います。一瞬ではありましたが、青春に戻った気がしました。OBは懐かしかった。現役はかわいかった。

松下 和隆 早苗 20期

2年ぶりです。お元気でしょうか。おやじが亡くなりちょっとごたごたしていましたが、だいぶ落ち着いてきました。おふくろとも同居することになり新風が家の中をかけ巡っています。OB会も時間を作ってまた是非参加したいと思っています。よろしく。

辻村 善徳 25期

今年は家族が一人ふえて賑やかな正月になりそうです。昨年はさすがに山に一度も行か(け)ず、大学以来のことでした。今年はそれをカバーするように是非山へのお誘い願います。

高木 美保 29期

5月に赤ちゃんが生まれ、家族が増えます。本年もよろしく願います。金沢に行きたくて行きたくて。



「KUWV万歳!」「バンザイ!」

## 夏合宿の一言感想

### 北アルプス ( )

- 3回生 L田村 雨で船に乗れなかったのは残念だったが要所要所で晴れてきれいな景色を見ることができて良い山行だった。
- s L河村 天気が悪いなりに良い山行だった。
- 2回生 越前 合宿後、剣岳がTVに映っていてあんな所良く登れたなって誇らしげな気分になった。楽しかったヨ。
- 坂本 後半最高。前半最悪。
- 志賀 最初のほうは天候が悪くて思ったような景色は見れなかったけれど最終的には天気が良くなって、最初悪かった分まで思いっきり景色を堪能することができた。
- 1回生 小倉 晴れて良かった。
- 加藤 立山に行く手段として黒部のアルペンルートを使って良かったのか悪かったのか…。でも雄山神社の御払いで天気が良くなったのには感動した。
- 田中 いい経験ができました。

### 北アルプス ( )

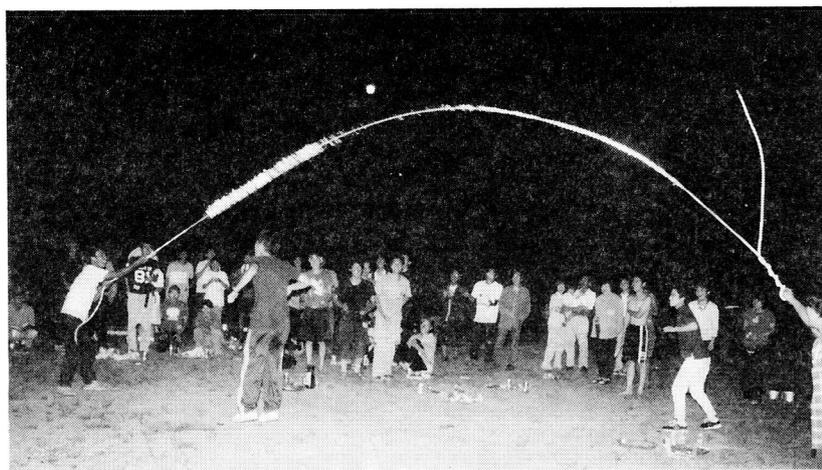
- 3回生 L森田 3年連続完全制覇ならず。残念。
- s L竹内 1週間ずっと雨という厳しい環境の中で登山とは何かということをもう一度考え直した山行であった。
- 2回生 伊藤 天気が良くなかった。
- 笹田 来年は晴らす。必ず晴れさせる。晴れなかったら晴れてる所に行く。
- 中内 ずっと雨だったけど、晴れたときは良かった。
- 1回生 阿納 天気最悪。
- 清水 森田先輩の雨パワーは凄い!
- 杉村 得るものがあったし実際得た。
- 谷上 雨ばかりでありきれいではなかった。

北アルプス ( )

- 3回生 L林 来年は小槍に登る。  
s L佐藤 怪我・風邪とぼろぼろになりメンバーに迷惑をかけた。申し訳ない  
つす。  
谷本 槍に登れて悔いなし
- 2回生 石川 天気悪かったな  
角谷 雨が……。
- 1回生 奥野 朝飯がご飯と味噌汁だけとは力が出ないので改善を。わずかに晴れ  
た時の西岳から見た槍ヶ岳がとてもきれい。  
村松 来年が怖いです。  
矢田部 天気最悪。

南アルプス

- 3回生 L市山 数々の困難が立ちほだかり泣きそうになりました。  
s L長谷川 疲れた。人生にも疲れた。  
得田 大変だったけどきれいでした。
- 2回生 久保寺 雨が降って後半が残念だったけど、去年行けなかった山に行けて  
良かった。  
矢内 天気はまあまあだったけど…。
- 1回生 井沢 しんどかったけどよい思い出になりました。  
大西  
芝 夏合宿の写真部屋に飾ってます。とっても良い思い出ができました。  
西脇 縦走したい。



大火縄飛び。出し物は火の競演、狂演、恐演。

## 40周年の一言感想

- 3回生 市山 残念ながら参加できませんでした。45周年は必ず参加します。  
 河村 なかなか不思議な行事で楽しかった。  
 得田 変な所をお見せしてすみません。  
 竹内 OBの方とキャンプファイヤーのそばで歌ったとき、WV部の歴史を感じた。  
 谷本 先輩方の生の声が聞いて良かった。  
 田村 昔のワングルのいろいろな話を聞いて良かった。  
 長谷川 見てはならないものを見れた。  
 林 芸がおもしろい。  
 森田 2代目ワングル（加藤親子）も誕生して良かった。
- 2回生 石川 OBの人との親睦が深まって良かったな。  
 伊藤 芸がおもしろかった。  
 越前 おもしろいものを見た。  
 久保寺 ビックリ！  
 坂本 フリチンになってすんません。  
 笹田 いい話が多々聞いてとてもためになり申した。  
 志賀 歴代ワングルの人たちは飛びぬけた人が多くて驚きましたが、一緒にお酒を飲んでいろいろと話をしてすごくおもしろかった。  
 角谷 いいんじゃない。たのしかったよ。  
 矢内 こんな行事もあるんだなあ。エールもやった。
- 1回生 阿納 上の人を知れた。  
 小倉 思ったより楽しかった。  
 加藤 上回生の方は面白い人だった。  
 清水 「ファイヤー！」byもと竹内先輩の弟子清水  
 杉村 出たし、出て良かった。  
 田中 楽しかった。  
 谷上 上回の方がたくさん来ておもしろかった。  
 藤井 第七ギョーザの恐怖。  
 村松  
 矢田部 仕事をしなかった。



人間火炎車！上43矢田部 下43奥野

差出人：前田達男 <maeda330@kenroku.kanazawa-u.ac.jp>  
宛先：'奥名' <ksc-okuna@nsknet.or.jp>  
日時：1998年12月15日 10:27  
件名：KUWV Winterreise

---

ワングル顧問の前田です。  
ワングル98年冬合宿の計画書が届きました。

【日程】12月26日(土)～28日(月) 2泊3日、予備2非常1

【山域】荒島岳(福井県大野市)

【行程】

初日(12/26)

金沢(03:00発)-(バス)-荒島岳登山口-水郷-おおばこ展望台-小荒島-石楠花平

2日目(12/27)

石楠花平-荒島岳-石楠花平

3日目(12/28)

石楠花平-勝原スキー場へ下山 - 金沢

【Party】

CL: 森田善文(工学部・機械) CSL: 竹内利行(工学部・物化)

PL(Party Leader):

(A)L河村浩之(経済学部) sL市山祐司(理学部・地球)

(B)田村賢司(工学部・人機)sL佐藤豪一郎(工学部・土建)

(C)谷本愛(医学部・保健) sL林 司(理学部・計算) いずれも3回生

各パーティ8名の24名ですが、[C]partyには顧問・前田も厄介になる予定をしているので最大時9名になります。3回生 8名 2回生 6名 1回生 10名

【連絡先】

金沢大学学生課 (076)264-5155 時間外=小林専門職員宅 (076)263-0684

部員 長谷川夏樹 (076)232-1291 (050)632-4927

得田馨理 (050)633-4141 (076)276-0077

顧問 前田達男 (076)222-5587

※ この計画の特色は、従来までの初日=水郷泊をやめて、一気に石楠花平(少なくとも、「おおばこ展望台」過ぎ)まで進むこと、そのことによって1泊1日の日程短縮。そのわりには、荒島に登ってそのまま下山するという計画線が予定されていないことでしょう。

前田達男 金沢大学法学部

920-1192 金沢市角間町

Tatsuo MAEDA Faculty of Law Kanazawa University

Kakumamachi, Kanazawa 920-1192 Japan

E-mail: [maeda330@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:maeda330@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)

Tel: +81-76-264-5379

Fax: +81-76-234-4067 / +81-76-264-5405

上記のように、前田顧問からのネットがつながり、奥名会長がHPに載せて...と現役の活動をリアルタイムでお知らせできるようになりました。特に夏山シーズン、登る予定の方はワングルHPを覗いてみられて下さい。どのコース、どのテントサイトに現役達が入っているかがわかります。差し入れを抱えて(なくても)お立ち寄り下さい。

## 編 集 後 記

「判決を下す！」と叫ぶや、半分パンツを下ろし、おケツベンベン…をやるひょうきん息子（誰に似たの！）が、この頃ようやく漫画日本の歴史を読むようになり、「流罪ってなあに？」と言う。

「それは、例えば政敵（これにも説明がいる）なんかを…」

語りながら、なんと悠長な刑があったものかと思う。あっさり刺し、あっさり飛び下りるこんな時代から見たら、あっさり毒殺し、あっさり不明の牢死としてもよかったものを…そういえば、どの教師も説明してくれたことはない。何故「流罪」なんて選択があったのか？当然息子は不思議そうに尋ねる。

「それは昔はもっとくたたり」というものが信じられていて、末代（これにも説明がいる）までたたられると困るという考え方があったから」

「特に天皇というのは殺してはいけないからねえ」（東宮候補は簡単に毒殺される）  
「うーん、政敵というのはそっちがいいという人も随分いる訳だから、殺すと反感を煽ってさらに戦争が長引いたり…。そうだねえ、殺さないということで、敵側の人間を従わせるメリットがあった…それだろうね。」

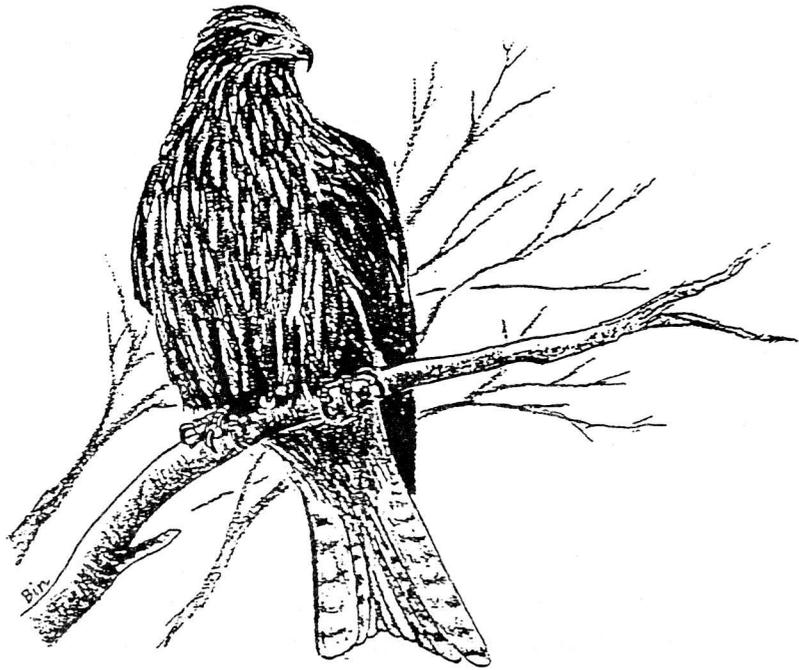
このところ金沢では、「前田家百万石を、NHK大河ドラマに」という運動が盛んである。江戸時代という慢性不況時代を、大藩のまま明治まで乗り切った智恵に学ぼうという訳である。北国新聞でも、その悲願支援の連載が続けられている。加賀百万石その20・利常夜話「流罪の義兄に米贈る」が11月25日付けで紹介されている。

関ヶ原敗戦後、利常の異母姉豪姫の夫宇喜多秀家（秀吉の養子待遇を受けた五大老の一人）は八丈島に流された。彼はかの地の厳しい自然の中で、関ヶ原の勝者の誰よりも長く生き、84才で死ぬ。前田家は初めはひそかに、利常の代になり許可を受け公然と、その後明治維新まで約260年に渡り援助を続けた。明治2年、御一新による恩赦でようやく秀家の子孫達は帰京する。この時にも下屋敷内に住居を与え、独立の際には多額の資金まで提供しているという。

<富強を誇った利常の時代はともかく、藩財政が火の車になった後でも、加賀藩は八丈島の流人に対する「無駄」な支出をカットしようとはしなかった。慣例を墨守したと言えばそれまでだが、藩祖利家の律儀と三代利常の鷹揚が作り上げた藩風と言えるかもしれなかった。>

先祖の咎で260年も島にこもり続けた子孫も子孫なら、幽霊のような親戚達への支援を断たなかった人達も人達である。

一夜にして50億円を失った男が報道特集に流れている。260年に渡る仕送りを続けた藩の伝統残る金沢は、雪に埋もれようと、律儀で、鷹揚で、温かい。KUWVのKは、関西でも、近畿でもなく、百万石の「金沢」なのである。（でも、やはり先立つものが…ご協力をお願いします。）



OB会報「やまぎと」 10号  
( '98冬号)

発行日 平成11年1月

発行者 奥名 正啓

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

編集責任者 舟田 節子

事務局 ☎920-0911

印刷 プリントショップ多田

金沢市橋場町10-49 (舟田 節子)

☎076-222-9288

[www02.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/](http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/)

奥名 正啓 [ma-okuna@pa2.so-net.or.jp](mailto:ma-okuna@pa2.so-net.or.jp)

名倉 均 [nagura@wnk.njk.co.jp](mailto:nagura@wnk.njk.co.jp)